福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校　SGH研究成果発表会

1　目 的

本校での探究活動を中心としたスーパーグローバルハイスクール(SGH)の活動について、これまで実践研究してきた5年間の実践報告並びに公開授業を行い、研究成果を広く校内外で共有する。また、来校者による多方面からの意見をもらうことで、今後のSGH・探究学習における事業改善を図るとともに、「深い学び」を実現するための一助とする。

発表会テーマ

探究をつなぎ、未来へつなぐ

2　日 時　令和2年2月4日(火)10:15～15:45

3　日 程

	時間/内容	
	9:30～	受付【地域協働スペース】
第Ⅰ部	10:15～10:25(10)	開会行事【協働学習ルーム】
	10:25～11:25(60)	学校概要説明・SGH研究成果説明
	11:25～11:35(10)	移動
	11:35～12:25(50)	公開授業　2年【各教室】/1年【みらいシアター】
	12:25～13:20(55)	昼食・休憩【各分科会会場等】
第Ⅱ部	13:20～14:10(50)	代表生徒発表【みらいシアター】
	14:10～14:25(15)	移動
第Ⅲ部	14:25～15:45(80)	分科会【各会場】※ 次頁参照
	15:45～	終了
第Ⅳ部	16:00～16:30(30)	校舎見学(希望者)【協働学習ルームより】

※　電車時間　広野駅着(下り)9:44　広野駅発(上り)12:47、14:22、16:19、17:21、18:36

4　第Ⅰ部～第Ⅳ部の内容

【第Ⅰ部】開会行事・公開授業

(1)　開会行事次第　10:15～10:25 (10)

①　校長挨拶

②　開会の挨拶

③　日程確認・諸連絡

(2)　学校概要説明・SGH研究成果説明　10:25～11:25 (60)

(3)　公開授業　11:35～12:25 (50)　4校時　産社・総学

2年総学(探究活動)/プロジェクト実践③

1年産社(探究活動)/調べ学習アワード

【第Ⅱ部】代表生徒発表

13:20～ 13:45(25)	「双葉郡のイメチェン」3年　鶴飼　夢姫（メディア・コミュニケーション探究ゼミ） 震災後のイメージを新たにチェンジ。既存の商品開発を分析し、木戸川でとれる鮭を使った新しい商品開発を通した実践を発表(15)/質疑応答(10)
13:45～ 14:10(25)	「地域交換留学」3年　渡邊　美友（原子力防災探究ゼミ） 全国の高校生と双葉郡の高校生を繋ぎ、地域課題や未来について交換留学形式で学ぶプログラムを作り、実践したことについての発表(15)/質疑応答(10)

SGH(Super Global High-school)
Producing global leaders to accomplish revitalization after the nuclear disaster
福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校
〒979-0408 福島県双葉郡広野町中央台1丁目6－3
https://futabamiraigakuen-h.fcs.ed.jp/
ifutabamiraigakuen-h@fcs.ed.jp
0240-23-6825

【第Ⅲ部】分科会

第1	総合的な探究の時間の指導法 ～探究プロセス～	生徒が主体的な深い探究に取り組むための授業展開や、探究ステージに応じた教員の関わり方等について考えていく。
第2	総合的な探究の時間の評価 ～探究ルーブリック～	多くの学校でも実践するルーブリック評価について、総括的評価と形成的評価の取り組みを紹介する。また、効果的な生徒へのフィードバックの方法や今年度行った改訂への取り組みについて紹介し、参加者と検討する。
第3	総合的な探究の時間での協働 ～地域協働・外部連携～	生徒一人ひとりが持続可能な社会の担い手として社会の成長を生み出すためには、開かれた学校づくりが期待される。外部リソースのより良い活用法について議論する。
第4	グローバル教育	日々行われる英語科の授業における取り組みに加え、「海外からの留学生の受け入れ」、「NY研修」(国連でのディスカッション)、「ドイツ研修」等の実践報告などグローバル教育について情報交換する。
第5	コミュニケーション教育・シティズンシップ教育	対話を通して違いを乗り越える演劇を通じたコミュニケーション力や思考力育成の可能性について情報交換する。
第6	主体的・対話的で深い学び ～指導力向上～	「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて、教員研修など教科の枠を超えた体系的な指導力向上の取り組みや、教科を横断した授業「クロス・カリキュラム」の挑戦について情報交換を行う。

5　アンケートについて

以下のURL　または　QRコード　からアンケートにお答えいただき、率直なご意見・ご要望をお聞かせください。また、本校HPにもリンクされています。

https://futabamirai gakuen-h.fcs.ed.jp/

{URL}　https://forms.gle/8uCu4Kcmgvkh8SS6A

なお、アンケートの回答は統計的に処理され、特定の個人が識別できる情報として、公表されることはありません。何卒、ご協力よろしくお願いします。

6　昼食について

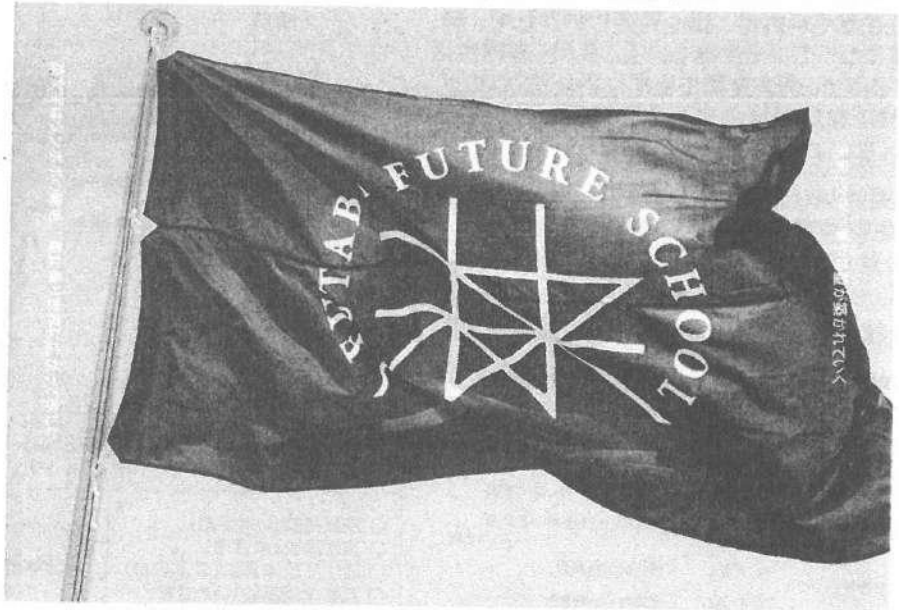
- アリーナ、協働学習ルーム、みらいシアター**以外**の場所で、お食事ください。
- 「Café　ふぅ」がご利用いただけます。また、セブンイレブン広野店による移動販売を12:25～13:00までアリーナ1前で行います。

7　配布した資料について

- 受付時に配布した資料については、**後日本校HPにアップ**致します。

SGH(Super Global High-school)
Producing global leaders to accomplish revitalization after the nuclear disaster
福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校
〒979-0408　福島県双葉郡広野町中央台1丁目6－3
https://futabamiraigakuen-h.fcs.ed.jp/
ifutabamiraigakuen-h@fcs.ed.jp
0240-23-6825

ＳＧＨ研究成果発表会
探究をつなぎ、未来へつなぐ



令和2年2月4日

福島県立ふたば未来学園高等学校

２１世紀に求められる資質・能力を育成する教育の実現へ向けて

① 育成する資質・能力を明確化する。

知識・技能　思考力・判断力・表現力等

各教科で育む資質・能力

学びに向かう力・人間性等

社会的課題に関する知識　他者との協働力　マネージメント力

創造力　教科横断的に育む「生涯にわたり能動的に学ぶ力」　発信力

前向き・責任感・チャレンジ　寛容さ　能動的市民性　メタ認知

ふたば未来学園では

ルーブリックの作成・活用

② 資質・能力を育めるような授業を創造する。

Ⅰ　主体的な学び

これまでの知識や経験、概念

各教科の見方・考え方の深まり

対話により多様な考えを知る

Ⅱ　対話的な学び

新たな知識や概念の獲得、次の問いや探究へ

Ⅲ　深い学び

ふたば未来学園では

・授業の創造

・演劇によるコミュニケーション教育

③ 総合と教科の往還により資質・能力を育成する。

探究　現実社会の課題解決

いかす　深める

教科　知識・技能　思考力等　学びに向かう力

ふたば未来学園では

現実社会の課題解決に取り組む探究。プロジェクト型学習

ふたば未来学園では

探究と有機的につながり、深める、新しいタイプの海外研修

1　地域と生徒の状況

○　生徒の出身地および生徒の状況

✓中学は2割、高校は3割強が双葉郡出身。他は県全域。

✓双葉郡出身者は原子力災害による避難で県内外に離散。

✓小学校低学年で何もわからないまま避難し、後に故郷に戻ることができた生徒もいれば、戻る見通しが立たず、避難先の方が故郷になっている生徒もいる。長引く避難生活や転校を繰り返す中で、力を発揮できずにいたり、心のケアが必要な状況も。家庭環境の変化も含め厳しい状態にある生徒が少なくない。

✓一方で、本校の先進的な教育を受け地域復興を担おうとする意欲をもつ生徒や高い学力の生徒が増えている。

✓特に高校は学力差が非常に大きい。

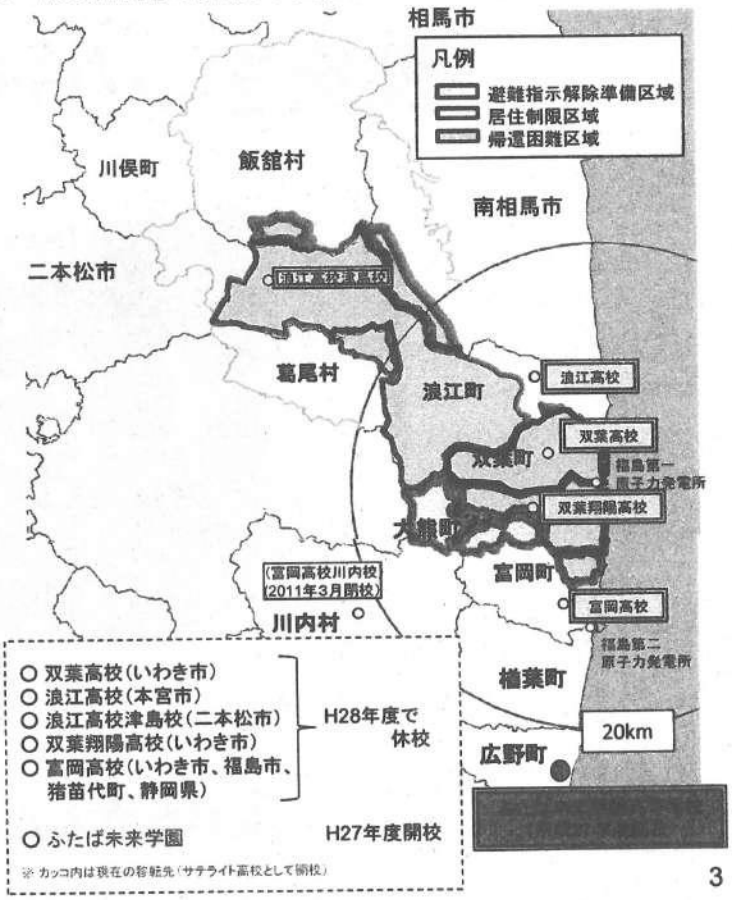
○　生徒の避難の状況（一期生の例）

	原発事故から入学までの移転
T. A 君★	いわき市
K. E 君	楢葉町→会津美里町
Y. K 君	広野町→いわき市→新潟県→いわき市→広野町
R. K 君	楢葉町→埼玉県→いわき市
Y. S 君	富岡町→茨城県
K. S 君	広野町→いわき市→広野町
T. N 君	広野町→静岡県→いわき市→広野町
R. N 君	浪江町→新潟県→二本松市→いわき市
A. M 君	双葉町→山形県→棚倉町→いわき市

	原発事故から入学までの移転
K. M 君	広野町→埼玉県→いわき市→広野町
T. Y 君★	白河市
T. Y 君	富岡町→千葉県→いわき市
K. I さん	楢葉町→いわき市→東京都→いわき市
H. I さん	浪江町→相馬市
T. T さん	楢葉町→いわき市
K. F さん	楢葉町→宮城県→いわき市
M. M さん	葛尾村→本宮市→三春町→郡山市

一例として野球部の生徒17名の避難状況を記載。
★は双葉郡以外の出身生徒

○　双葉郡内の高校の状況



将来の全国の地域が直面する課題が震災と原発事故により加速化、顕在化

↓

双葉郡、福島県は「課題先進地域」に

子どもたちの状況

原子力災害による避難で県内外に離散。

↓

心のケアが必要

一方で、ふるさとを取り戻そうとする意欲、高い志

長期化する避難生活、放射能との戦い、コミュニティの崩壊、分断と対立、偏見や風評

↓

原発事故特有の課題

地域の課題

↕

グローバルな課題（「持続可能な開発のための目標（SDGs）」）

↓

これまでの価値観を根本から見直し

↓

新しい生き方、社会の建設を目指す

理想とする未来を創造する力を育む

↓

これからの学校と社会の共通目標

地域の概略　（福島県双葉郡教育復興ビジョン）

○ 福島県双葉郡の県立中高一貫校設置に関するこれまでの経緯

- 双葉地区教育長会が主催する「福島県双葉郡教育復興に関する協議会」（平成24年12月設置）において、25年7月末に、県立中高一貫校の設置を柱とする「教育復興ビジョン」を決定・公表。県と双葉郡地方町村会との協議の結果、中高一貫校については平成27年4月開校とされ、設置場所については広野町に設置されることが決定。
- 双葉地区教育長会では、ビジョンの検討と同時並行で、「双葉郡子供未来会議」を実施。子供たちの考える双葉郡の教育として『動く授業』『世界とつながる』『夢を見つけるたくさんの「小さな窓」』等のキーワードが生まれた。
- 双葉地区教育長会主催の「双葉郡教育復興ビジョン推進協議会」（25年11月～）でビジョンの推進に向けて具体的な検討を行うとともに、県主催の「中高一貫校に関する検討会」（25年12月～26年6月）で教育課程等について検討。

福島県双葉郡教育復興ビジョンの概要

【総論】

- 震災・原発事故による課題や状況は町村毎に様々だが、8町村教育委員会は「いかなる状況下でも子どもたちの学びを保障する」姿勢で一致し、連携して今まで以上の教育を進める。
- 双葉郡・日本・世界の未来に貢献する人材を育成することを目指し、双葉郡の抱える課題の解決につながるとともに、魅力的で特色があり、世界に誇れる教育復興を進める。
- 上記の考えのもと幼稚園、小学校、中学校、高校、高等教育機関への接続も含めて一貫した考えで人材育成を行うことを目指す。

【中高一貫校の設置】

- 双葉郡内に進学先となる高校を確保することが必要である。6か年を効果的に活用するため、併設型中高一貫校を新たに設置することを求める。（区域外就学している中学生のための受け皿としての役割も果たす。高校段階では各町村立中学校からの入学生も受け入れる。）
- 大学に進学できる学力に加え、双葉郡復興に貢献し、世界でも活躍できる「強さ」を併せ持った人材の育成を目指し、アクティブラーニング、ふるさと科、留学等を取り入れた教育内容とする。
- 平成27 年度の開校を求める。国に対する継続した支援（ハード・ソフト両面）を求める
- 双葉郡の復興の先がけとして、①平成27 年度の開校に対応可能、②多くの子どもたちが就学可能（保護者の理解や交通の便）という要件を満たす南双葉に設置する。

2　ふたば未来学園の目指すもの　（1）教育目標、教育方針

震災と原発事故という、人類が経験したことがないような災害にみまわれた、わたしたちは、解決困難な様々な課題に直面

⇩

これまでの価値観、社会のあり方を根本から見直し、新しい生き方、新しい社会の建設を目指さなければならない。

【教育目標】

自らを変革し、
地域を変革し、
社会を変革していく
「変革者」を育成する

○ 『変革者』として必要な資質・能力を育成

- どんなに困難な問題に対しても、論理的思考力、課題発見・解決力、強い志と使命感を持って、何度失敗しても挑戦し続ける「主体性」
- 異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築し多様な主体と共に力を合わせる「協働性」
- 新しい生き方、産業、社会をつくりだしていく「創造性」

○ 目指す学校像

- 生徒が主体的に動く学校
- 失敗を恐れず困難な課題に挑戦する生徒を支え、応援する学校
- 現実社会の中で学ぶ学校
- 地域・コミュニティや世界と共に学ぶ学校
- 夢を開く窓がたくさんある学校

2　ふたば未来学園の目指すもの（2）育成する資質・能力

全教職員で、育てていく力を設定

2　ふたば未来学園の目指すもの（3）ルーブリック

	学力概念	No	資質・能力・態度（まとめると）	レベル1	レベル2	レベル3	レベル4	レベル5
協働	知識 Knowledge "What we know"	A	社会的課題に関する知識・理解 一般常識や基礎学力をつけながら、世界・社会の状況の変化やその課題を理解するための知識を身に着ける。	地域や社会の成り立ちについての基礎的な知識を得る。	地域の復興に向けた課題や、世の前の課題についての基礎的な知識を得る。	環境・エネルギー問題など持続可能な社会実現に向けた課題や、世界の状況・課題について基礎的な知識を得る。	社会の課題について、習得した知識を深耕し、関連情報や関連情報を集め理解する。	社会の課題について、世の前の課題と関係する知識を興味してつなげ、人に説明できるレベルまで理解する。
		B	英語活用力 英語を使ってのコミュニケーションができるようになる。	英語でコミュニケーションをとろうとする関心・意欲・態度を持ち、自分のことについて英語で簡単に伝えられる。	自分の興味関心のあることや、地域について英語で説明できる。	地域や研究内容について、資料を元に英語でスピーチし、簡単な質疑応答ができる。（[illegible]）	地域や研究内容について、図表で英語でスピーチし、質疑応答ができる。（[illegible]）	地域や研究内容について、ストーリー、データ、事例などを交えながら英語で説得力を持って主張し、議論できる。（[illegible]）
	技能（スキル・コンピテンシー） Skills "How we use what we know"	C	思考・創造力 物事を論理的に考え、批判的思考で振り下げ、スケールの大きな考え方ができる。	与えられた情報を整理できる。	目の前にある課題やその解決のための内容を論理的に振り下げて考えることができる。	メディアを活用して情報を集め、情報を分析・評価・活用しながら課題を発見した上で設定できる。	概実と理想の差を踏まえながら、広い視野・大きなスケールで既知の事実について批判的に考えることができる。	未知のことについても粘り強く考え、自分の考えや常識にとらわれずに創造的に考え、新たなアイディアを生み出せる。
		D	表現・発信力 どのような場でも臆することなく自分の考えを発信でき、他者の共感を引き出せる。	自分の意見や考えを、集団の前で話すことができる。	求められたことや指示されたことを鵜呑みにせず、集団の前で、自分の意見や考えを相手に伝わるように表現することができる。	記録を活用したり、データや事例を紹介しながら、自分の意見や考えを相手に伝えることができる。	多様な人々へ、相手の立場や意思を考えながら分かりやすく伝えることができる。	多様な人々へ、熱意とユーモアを持って常に相手を考慮した表現・発信を行い、共感を得ることができる。
		E	他者との協働力 異文化・異なる感覚の人・異年齢等を乗り越え、共感と協力・協働しながら互いに高めあえる行動が取れる。	集団や他者との中で、決められたことや指示されたことを一人で取り組むことができる。	集団や他者との中で、自分の役割を見つけ、個性を活かしながら行動でき、身近なメンバーの支援ができる。	集団や他者との中で、互いに思い感情を引き出しながら、WIN-WINの関係を作ることができる。記録を活用して協働を促進することができる。	集団や他者との中で、互いに思い感情を引き出しながら、WIN-WINの関係を作ることができる。記録を活用して協働を促進することができる。	文化や環境を越えて、社会を変革する行動をつくり、互いに高めあう信頼としての関係をつくれる。
		F	マネージメント力 自分や組織での取り組みを計画性を持って進めることができる。	指示を受けながら作業を実践できる。	指示を出だす、自発的かつ責任を持って自分の作業を実践することができる。	安定にとって必要な作業を見出し、自分の作業に優先順位をつけて、複数の課題に同時に対応することができる。	作業の整理や、全体スケジュールを意識し、チームやメンバーで作業を適切に役割分担できる。	今後のスケジュールやリスクを把握して、リスクへの対応策をチームで検討しながら進めることができる。
対等	人格（キャラクターセンス） Character "How we engage in the world"	G	前向き・責任感・チャレンジ 自分を意味ある存在として考え自信を持ち、課題解決のために自分の役割を見つけ、全力で取り組み、決してあきらめず遂行できる。	自分を意味ある存在として考え、物事をポジティブに捉えることができる。	自分に自信を持ち、目の前の課題を自分のこととして積極的に捉えて、主体的に取り組める。	集団や他者との中で、自分の役割を見つけることができ、すぐに解決方法が分からなくても考え続けることができる。	困難に立ちかっても自分の責任を果たす努力をし、困難克服のために、前向きにチャレンジし、ますます粘ることができる。	困難にぶつかっても逃げずに自分の責任を果たし、失敗しても必ずその失敗を糧としてできる。
		H	寛容さ 異文化や考えの違う他者を受け入れ、思いやるあたたかさを持ち、協調して共に高めようとすることができる。	集団や他者との中で、他者を気づかえる。	集団や他者との中で、相手の立場や考えを整理し、共感できる。	集団や他者に対して、思いやりをもって行動し、関係の修復を考えることができる。	考えの違う他者に対して、ユーモアを持って接することで、他者との違いを楽しむ。社会や環境の変化を前向きに捉えられる。	考えの違う他者の意見や存在を、自分や社会をより良くしていくための重要なものと考えて受け入れられる。
		I	能動的市民性 社会を支える当事者としての意識を持ち、地域や国内外の未来を真剣に考えることができる。	所属する集団の一員としての自覚を持つ。	社会の一員としての自覚を持ち、社会の抱える課題に目を向けようとする。	社会をより良くしようと、社会の主体としての意識を持ち、社会がより良くなるための考えを持つことができる。	社会に貢献しようとする意識と自分の価値観を持ち、目の前の社会に影響を及ぼそうとする。	社会・未来を良くしようとする志を持ち、自分自身の意見を他者に真剣に語ることができる。
	自らを振り返り変えていく力（メタ認知） Metacognition "How we reflect and learn"	J	自分を変える力 自分の言動や行動を俯瞰して見つめ直し、常に改善しようとする意識を持ち、次の行動に繋げることができる。	自分を向上させるために、自分自身で目標を立てることができる。	自分を向上させるために、自分の目標と現実の差を見つめることができる。	自分の目標に近づく方策を考え自ら行動することができる。	自分の目標の達成のための行動を、常に自分自身で見直してふり返りながら、学び続け、次の行動につなげて取り組むことができる。	社会の中での自分の役割や意義を俯瞰して考え、自分の目標と関連づけて長期的に行動できる。

3　ふたば未来学園高等学校のカリキュラム概要

○　教育課程等

- 3つの系列からなる総合学科の高等学校。

アカデミック系列	トップアスリート系列	スペシャリスト系列
進学に対応した科目選択	部活動に連動した「スポーツⅡ」、「スポーツⅢ」を選択	農業、商業、工業、福祉に関する科目選択

- 多様な生徒に対応する、英語、数学、国語での徹底的な習熟度別授業と、課外学習を実施。
- 課題解決力等の汎用的能力を高めていくために、**3ヶ年のうち合計8単位の「総合的な学習の時間」等をカリキュラム全体の軸となる「探究学習」として位置づけ**。大学の推薦入試やAO入試にも対応。
（総単位数　32単位／年、全96単位）
- 平成27年度に双葉郡8町村の中学校との連携型中高一貫校として開校。
平成31年度には併設中学開校。高等学校定員は一学年160名、中学校定員は同60名。

○　教育課程表（H30入学生）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32
1年次	国語総合				数学I		コミュニケーション英語I				体育		保健	音楽I 美術I 書道I		家庭基礎		化学基礎		現代社会		生物基礎		社会と情報		産業社会と人間		進路に応じた選択科目				LHR
2年次	体育			保健	地学基礎 物理基礎 生物基礎		世界史A 日本史A		コミュニケーション英語II				未来創造探究	進路に応じた選択科目																		LHR
3年次	体育		未来創造探究				進路に応じた選択科目																									LHR

アカデミック系列

東北大学など難関大学

国公立大学、私立大学

↑

特定の教科を重点的に学ぶなど進路実現のための科目選択

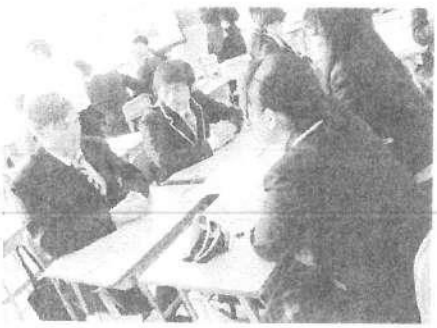
徹底した学力向上対策

7校時授業導入（週2日）

放課後・休日の補習指導

英数国は完全習熟度別指導

現実社会で学ぶ探究活動とアクティブラーニング



スペシャリスト系列

農業、工業、商業、福祉

就職、進学

↑

将来の進路、興味・関心に応じて専門分野を深く学ぶ

夢を実現する多様な学び

農業　お菓子作り　草花栽培　商品開発　ビジネス　商業

資格取得（介護、農、工、商）

工業　ものづくり　再生可能エネルギー　介護、福祉　福祉

農業の授業でパン作り

商業の授業で商品開発

工業：自作の電気自動車でレース参加

福祉：介護の資格取得

トップアスリート系列

野球、サッカー、レスリング、（バドミントン（猪苗代のみ））

↑

授業、部活で専門種目の実技、理論を深く学ぶ

トップアスリート育成

全国大会出場、上位入賞

充実した練習環境・施設

一日に2時間程度、専門種目やスポーツについて学ぶ

男子サッカー　新人戦　県3位！県一部リーグ昇格！全国を目指す

女子サッカー　全国大会出場を目指す

34年ぶりのノーヒットノーランで見初勝利　地区初優勝！甲子園を目指す野球部

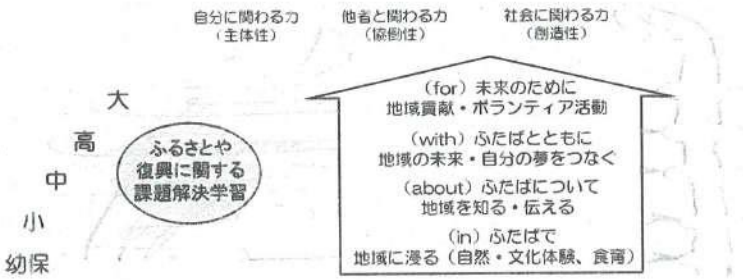
レスリング　全国ベスト8！

4　ＳＧＨテーマ、研究構想

○ SGHテーマ　原子力災害からの復興に関する研究 ～グローバルな視点からのふるさと創造を目指して～

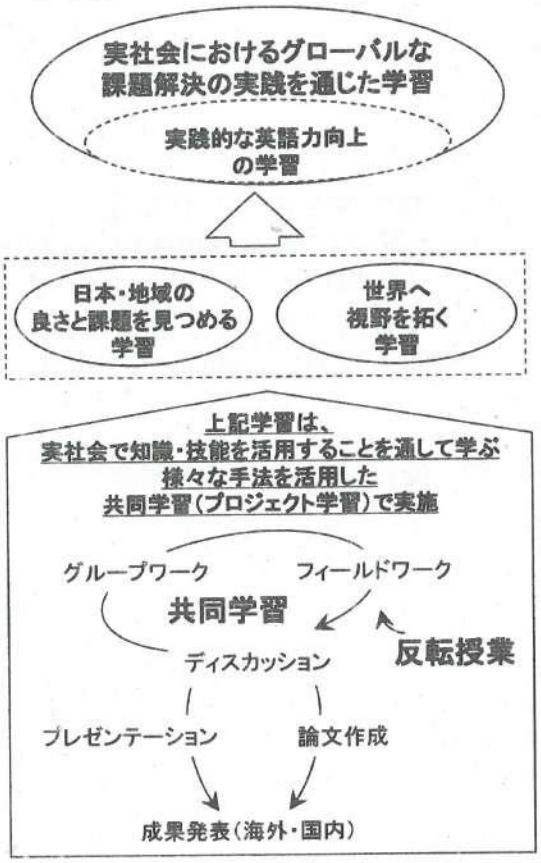
- 福島県及び企業・関係団体、大学・国際機関と連携し、グローバルな課題である「原子力災害からの復興」をテーマの中心に据え、その原因、背景、過程について同種事例なども参考にしつつ、研究・検証し、グローバルな視点から地域課題の解決及び地域再生を図る。そのことが、ひいては福島とつながる世界の課題を解決することにもつながり、世界に貢献するグローバル・リーダーの育成を目指す。
- アクティブ・ラーニングや研究成果発表を通して、生徒の思考力・判断力・創造力・表現力等の育成を図る。特に、実際の復興の課題に取り組む実践からの学習を重視するほか、グローバル・リーダーを育成する目的から、実践的な英語力の向上を図るとともに、英語によるコミュニケーション能力を育成し、海外研修を通して世界の人々へと研究成果を発信し、広く交流する。また、連携中学校の「ふるさと創造学」を発展させた学習も行う。

参考：ふるさと創造学（双葉郡8町村の全校で連携して実施）



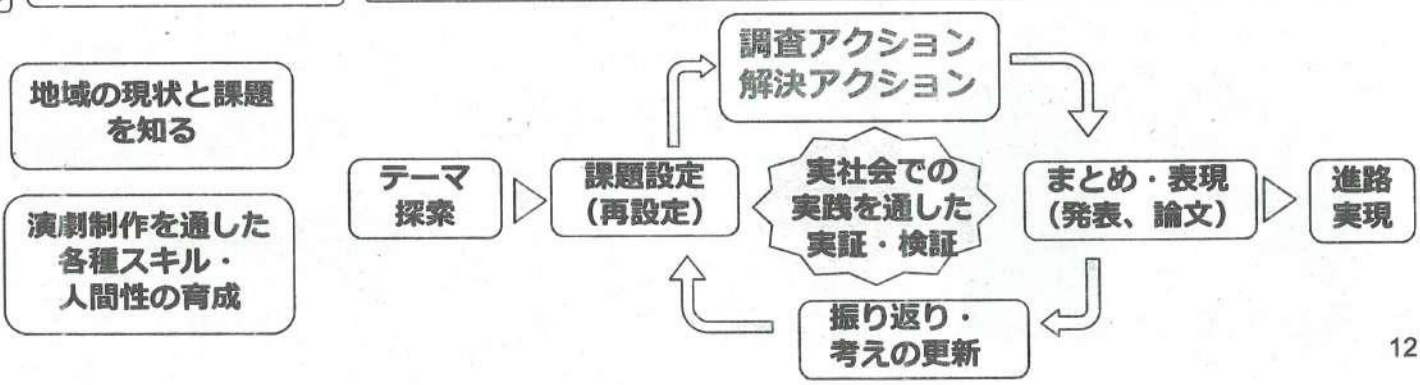
- ふるさと（日本）のよさや伝統文化の理解を深め、世界に拓かれた未来の創造を構想する学習を、幼小中高大で連携して実施している。
- 各学校段階で、ふるさととの関わり方が段階的に深まる学習を実施。高校段階では地域に貢献する活動を通して、地域の未来と、自らの将来像を重ね合わせて考え、自律的なキャリアデザインを描けるようにしている。世界との協同なくして成し得ない双葉郡の復興に向けて、国際的な将来ビジョン・キャリア形成につなげていく。

○ 学び方のイメージ



5　探究学習　全体像

授業名	ふるさと創造学（産業社会と人間）［2 単位］	未来創造探究（総合的な学習の時間）［3 単位］（総合的な学習の時間）［3 単位］
ステップ	1年生 復興に向けて **複雑な地域課題を多面的に理解**	2年生 復興に向けた **地域課題解決の探究と実践**　／　3年生 復興に向けた **探究成果発表と自らの進路実現**
		ステージ1【テーマ設定】【調査アクション】　ステージ2【調査アクション】【解決アクション】　ステージ3【解決アクション】　**ステージ4【論文作成＆進路実現】**
発表	演劇発表会	プレ発表会　中間発表会　最終発表会　論文
研修	ドイツ	広島　ニューヨーク



5　ふたば未来学園の探究学習（1）地域の復興の課題を見つめる

○ 震災・原発事故による課題との遭遇

震災時に小学校2～4年生であった生徒たちは、双葉郡の課題、特に震災時にどのようなことがあり、大人はどのような悲しさや悔しさに直面をしたのかを知っているようで知らない。

現実を知り、受け止めるとことから学びを始めて行くために、1年次では入学後に各町村へ複数回に分けてバスで訪問する「課題遭遇」の機会を設定。

① ふたば未来学園で学習するにあたり、双葉郡の現状を実際に自分の目で見て、この地で学ぶ意義を考える。
② 被災・避難者の声に耳を傾け、震災と原発事故の教訓、双葉郡・福島ならではの課題を知る。

5　ふたば未来学園の探究学習（2）演劇

アイスブレイク

わかりあえないことから

同じ言葉でもイメージするものが全然違う

演劇はイメージの共有

わかりあうためには

共有できる部分を見つけて広げていくしかない

シンパシーからエンパシーへ

福島の子供たちに必要な力は

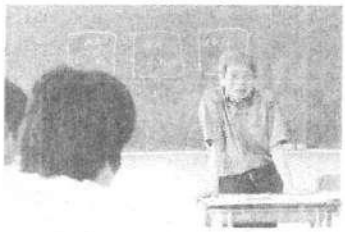
フィールドワークでは

みんなが善意で取り組んでいるのにうまくいかないことを探し出す。

津波浸水区域を歩く

農業再開の課題は？

プロットづくり



対話劇とは

異なる価値観や意見を持った人々が、戸惑ったり理解し合ったりしながら対話を進めていく演劇

劇をつくる上でのルール

予定調和の劇にせず問題の複雑さを表現する

はっきりとした悪者は登場させない。

いよいよ上演

迫真の演技！

演劇制作のポイントは、「立場や考え方の違いによる難しい課題をそのまま表現する」こと、そして「全国や世界の人に福島の課題を理解してもらえる、共感してもらえる部分を見つけ出し、広げていく表現をする」こと。30時間弱の授業時間、生徒たちは悩みぬきながら表現を創り上げた。

（3） Project-Based Learning　「未来創造探究」で地域復興の探究と実践

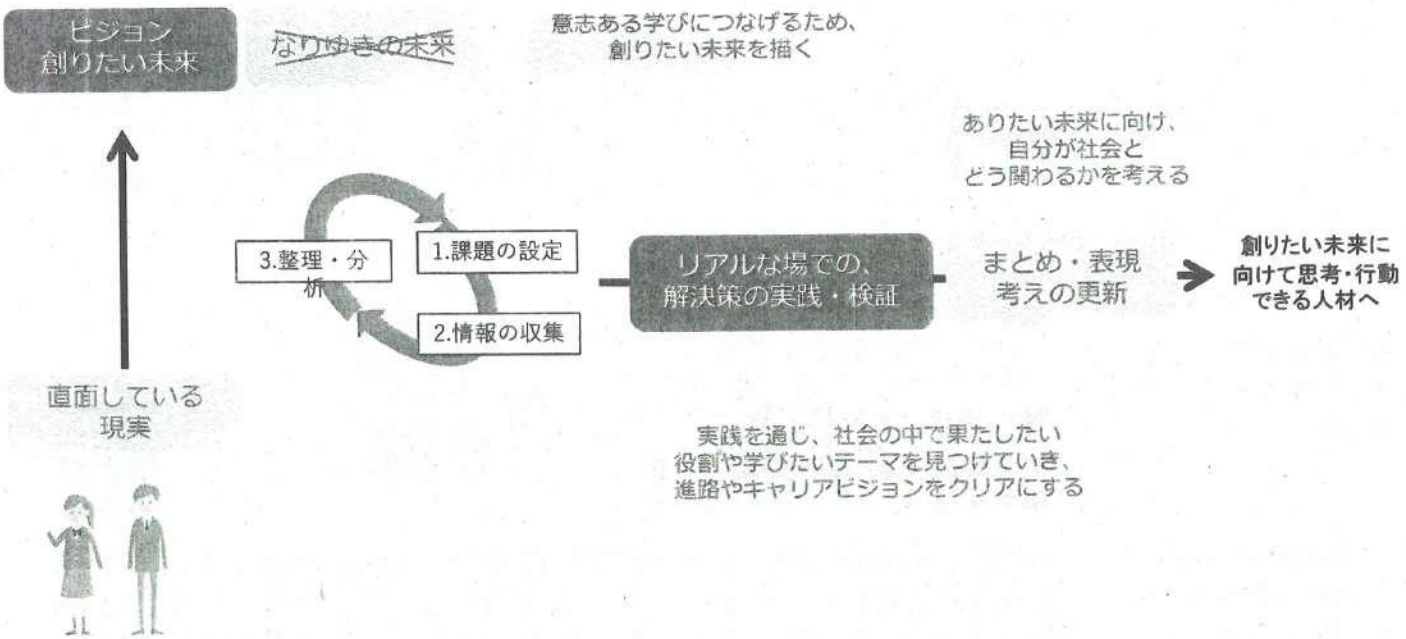
1年次に見つめた地域課題を踏まえ、2・3年次の合計7単位で課題解決の探究と実践に取り組む。

1. 福島県及び企業・関係団体、大学・国際機関と連携し、グローバルな課題である「原子力災害からの復興」をテーマの中心に据え、その原因、背景、過程について探究しつつ、地域再生の実践を行う。
2. 国内外での研究成果発表や提言を行う（復興庁、環境省、自治体等）

原子力防災探究	原子力災害によって失われた地域コミュニティの再構築について研究する。
メディア・コミュニケーション探究	海外を含めた、異文化の方々に向けた情報発信やコミュニケーションの有効な方策を研究する。
再生可能エネルギー探究	福島の現状を踏まえた、望ましい人間社会と、地球環境やエネルギーの関係性について研究する。
アグリ・ビジネス探究	福島の復興につなげる、今後の農業とビジネスを研究する。
スポーツと健康探究	福島の地域を、スポーツを通じて豊かにする方策を研究する。
福祉と健康探究	福島の地域において、少子高齢化が加速する中での健康長寿の実現の方策を研究する。

■「未来創造探究」とは

意志ある創りたい地域（社会）の未来を考え、
その為に解決すべき課題の設定・解決策の実践を繰り返す授業です。



■課題フレーム（ワークシート）

②あるべき姿

③問題

<Point！>
「現実の姿」と
「あるべき姿」の
差がある
＝「問題」

④原因

⑤「原因」は
なぜ起こる？

だから

⑥課題

<Point！>
問題を解決するための
、
タスク・行動＝課題

①現実の姿

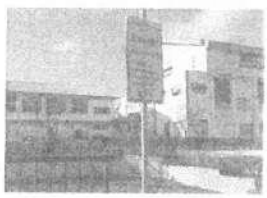
実践例

「全国に防災意識を広げる」

防災意識を広めたい
避難経路の確認
災害時以外は関心が低い

×

震災・原発事故で途切れた
地域の祭りを復活させたい



お祭などを活用すれば、
楽しく避難経路を確認できるのでは？

全国に防災意識を高める（図解）

2年生 → 3年生

ステージ1【テーマ設定】 → ステージ2【探究活動】 → ステージ3【論文作成＆進路実現】

プレ発表会　中間発表会　最終発表会　論文

Stage 1
問題発見・課題設定
・先輩からのテーマ引継ぎ
・地域の祭り復活
・避難経路の活用

Stage 1
現状分析➡解決仮説
調査アクション
・地域の方　インタビュー
・「祭り」と「津波避難経路」を繋げられると防災につながるのでは？

Stage 2 ①
解決アクション
・祭りへの参加（○）
・経路の提案（×）

Stage 2 ②
新たな解決アクション
・小学校
・避難経路を使った避難訓練提案（×）

Stage 2 ③
新たな解決アクション
・幼稚園
・避難経路を使った散歩を提案、実践（○）

Stage 2 ④
新たな解決アクション
・老人ホーム
・避難経路を使った散歩を提案、実践（○）

実践 ［**調査のためのアクション** / **解決のためのアクション**］ 明確に分けるべきでは？

Stage 4
考察　論文作成

5　ふたば未来学園の探究学習（3）　未来創造探究－2

2・3年次には、企業・大学・NPO等と連携しながら地域再生の実践と探究を行う（週3時間）

原子力防災探究班

トリチウム水の処理や、放射性廃棄物の最終処分など、廃炉作業が進んでいく上で住民生活に影響が生じるのは自明だが、専門的で難しい課題について住民が共に考える機会が少ないことを課題として設定。東電や政府等の廃炉実行主体や専門家と住民が対話を重ね、社会的な合意を形成しながら廃炉を進めていくことを目指し「高校生と考える廃炉座談会」を主催。また、「全国や後世に何を教訓として伝えるか」を課題として双葉郡ツアーを主催したチームも。

メディア・コミュニケーション探究班

福島・双葉郡・本校に対するインターネット上の情報を分析。誤った情報も溢れている中で、海外を含めた異文化の人々に正しい情報を伝えていく有効な方策を探究。映像を制作してYoutubeで発信したり、twitterアカウントを運用して日常の情報を伝える等、積極的にインターネットを通じて情報を発信している。

5　ふたば未来学園の探究学習（3）　未来創造探究－3

2・3年次には、企業・大学・NPO等と連携しながら地域再生の実践と探究を行う（週3時間）

再生可能エネルギー探究班

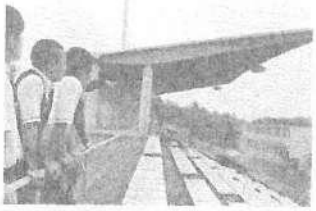
原子力発電所の事故による地域の基幹産業の喪失と、福島＝原発事故という負のイメージを払拭することを目指して、復興作業の車で渋滞する国道で振動を利用した発電に挑戦したり、ドイツで視察した光熱費がかからないパッシブハウスを3Dプリンターで試作するなど、未来の社会を構想している。

アグリ・ビジネス探究班

基幹産業である農業が大きな被害を受けた双葉郡の復興に向けて、地域の農家や商店等と密に連携しながら、銘菓の復活や、特産物を活用した新商品の開発、地域の伝統の味をいかした学校給食の提供等、フードビジネス、リサーチ＆コミュニケーション、アグリの3つのテーマ・8つのプロジェクトを実践した。

スポーツと健康探究班

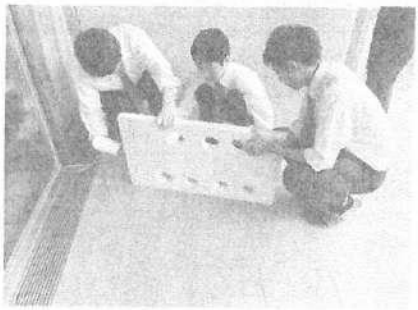
原子力災害によって地域に生じている課題を直視し、「もはや高齢化に抗うことはできない」状況の中で、地域のスポーツ資源を生かしながら持続可能な地域をどう実現するか、フィールドワークを重ねてスポーツ・ビジネスという視点を取り入れながら将来像を構想し、Jヴィレッジやスポーツチームに提案を行った。

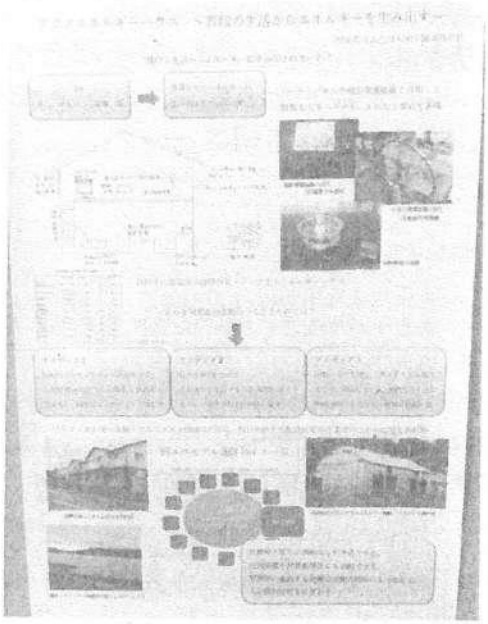


福祉と健康探究班

震災後に少子高齢化が一気に加速した双葉郡における、健康長寿で安心して暮らせる地域の実現を目指して探究した。介護士不足や子供たちの帰還の課題について、フィールドワークを重ねて調べつつ、どのような支えあいの社会を実現していくことが必要か考察を深め、提言した。

5　ふたば未来学園の探究学習（3）　未来創造探究－4　令和元年度３年次の実践





震災アーカイブ施設づくり
双葉郡の現状を知るツアー企画
町民と原発作業員との共生
多言語ハザードマップ作成
演劇で震災当事者体験
双葉郡のいまを伝えるモザイクアート

高校生地域交換留学
売り場のない魚をなくす商品開発
大熊町でのレクリエーション企画
多世代交流カフェ
タイで有名な祭りイベント開催

微生物やセイタカアワダチソウを使ったバイオマスエネルギー研究
海水発電
波力発電
プラスエネルギーハウス

5　ふたば未来学園の探究学習（4）　海外研修・世界への発信

○ 1年次　ベラルーシ、ドイツ

チェルノブイリ原発事故の被害を受けたベラルーシを訪問し、事故から30年後の状況を視察する。また、ドイツを訪問し、福島について発信するとともに、再生可能エネルギーによる街作りを視察する。

○ 2年次　ニューヨーク・国連本部等

各探究班の代表が米国ニューヨークの国連本部を訪問し、国連本部職員と意見交換を行う。また、コロンビア大の学生や、世界の同世代との意見交換も行い、8日間の滞在中に8回のプレゼンテーションの機会がある。
自身が取り組む地域課題解決の探究内容と、取り組みから見出した世界への提言を発信するとともに、福島の風評の問題と世界における難民を巡るフェイクニュースなど、福島と世界の課題を重ね合わせて意見交換を行い、持続可能な世界実現の課題意識を深めて持ち帰り、さらに未来創造探究を深めていく機会としている。

なお、NY研修はプロジェクト型で実施しており、渡航3ヶ月前からの事前学習やプレゼンテーション準備、現地でのプログラムの検討、移動は生徒たち自身が行う形としている。

数ヶ月の事前学習

コロンビア大大学院生との議論

事前の議論や準備では
Facebookのグループも活用

国連本部において幹部職員や各国国連Youth Delegateと意見交換（左）
NY研修において、国連総会議場で世界の同世代と難民問題を議論（右）

6　カリキュラム・マネジメント (1) 探究と教科の往還

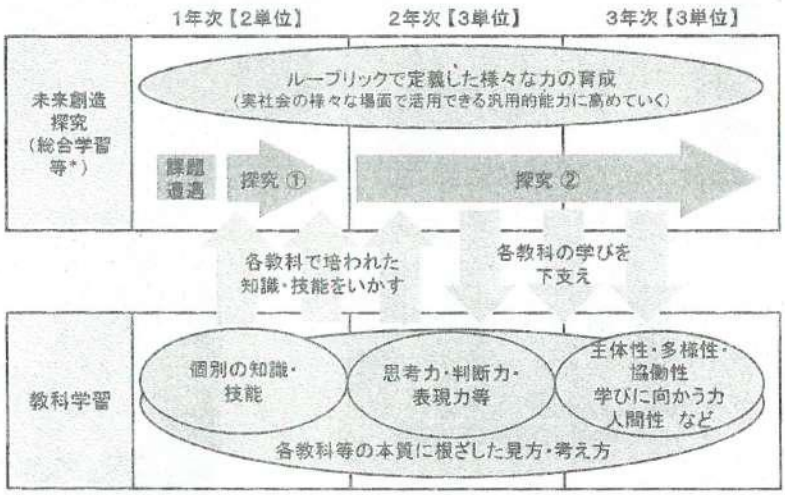
○ 汎用的能力に高めるための カリキュラム全体の軸となる総合学習

- ✓ ルーブリックで定義された資質能力は、各教科の学習のみで培われる知識・技能には収まらない、実社会の様々な場面で活用できる汎用的な能力。これは実社会における横断的・総合的な問題解決に主体的に取り組み、様々な挑戦や失敗の経験も積まなければ身に付かない。
- ✓ カリキュラム全体で汎用的能力に高めていくための軸となる時間として、総合学習等の合計8単位を位置づけ。卒業までの3年間で2回の探究のプロセスを経験する。
  探究①　複雑な地域課題を多面的に理解する
  探究②　地域課題解決の探究と実践から、自らの進路実現へ

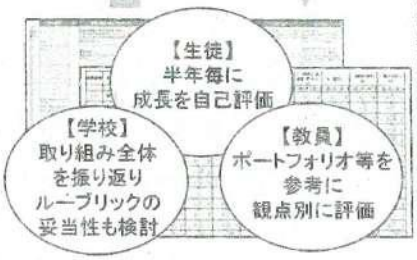
○ 総合学習での探究と 各教科のつながりを意図的に設定

- ✓ いずれの探究においても、課題の発見・解決に向けた主体的・協働的なアクティブ・ラーニングを徹底的に実践。この中で、各教科で身に付いた、ものの見方・考え方、知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・多様性・協働性、学びに向かう力や人間性などが発揮され、汎用的な能力に高まっていくことを目指す。
- ✓ 逆に、カリキュラムの軸となる探究があるからこそ、各教科の学習の意欲が喚起され、各教科の学習活動が確かに下支えされていく。また、内容面に関する知識も、各教科において発展的に学習し、深められていく。
- ✓ 総合的な学習の時間におけるアクティブ・ラーニングと各教科のつながりを意図的に生み出すことで、各教科の学習も表面的な知識や技能の習得にとどまらない、アクティブ・ラーニングによるより深い学習となる相互作用を期待。
- ✓ 学校全体の意識を統一するルーブリックの設定と、カリキュラムマネジメントを土台とした、アクティブ・ラーニングの展開を重視。

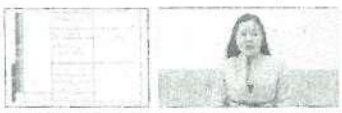
ふたば未来学園におけるカリキュラム・マネジメント



* 1年次「産業社会と人間」2単位、2年次「総合的な学習の時間」3単位、3年次「総合的な学習の時間」3単位



文部科学省は、教員向け解説動画において本校の取り組みを、学習指導要領改訂や高大接続改革を先取りするカリキュラム・マネジメントの好例として、全国の学校へ紹介している。



6　カリキュラム・マネジメント（2）　教員体制

○ 探究カリキュラム企画開発の校務分掌を設定

- カリキュラム全体の軸となる「産業社会と人間」「未来創造探究」や、海外研修、県内外の高校での交流学習、各種発表への生徒参加、コンクール応募等の取りまとめを担う校務分掌として**企画研究開発部を設置**。教務部、進路指導部等と密に連携・協働をしながら、探究学習を推進している。
- 開校当初はカリキュラムのけん引役であった同部の役割は、班毎に分かれて専門性ある探究が展開されている「未来創造探究」が始まって以降、徐々に各探究班の教員の指導を下支えする役割に変わり、各教員が中心となる望ましい体制となりつつある。

○ 全教員体制で探究学習を指導

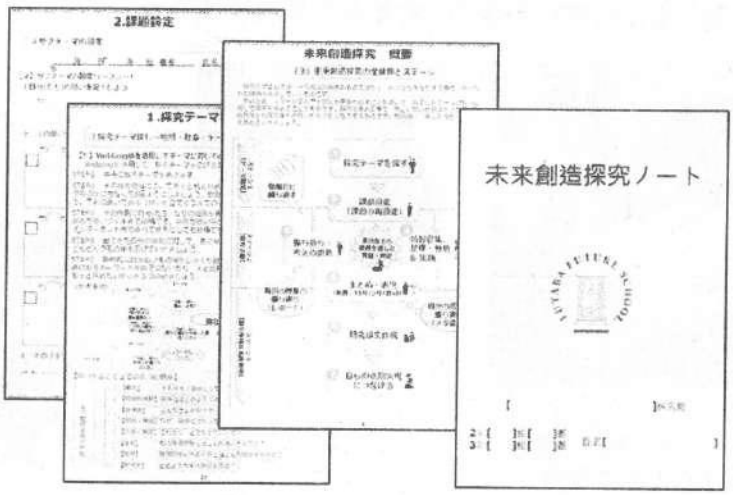
- 1年次「産業社会と人間」、2・3年次「未来創造探究」は、毎週水曜日の5～6校時に主となる活動時間を固定し、**全教員が分担して探究学習を受け持つ**こととしている。50名程の教員が各学年を11～18名で分担する。「産業社会と人間」では、生徒演劇班20班に教員が寄り添い生徒の演劇創作を見守る。「未来創造探究」では、各学年6つの探究班をそれぞれ2～3名で担当する。
- 2年次「未来創造探究」では**NPOカタリバと連携**し、各班に担当スタッフを配置（若手職員や、インターンの大学生）。生徒たちと近い距離で探究に伴走しつつ、放課後も自習室で探究の相談に乗るなど、きめ細やかな対応を行っている。

平成30年度「産業社会と人間」「未来創造探究」指導体制	2・3年次 未来創造探究						1年次
	原子力防災探究	メディア・コミュニケーション探究	再生可能エネルギー探究	アグリ・ビジネス探究	スポーツと健康探究	健康と福祉探究	産業社会と人間
探究内容	原子力災害によって失われた地域コミュニティの再創造について探究する。	海外を含めた、異文化の方々に向けた情報発信やコミュニケーションの有効な方法を探究する。	福島の現状を踏まえた、望ましい人間社会と、地球環境やエネルギーの関係性について探究する。	福島の復興につなげる、今後の農業とビジネスを探究する。	福島の地域を、スポーツを通して豊かにする方策を探究する。	福島の地域において、少子高齢化が加速する中での健康長寿の実現の方法を探究する。	職業講話 キャリア学習 地域の課題を調査して表現
担当教員2年	○（英語） 【地歴】 （家庭） （NPOカタリバ）	○（情報） 【数学】 （芸術） （NPOカタリバ）	○（工業） （理科） 【理科】 （NPOカタリバ）	○（農業） （数学） （体育） （NPOカタリバ）	○（体育） （体育） （工業） （NPOカタリバ）	○（福祉） 【家庭】 （体育） （NPOカタリバ）	○（公民） （国語）【数学】 【理科】【地歴】 （体育）（体育） 【英語】（農業） （農業）（地歴）
担当教員3年	○（国語） 【英語】 （理科）	○【数学】 （英語） （情報）	○（理科） （工業） 【国語】	○（商業） （農業） （国語）	○【体育】 （体育）	○（福祉） （数学） （体育）	

※ 各探究担当教員欄の○印は主担当。【カッコ】は該当年次担任教諭。

6　カリキュラム・マネジメント（3）　探究で活用する教材等の開発

○ 未来創造学ノート【年度始めに配布】



○ 教科横断インプットシート【都度開発】

○ 各探究班ワークシート【都度開発】

6　カリキュラム・マネジメント(4)　生徒たちの学びを支える環境

重ねられている教員研修

アクティブ・ラーニングの展開に向けて、**日常的な教員研修を実施**。先進校視察等の校外研修に加え、校内でも教員同士による議論等を実施。

これまでに招へいした講師は、鈴木寛文部科学大臣補佐官、田村学文科省視学官、田熊美保OECD教育局シニアアナリスト、劇作家平田オリザ氏等。また、教員自主勉強会も重ねられている。

ICT環境の整備(タブレット、wifi、クラウド)

生徒にはタブレット端末を一人一台配布し、日常的に活用している。各種授業における調べものや、各自のレポート執筆の他、クラウド環境を利用して自宅や寮に帰宅した後の生徒同士や教員との意見交換等も行われている。学習効率を上げながら、学習時間も増加させるツールとして活用されている。

双葉みらいラボ(NPOカタリバ)

教員のみでは対応出来ない、地域と協働する学習や、様々な学力層の生徒たちの学習を支えるために、平成29年度より**認定特定非営利活動法人カタリバの職員が校内に常駐**。授業内でのTTでの指導や放課後学習室の運営を行っている。

【名　　称】みらいラボ
【開　　所】2017.9.28
【開設時間】放課後～20:00
【主　　催】NPOカタリバ

【実施内容】

1. 地域課題解決学習の支援・協働

「原子力災害からの復興」という大テーマのもと、各班に分かれて進める地域課題解決学習の授業支援・協働。

2. 放課後学習支援

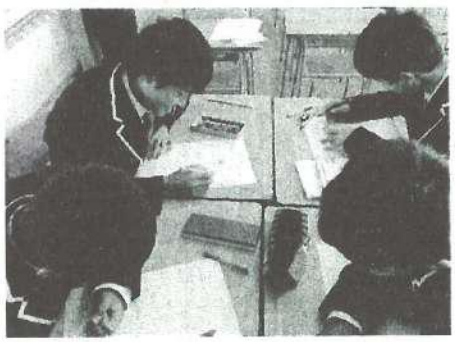
避難生活で学習に遅れが出た生徒の学び直しや、目標とする進路実現に向けた、個々の生徒に応じた放課後学習支援。

3. 対話によるキャリア学習支援

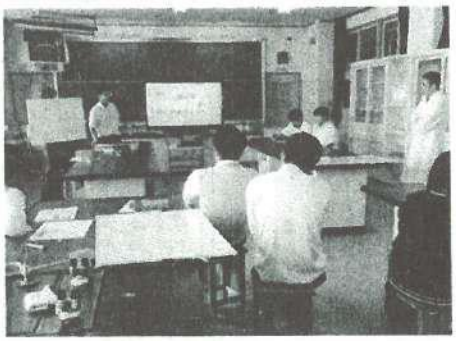
日々の悩みや進路のこと、震災の経験などを安心して相談できる環境の整備。意欲的に学ぶ学生や社会人との出会いづくり。

7　授業の創造

「未来創造探究」等のプロジェクト型学習のみならず、各教科の授業も一方的に教わる講義ではない、対話や主体的な活動を取り入れた授業を展開。主体的に動きながら学びを深め、考える力や表現力を磨く。



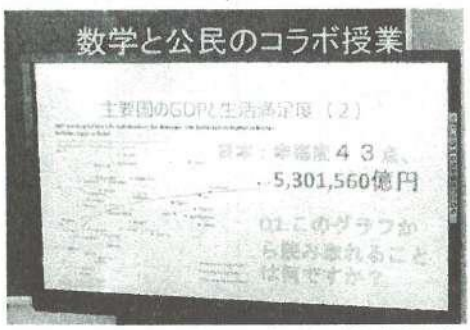
学習の定着率は、「講義」は5%であるのに対し、「他の人に教える」のは90%であることを踏まえてワールドカフェの手法を導入した数学の授業。



解答を教員が示したうえで、生徒たちはそこへ至るロジックや、適切な実験方法を検討・検証する化学の授業。

自分達で考え、対話し、教え合う。

一人一台配付しているタブレットPCは日常的に活用



数列の単元の最後に、数学で社会問題に挑む、公民との合科授業。

演劇を取り入れた世界史。カエサルに「おまえもか」と言われたブルータスは何と答えたか？

クロスカリキュラム

クロスカリキュラムの実践例(1)

数学B（数列）　現代社会（私たちの生きる社会）

将来予測と私たちにできること

クロスカリキュラムの実践例(2)

造園技術　工業技術基礎

樹木を概観したものづくり

クロスカリキュラムの実践例(3)

英語　商業？

インドネシアからの修学旅行プランプレゼン

クロスカリキュラムの実践例(4)

世界史B（東南アジア史）　英語（ラオスからの留学生との英語コミュニケーション）

英語による問いを作る中で「歴史的な見方・考え方」を発揮

クロスカリキュラムの実践例(5)

化学基礎（原子量・分子量・式量）　数学A（指数）

原子の相対質量を求めるのに数学の指数の知識を活用。相対的な考え方を理数両面から習得

クロスカリキュラムの実践例(6)

日本史A（国際協調）　理科（気候変動）

解の見えない課題に、歴史的、理科的にアプローチ

クロスカリキュラムの実践例(7)

音楽（ゴスペル）　英語（歌詞）　現代社会（他者と共に生きる）

アメリカ黒人の歴史を学んだ上で黒人霊歌を歌い寛容性を学ぶ

クロスカリキュラム案(1)

体育（ハンドボール投げ）　物理（物体の運動）

より遠くへ飛ぶ原理の導出とその実践

クロスカリキュラム案(2)

化学（肥料の3要素）　世界史（第一次世界大戦）

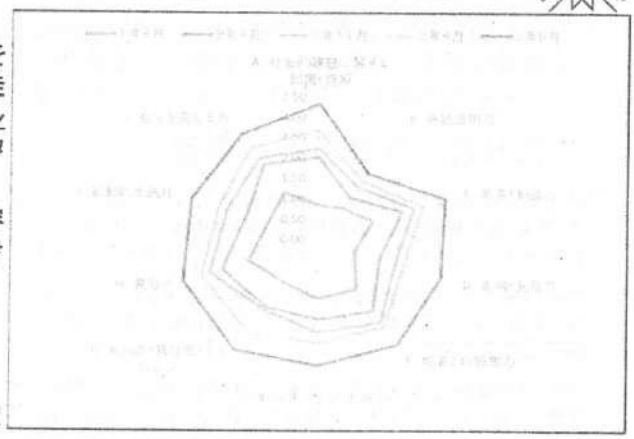
科学技術の功罪

8　学習の評価・生徒たちの成長（1）

○ ルーブリックの各資質・能力についての自己評価

生徒たちは半年に1回、ルーブリックの各資質・能力について自己評価を実施。その際に、自身の成長要因についても自己分析する。また、生徒たちが相互に自己評価結果を見せ合い自身の評価の修正を行うピア・レビューを行っている。これによって、ルーブリックにも盛り込まれているメタ認知力を高めることも目指している。

年度当初、全教員が「育成したい能力」として共通認識を強く持った「寛容さ、他者を大切に思う心」に沿う形で表出しており、本校生徒に対峙してきた教員の姿勢が如実に表れているともみることができる。



ルーブリック調査（3期生平均）

○ ポートフォリオへの学習過程の蓄積と、観点別評価、知識を問うテスト等を組み合わせて評価

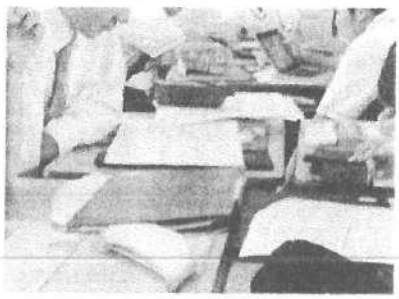
探究学習の評価について、ルーブリックを意識しつつ評価の観点を設定し、日常の取り組みやポートフォリオをもとにした段階評価を行っている。また、探究で活用していく知識のインプットを行った単元においては、定期考査で知識を問うテストも実施して評価を行っている。

○ フォーマティブ評価（形成的評価）の機会を多数設定

探究が各生徒の学びに繋がり、自覚的に学ぶ姿勢も強化できるよう、探究プロセスの中で記述や面談の機会を増やし、断続的なフォーマティブ（形成的）評価を行っている。3年次春には、未来創造探究の中でセルフエッセイの執筆と、複数回の個別添削・面談を行い、探究の軸を言語化するとともに、生き方・在り方を見つめる機会としている。

また、ルーブリックの自己評価結果をもとにした教員との面談・フィードバックも実施し、生徒のさらなる成長に繋げていくことを目指している。

【参考】セルフエッセイの構成
Part1　自身のバックグラウンド（自己の震災体験等を踏まえた学習の動機）
Part2　探究班での取り組み紹介
Part3　現在福島が抱えている課題（上記を踏まえ、特に対立や分断にまつわる課題を記載する）
Part4　未来創造探究での活動を通して未来の地域や世界をどう変えていきたいか（福島、全国・世界の課題解決）

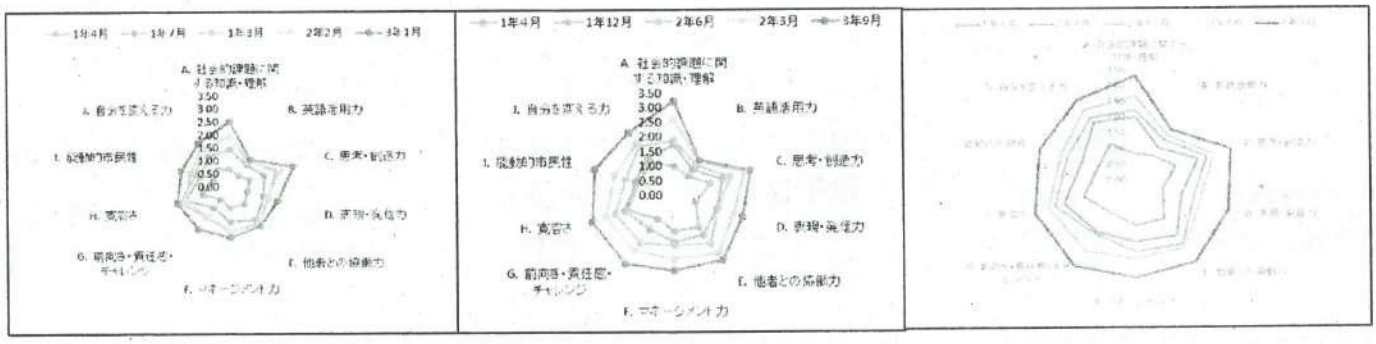


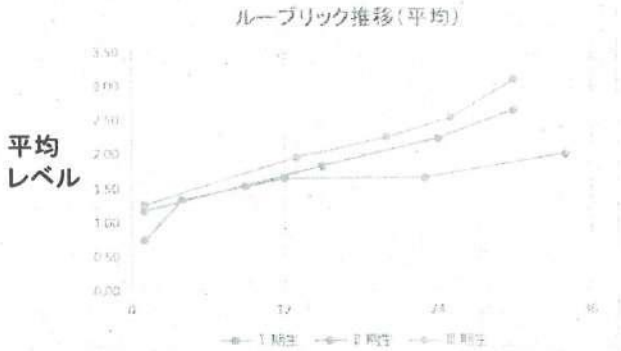
探究に取り組む際、生徒の手元には常にポートフォリオが置かれている

評価結果（ルーブリックの推移）

○ ルーブリックの各資質・能力についての自己評価

Ⅰ期生(2018.3卒業)　　Ⅱ期生(2019.3卒業)　　Ⅲ期生(2020.3卒業)





○ Ⅰ期生→Ⅱ期生→Ⅲ期生になるにつれて、
値は高くなっている
→生徒の実践の様子と合致
→教員側の指導体制の整備

○　英語活用力　低い　高まらない
○　寛容さ　もとから高い
○　表現力、発信力　伸び大きい
○　前向き、責任感、チャレンジ　伸び大きい

8　学習の評価・生徒たちの成長（2）

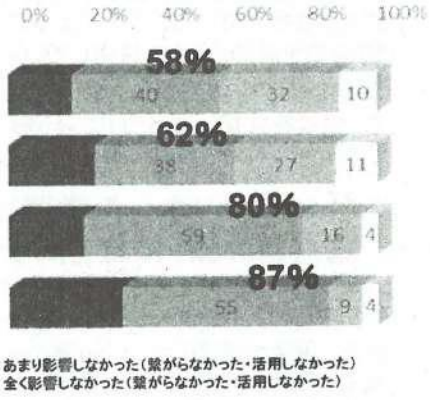
○ 多くの生徒が、企業、NPO、行政、研究機関など多様な主体との協働を通して困難を乗り越え夢に向かって自立
○ 困難な状況にあるからこそ可能なことを構想する創造性こうした力を身につけ、
失われた故郷をとりもどし、自分たちで新しく創ろうという意志を抱いて1、2期生が巣立っていった。

○ 在り方・生き方への影響

探究活動に関連する取組（1年次「産業社会と人間」、2，3年次「未来創造探究」）が卒業時の進路や生き方にどのような影響を与えたのかアンケートを実施（平成31年2月、98人）

探究活動が具体的な進路選択に影響を及ぼした生徒が58%。半数を超える生徒が大学学部や就職先の選択の理由に探究活動をあげた。

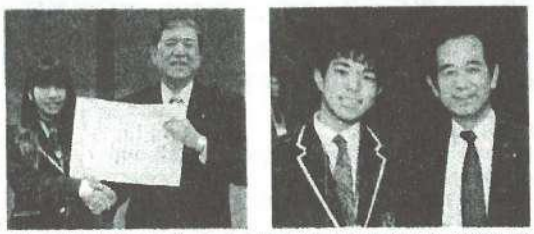
また、8割を超える生徒が、自身が地域や社会とどう関わって生きていくかという「在り方・生き方」や、あるいは生き方の土台となる価値観（豊かさとは何か、復興とは何か、持続可能な社会とは何か）を見いだすことにつながったと答えている。



○ 二期生進路実績（H31.3）

進学　92名　　卒業生の進路（合格含む）
○四年制大学　国公立大学　8名（合格9名）
・筑波大学　・福島大学　・山形大学　・会津大学
・新潟大学　・釧路公立大学
（昨年度は東北、県立医、茨城、弘前、青森公立等）
○四年制大学　私立大学　63名
・早稲田大学2　・青山学院大学4　・立教大学2
・法政大学　・専修大学　・東北学院大学　・医療創生大学5　等
（昨年度は津田塾、明治、中央、立命館等も）
○短期大学　2名
・郡山女子短期大学
○専修学校等　19名
・松村看護専門学校　・福島県立テクノアカデミー浜
・福島県農業総合センター農業短期大学校　等
就職　30名
・イオンリテール(株)東北カンパニー　・自衛隊　・警察官
・プロ・実業団（NTT東日本、日立化成、再春館製薬）等
海外　3名（スペイン、アメリカ　留学等）

有志の生徒は、政府主催の地方創生政策アイディアコンテストに挑戦し、全国900件の提案の中から2年連続で入賞し、表彰を受けている。また、各種シンポジウムにおいて、専門家や地域の方等と一緒に壇上に上がっての発表や、パネリストとしての登壇の機会は多数ある。



地方創生政策アイディアコンテスト（内閣府主催）2年連続入賞

9　成果と課題

成果

(1) ルーブリックによる形成的評価実施

(2) 探究活動が進路や生き方につながったとする生徒が8割以上。

(3) 各系列におけるカリキュラム改善

(4) 学校と社会の協働による教育体制構築

(5) 探究と結びつけた新しいタイプの海外研修

問いを立て、探究

↓

知識総動員して対象世界に学ぶ

↓

新たな知識や概念の獲得

↓

自分なりの解決策提示、実証実践

↓

新たな問い　　生き方

課題

(1)課題の掘り下げが不十分。本質に迫れていない。

(2)対立を乗り越え共存を図る市民性やコミュニケーション能力に課題。

(3)学びの深まりがない。実践の中で知的探究が浅い。

(4)主体的・対話的で深い学びを成り立たせる指導法。

(5)教科と総合の往還により、生涯にわたり能動的に学ぶ力の育成

(6)ルーブリックによる評価方法、評価結果の活用に関する研究

１０　中高一貫教育

	育成する資質・能力	上級学校への接続	想定する卒業後進路	"変革者"として活躍
深い学び・高い学力 ○ 各教科でのアクティブ・ラーニング ○ 習熟度別学習 ○ 国語・数学の時数増	数学的思考力 読解力、論理的思考力	一般受験に対応する高い学力	海外留学 超難関国公立大	グローバルに考え、世界で活躍する人材 新たなビジョンを示し課題解決をけん引するリーダー
世界に飛び出す学び ○ グローバル・スタディ科の開講 ○ 海外研修での発信	実践的英語力 グローバルな視野と異文化コミュニケーション能力			
実践力をみがく「未来創造学」 ○ 「未来創造学」「未来創造探究(高校)」での現実社会での課題解決実践と、自らの生き方の探究	思考力、協働力、マネジメント力 能動的市民としての社会的課題への関心	AO・推薦入試に対応する深い思考力と表現力等	医学部 難関私立大 等	新たな産業を創出するイノベーター 地域で持続可能な社会づくりを進めるリーダー
未来の主人公となる学び ○ 哲学・熟議 ○ リーダー学 ○ 演劇・コミュニケーション	創造性、表現力、コミュニケーション力 自己・他者理解と豊かな人間性、リーダーとしての資質能力			トップレベルで活躍するアスリート

1.実践力をみがく「未来創造学」

2.世界に飛び出す学び

3.深い学び・高い学力

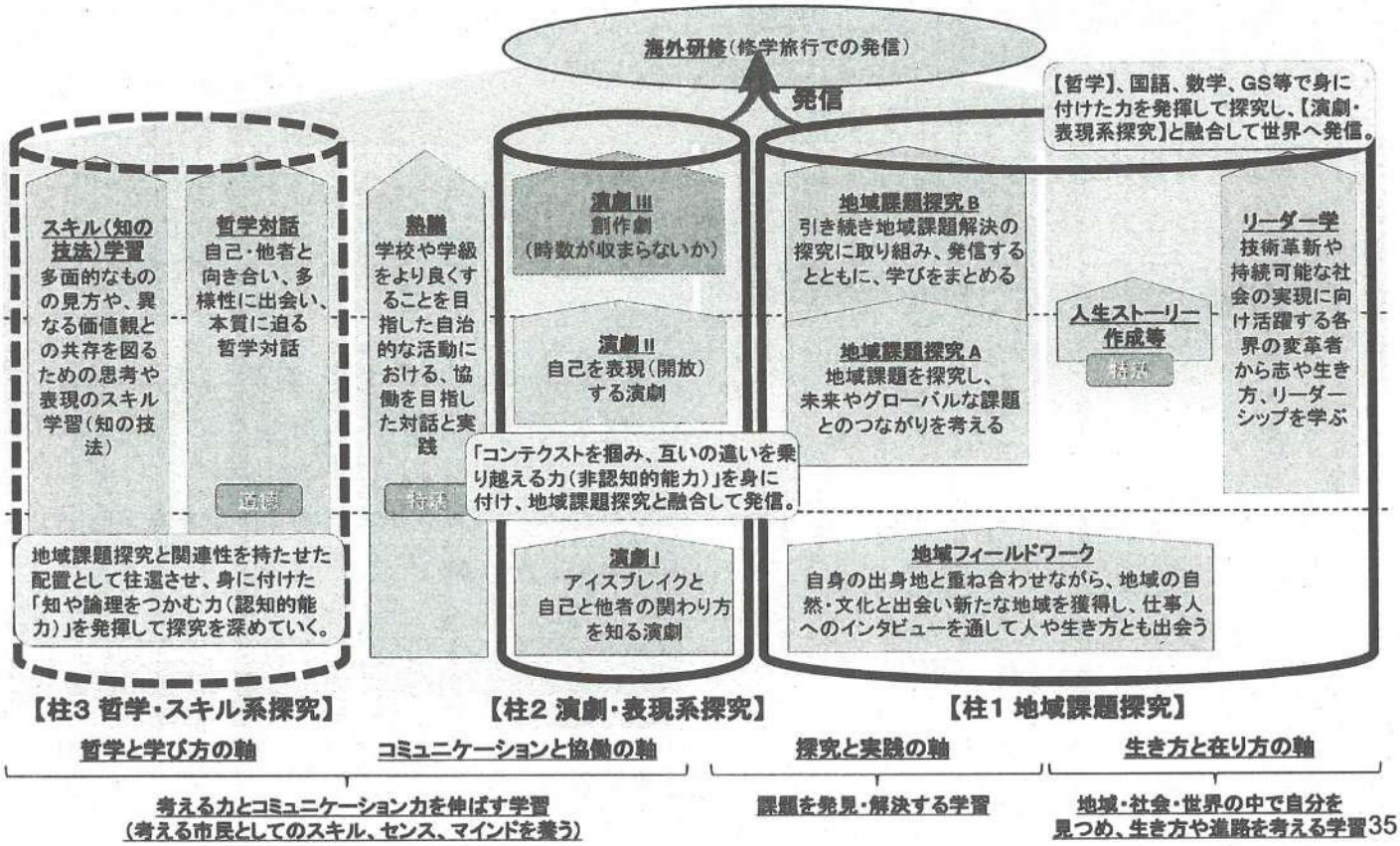
4.未来の主人公となる学び

中学校「未来創造学」全体像

H30.12.3更新

グローバルな視点で地域や世界で活躍するリーダーとしての基本的な資質能力の育成

知識 ・ 技能(スキル・コンピテンシー) ・ 人格(キャラクター・センス) ・ 自らを振り返り変えていく力(メタ認知)



「総合的な探究の時間」は、カリキュラム全体のかなめ

○ 学習指導要領より

第1章 総則 第2款 教育課程の編成 1 各学校の教育目標と教育課程の編成

教育課程の編成に当たっては，学校教育全体や各教科等における指導を通して育成を目指す資質・能力を踏まえつつ，**各学校の教育目標を明確にする・・・その際，第4章の第2の1に基づき定められる目標(総合的な探究の時間)との関連を図る**ものとする。

(高等学校学習指導要領(平成30年3月公示) P5)

第3章第2節1各学校の教育目標と教育課程の編成
第4章総合的な探究の時間第2の1に基づき各学校が定めることとされている総合的な探究の時間の目標については，上記により定められる学校の教育目標との関連を図り，生徒や学校，地域の実態に応じてふさわしい探究課題を設定することができるという**総合的な探究の時間の特質が，各学校の教育目標の実現に生かされるようにしていく**ことが重要である。

(高等学校学習指導要領解説 総則編(平成30年7月) P52)

第4章 各学校において定める目標及び内容
各学校において目標を定めることを求めているのは，①各学校が創意工夫を生かした探究や横断的・総合的な学習を実施することが期待されているからである。それには，地域や学校，生徒の実態や特性を考慮した目標を，各学校が主体的に判断して定めることが不可欠である。また，②各学校における教育目標を踏まえ，育成を目指す資質・能力を明確に示すことが望まれているからである。これにより，**総合的な探究の時間が各学校のカリキュラム・マネジメントの中核**になることが今まで以上に明らかとなった。

(高等学校学習指導要領解説 総合的な探究の時間編(平成30年7月) P22)

○ 中教審での議論より

○ **総合的な学習の時間は、目標や内容を各学校が定めるという点において、各学校の教育目標に直接的につながる。特に、高等学校では総合的な学習の時間がその学校のミッションを体現するものとなるべき**である。

(中央教育審議会 「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について(答申)」(平成28年12月21日))

地域課題を踏まえた目標の設定と探究が、「社会に開かれた教育課程」実現の鍵

○ 学習指導要領より

第4章　総合的な探究の時間　第2 各学校において定める目標及び内容　3 各学校において定める目標及び内容の取扱い

(3) **各学校において定める目標及び内容については，地域や社会との関わりを重視**すること。

(5) 目標を実現するにふさわしい探究課題については，地域や学校の実態，生徒の特性等に応じて，例えば，国際理解，情報，環境，福祉・健康などの現代的な諸課題に対応する横断的・総合的な課題，**地域や学校の特色に応じた課題**，生徒の興味・関心に基づく課題，職業や自己の進路に関する課題などを踏まえて設定すること。

（高等学校学習指導要領（平成30年3月公示）　P641）

第3章第1節1教育課程編成の原則

学校は地域社会を離れては存在し得ないものであり，生徒は家庭や地域社会で様々な経験を重ねて成長している。**地域には，都市，農村，山村，漁村など生活条件や環境の違いがあり，産業，経済，文化等にそれぞれ特色をもっている。**こうした地域社会の実態を十分考慮して教育課程を編成することが必要である。とりわけ，**学校の教育目標や指導内容の選択に当たっては，地域の実態を考慮することが重要**である。そのためには，地域社会の現状はもちろんのこと，歴史的な経緯や将来への展望など，広く社会の変化に注目しながら地域社会の実態を十分分析し検討して的確に把握することが必要である。

（高等学校学習指導要領解説　総則編（平成30年7月）　P24）

第4章　各学校において定める目標及び内容

地域や社会との関わりを重視するということには，以下の三つの意味がある。

一つ目は，総合的な探究の時間では，**実社会や実生活において生きて働く資質・能力の育成**が期待されていることである。二つ目は・・・地域や社会に関わる課題は，自己の在り方生き方と不可分に結び付いたものとして捉え，そこに意味のある課題を発見することが比較的容易・・・**地域での課題の発見や解決に取り組んだ経験を，より普遍的で原理的な問題として捉えるとともに，そのよりよい解決に主体的・協働的に取り組み続け，新たな価値を実現しようとする姿として育成される**。三つ目は・・・**地域や社会の一員であるとの意識も醸成**されるとともに，自己の在り方生き方を深く省察するといったことが期待できる。

（高等学校学習指導要領解説　総合的な探究の時間編（平成30年7月）　P29）

原発被災地から「変革者」育成

第34回時事通信社「教育奨励賞」優良賞受賞校②

●福島県立ふたば未来学園高等学校

未曽有の災害となった2011年の東日本大震災と東京電力福島第1原発事故。教育現場においても例外でなく、福島県沿岸部の8町村（双葉郡）にあった五つの高校は原発事故により避難を余儀なくされた。そのため、13年に「放射能との戦い」「コミュニティの崩壊」「分断と対立」といった困難な地域課題に対応できる人材育成を目指す「双葉郡教育復興ビジョン」が策定。それを実現する高校として15年4月、原発から南に約24キロの広野町内にふたば未来学園高校（丹野純一校長、生徒数432人）は創立した。

初年度は8割の生徒が避難を強いられた双葉郡の住民だったが、現在は4割ほど。「自らを変革し、地域を変革し、社会を変革していく『変革者』を育成する」という教育目標に沿った、原発事故の被災地としての唯一無二のカリキュラムに魅力を感じた生徒が県内各地から集まっている。創立から学校運営に携わってきた丹野校長、南郷市兵副校長らに話を聞いた。（肩書等は取材時）

取材と演劇制作で深まる理解

ふたば未来学園は、前身5校の特徴を引き継ぎ、大学進学を目指す「アカデミック」、スポーツに特化した「トップアスリート」、農業や商業などを専門的に学ぶ「スペシャリスト」の3系列から成る総合高校だ。カリキュラムの柱となるのが、全系列に共通する「探究学習」の授業。3年間で計8単位分、総合的な学習の時間を利用し、被災地でのフィールドワークなどを通じ、生徒一人一人が地域の復興プロジェクトの企画・実施に取り組む。1年次は週2時間の「産業社会と人間」、2～3年次は週3時間の「未来創造探究」を行う。

産業社会と人間では、地域の課題との遭遇、表現がテーマとなる。まず、入学した直後の生徒らは、バスで双葉郡の被災地を複数回に分けて訪問。避難区域の目前まで足を運び、地元で語り部活動をする住民の協力を得て、震災当時の状況を説明してもらう。南郷副校長は「今の生徒は震災時の記憶がおぼろげなので、大人がどんなつらさや課題にぶつかったのかを知ってもらうことが大切」と狙いを語る。

そこから、計30時間ほどかけて演劇制作が始まる。7人ずつのグループに分かれ、商店や農家、町役場から東京電力といった地域の現場を取材し、台本にまとめて表現することを通じて、復興に向けて抱える課題を理解することが目的だ。多面的に課題を見詰めるため、立場や考え方の違いをそのまま表現することがポイントとなる。

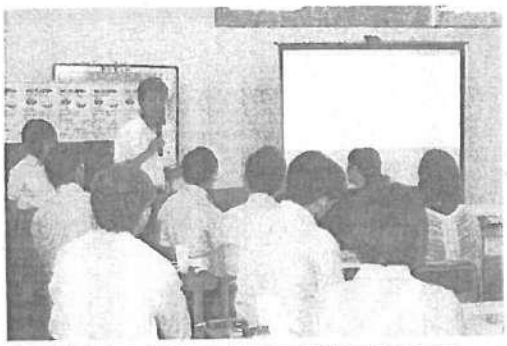
原発事故により県外に避難したある男子生徒は、取材の過程で初めて東電職員の話を直接聞いたことから、職員と避難者の対立を描いた。「廃炉に向けて一生懸命やっていることが分かり、人として好感が持てたけど、東電は憎い。自分がどっちの立場か分からなくなった」と語ったといい、丹野校長は「違う立場の人と出会うことは自身の生き方を問い直すことにもつながる」とうなずく。

2年次からは、未来創造探究を進めていく。選択できるのは▽原子力防災▽メディア・コミュニケーション▽再生可能エネルギー▽アグリ・ビジネス▽スポーツと健康▽福祉と健康――の6班。問題意識を持った事象について個人、あるいは複数人のグループで研究と実践を行う。3年秋には地域住民や教育関係者への発表会、論文作成を行い、大学のゼミのような高度な学習に発展する。

原子力防災では、地域コミュニティーの再生を中心にさまざまなプロジェクトが展開された。震災後に中止に追い込まれた広野町の「浜下り神事」の復活支援、15年に全町避難が解除された楢葉町の公営住宅での交流イベント開催、宮城や山梨両県から学生を双葉郡に招いて被災地の現状を発信する「語り部ツアー」の企画などだ。18年度には、「廃炉作業への住民の関心が低い」との問題意識を持ち、東電職員や大学教授といった専門

家と地域住民を集めて「廃炉座談会」も主催した生徒も。座談会に参加した東京大学の森口祐一教授は「被害地域の高校生が『わがこと』として考えて議論の場をつくった。非常にレベルの高い取り組みで、画一的でなく自由度のあるカリキュラムだからこそできる」と評価する。

アグリ・ビジネス班は、広野町の夏みかん、大熊町のキウイといった特産品を使った商品を開発し、住民が避難する仮設住宅などで販売した。17年には、富岡町の菓子職人から技術を教わり、同町で一部区域が避難解除してすぐに開かれたイベント「復興の集い」で銘菓「大倉山」を振る舞い、住民を元気づけた。スポーツと健康班の生徒は、18年度に、広野町と楢葉町にまたがる大型サッカー施設「Jヴィレッジ」などでの視察を重ね、同施設のスタッフに「民泊を生かしたスポーツイベント」について提言し、意見交換を行った。


廃炉座談会の様子(ふたば未来学園高校提供)

各班こうした取り組みを展開する中、18年度は2、3年生がフィールドワークで少なくとも約70回にわたり町役場や学校、企業、団体などを訪れており、いかに地域に密着しているかが分かる。この他、有志の生徒が、未来創造探究で自身が企画している内容を政府主催の地方創生政策アイデアコンテストに応募し、全国900件もの提案の中から2年連続で入賞するなどの活躍も見せている。

探究学習の活動は地域にとどまらず、1年次はベラルーシとドイツ、2年次は米国ニューヨークでの海外研修を行っている。同校は15年度から「スーパーグローバルハイスクール」に指定されており、国際的リーダーの育成を掲げているためだ。ニューヨークでは、未来創造探究の各班の代表者が国連本部を訪問し、世界の同世代の若者との意見交換を行った。丹野校長は、難民問題を例にとり、「生徒自身も原発事故により避難しており、見方を変えれば難民だ。福島という課題先進地域を深掘りすれば、持続可能な開発目標(SDGs)といったグローバルな課題と通底している」と海外研修の狙いを語る。

ルーブリックで生徒評価

同校の教育を根底で支えているのは「ルーブリック」だ。開校時に着任した教職員が会議を重ね、同校に合った生徒評価の仕組みをつくり上げた。知識・技能・人格・メタ認知の四つの学力概念ごとに計10項目を設け、レベル1～5までの達成度を定めている。項目「寛容さ」のレベル4「考えの違う他者に対して、ユーモアを持って接することができる」や、項目「前向き・責任感・チャレンジ」のレベル5「困難にぶつかっても逃げずに自分の責任を果たし、失敗してもその失敗を糧とできる」など、放射能への不安から開校に反対する声もあったという創立当時の状況から、ルーブリックの言葉一つ一つに教員らの切実な思いが反映された。

生徒たちは半年に1回、ルーブリックの10項目の資質・能力について自身が学校生活全体においてどのレベルまで達しているのかを、それぞれ0～5の6段階で自己評価、生徒同士の相互評価を行う。丹野校長が「生徒の資質能力の伸びを総合的に捉えて伸ばすことが大事」というように、18年度に卒業した2期生は、入学時に平均1・17だった値が3年9月で2・63まで伸びた。

取り組みの成果は、19年2月に2期生を対象に行った「探究学習が生徒の在り方や生き方に与えた影響」のアンケートにも表れた。「卒業後の具体的な進路選択に影響を及ぼしたか」に「大きく影響した」「ある程度影響した」と回答した生徒は57・6%と半数を超えた。「社会とどうやって関わっていきたいかを見いだすことにつながった」には同様の回答が79・8%、「自分の価値観を考えることにつながったか」には86・7%と、いずれも高水準だ。丹野校長は「他者との対話を通して自分を知り、地域との協働により生き方を実践して、自分たちの未来を変えていく力につながる」と力説し、南郷副校長も「自分の生き方、在り方に古里が根付いていれば、たとえ世界に飛び出しても、古里を捨てる人間にはならない」と熱い思いを語った。

(山本舜也＝福島支局)

平成31年度 「産業社会と人間」「未来創造探究」年間計画 第1案（H31.3.31）

1年次 産業社会と人間（水曜6・6校時）

目標と内容

①自分を知る　自己理解から職業人インタビューを通してありたい自分を考える。
②地域を知る　講創を通して地域の様被な地域課題を多面的に理解する。
③世界を知る　JICAやさまざまな国際を肌で感じてきた方から世界の課題を知り、自分、地域、世界をつなげ、2年次からの未来創造探究に繋げる。

月	日	曜	単元	学習単元	学習単位
4	10	水	進路	課題テスト	各教室
	17	水	オリエンテーション・アイスブレイク／コミュニケーションワークショップ		各教室
	24	水	スキル学習	スキル学習（マインドマップ）（自分史）講師　内山智人氏（マインドマップインストラクター）	全体
5	8	水	スキル学習	マインドマップワーク　25歳のクラス会の私（未来の覚醒象）（未来ビジョン）	全体・各教室
	15	水	履修指導	履修上の注意・次年度開設科目説明	全体
	22	水	履修指導	各所別履修指導・模擬登録	全体
	29	水	キャリア	スタディサプリ適性検査　キャリア指導	各教室
6	5	水	キャリア	ライフプラン作成　フューチャーマッピング（若ケ島久美氏）	全体
	12	水	前期中間考査		
	19	水	ふるさと創造塾	フィールドワーク事前指導	全体
	26	水	球技大会		
7	3	水	ふるさと創造塾	双葉郡バスツアー①（双葉郡の人・地域を知る）	フィールドワーク
	10	水	ふるさと創造塾	双葉郡バスツアー②（双葉郡の人・地域を知る）	フィールドワーク
	17	水	ふるさと創造塾／キャリア	振り返り／家族へインタビュー	各クラス／全体
			夏季休業		
8	28	水	キャリア	社会人講話（佐明秀樹氏（東洋システム株式会社　代表）	全体
9	4	水	前期期末考査		
	11	水	スキル学習	質問力ワーク（先生たちに聞いてみよう）職業人インタビュー事前指導	全体
	18	水	キャリア	職業人インタビュー　ー　職場のヒーロー作成①	フィールドワーク
	21	土	3年　未来創造探究発表会		
	25	水	進路	職場のヒーロー作成②　ー　クラス内発表	各クラス
10	2	水	演劇	脚本配布・脚発表・演劇鑑賞・分析・バスツアー先検討	全体
	9	水	演劇	アイスブレイク（2クラス合同×3コマ）×2セット（終日）	全体
	16	水	演劇	バスツアー	フィールドワーク
	23	水	演劇	対話劇WS＆FW前講義（2クラス合同×2コマ×2セット）（4時間目まで）	全体
11	6	水	演劇	バスツアー振り返り/FW先検討	各クラス
	13	水	後期中間考査		
	20	水	演劇	FW発表/質問づくり	全体
	27	水	演劇	フィールドワーク	フィールドワーク
12	2	月	演劇	演劇（終日）	全体
	3	火	演劇	演劇（5～NS1）（終日）	全体
	4	水	演劇	演劇（終日）	全体
	5	木	演劇	演劇（1中間発表、2～演技練習）（終日）	全体
	6	金	演劇	クラス発表（終日）	全体
	10	火			
	11	水	演劇	学年代表	全体
	18	水	演劇	演劇振り返り	全体
			冬季休業		
1	15	水	国際理解教育	国際理解講座①　難民支援　講師　高進部勝子氏（エイドワーカー）	全体
	22	水	国際理解教育	国際理解講座②　温暖化とエネルギー　講師　環境省	全体
	29	水	国際理解教育	国際理解講座③　起業・イノベーションと環境　講師　庄司秀樹氏（東洋システム株式会社　代表）	全体
2	5	水	キャリア	ライフプラン（世界・地域と私）	全体
	12	水	後期期末考査		
	19	水	探究	探究接続ワークショップ	全体
	26	水	キャリア	カタリ場プログラム	全体
3	4	水	前期選抜試験		
	11	水	選抜追検査		
	18	水	まとめ	産業社会と人間振り返り	全体

2年次 総合的な学習の時間（未来創造探究（水曜5・6校時）

①　福島県及び企業・関係団体、大学・国際機関と連携し、グローバルな課題である「原子力災害からの復興」をテーマの中心に据え、その原因、背景、過程について問題事例なども参考にしつつ、探究・検証し、グローバルな視点から地域課題の解決及び地域再生の実践を行う。
②　国内外での探究成果発表や提言を行う。

月	日	曜	フェーズ	学習単元	学習形態	学習内容
4	10	水	ステージ1	探究導入①（オリエンテーション）	全体	・未来創造探究概要　・課題の構造化 ・なりゆきの未来　・マインドマップ
	17	水		探究導入②（探究テーマの絞り）	全体	・本屋の店頭で本屋ロールモデル①「自分の興味関心を深める　・地域の課題と結ぶ付け」
	24	水		探究導入③（人形先の検討）	全体	・3年生の取り組み共有　・原爆生方語ワーク　・探究班選択の一次調査
5	1	水		探究仮人形（仮人形）	3年探究班	・仮人形・3時間目・4時間目の2回 ・探究テーマの検討
	15	水		仮テーマ設定	全体	・探究したい仮テーマ決め ・参加する探究班決め（二次調査）
	22	水		探究への起風	探究班	・チームビルディング
	29	水		課題設定①	探究班	・チームビルディング ・仮テーマ検証①
6	5	水		課題設定②	探究班	・仮テーマ検証②
	12	水		前期中間考査		
	19	水		情報収集調査	5時間目全体 6時間目クラス	・5校時（整理・分析）のためのスキルインプット　・6時間（整理・分析）ワーク
	26	水		球技大会		
7	3	水		課題設定③	探究班	・仮テーマ検討③
	10	水		ヒューマンライブラリー	全体	・地域の人と繋がる
	17	水		課題設定④	探究班	・仮テーマ検討④ ・夏休みの計画立案
				夏期休業		
8	28	水		思内報告会	探究班	・本テーマ発表 ・夏休みの取り組み内容発表 （各班のテーマ一覧の完成） ・第①次探究班の検討
9	4	水	ステージ2（1）（2）	前期期末考査		
	11	水		情報収集・整理分析（実践①）	探究班	・本テーマ検討①
	18	水		情報収集・整理分析（実践②）	探究班	・本テーマ検討②
	21	土		3年　未来創造探究発表会		
	25	水		情報収集・整理分析（実践③）	探究班	・本テーマ検討③
10	2	水		情報収集・整理分析（実践④）	探究班	・本テーマ検討④
	9	水		情報収集・整理分析（実践⑤）	探究班	・本テーマ検討⑤
	16	水		プレゼンテーション講座	全体	・プレゼンスキル
	23	水		プレ発表会準備①	探究班	・プレ発表会準備
11	6	水		2年　未来創造探究プレ発表会		
	13	水		後期中間考査		
	20	水		振り返り ループリック	探究班	・振り返り ・PROG－H（リテラシー）
	27	水		研究の主旨となる現状の再検討 地域関係の調査	全体 探究班	・思考法によるテーマ絞証 ・修学旅行先で自分の探究を深める計画
12	2	月				
	3	火		修学旅行	修学旅行	終預式
	4	水		修学旅行	修学旅行	
	5	木		修学旅行	修学旅行	
	6	金		修学旅行	修学旅行	
	10	火				
	11	水		修学旅行の振り返り	探究班	・修学旅行で見つけた自分の探究との関連すること
	18	水		冬休みの計画	探究班	・冬休みのプロジェクト計画練て
				冬季休業		
1	15	水		思内報告会	探究班	・冬季中プロジェクト報告
	22	水		プロジェクト実践①	探究班	・実践進捗報告①
	29	水		プロジェクト実践②	探究班	・実践進捗報告②
2	5	水		プロジェクト実践③	探究班	・実践進捗報告③
	12	水		後期期末考査		
	19	水		プロジェクト実践④	探究班	・実践進捗報告④
	26	水		発表会準備	探究班	・中間発表会準備
3	4	水		前期選抜試験		
	11	水		選抜追検査		
	18	水		2年　未来創造探究中間発表会		

2年次 総合的な学習の時間（未来創造探究（キャリア）（水曜3校時）

①　探究活動を進めると同時に、自分と社会のかかわり方を考え、自分のキャリア設計を行う。
②　小論文作成などを通じ、自分の考えを明示的に報年に伝えられる力を養う。

月	日	本曜3	本曜4 LHR	企画より提案
4	11	進路希望調査	ルーブリック	
	18	適性検査		
	25	オリエンテーション		
5	9	履修指導	履修指導	
	16	キャリア①		
	23	キャリア②		
	30	キャリア③		
6	6	キャリア④	履修希望	
	13	前期中間考査		
	20	小論文①（6月）		
	27	球技大会		
7	4	・問題×論理思考		
	11	・輪読　※図書館活用		
	18	・輪読　※図書館活用		
		夏期休業		
8	29	小論文②（8月）		
9		前期期末考査		
	12	・理科×福島学①		
	19	・理科×福島学②		
	26	・数学×スキル		
10	3	進路ガイダンス		・輪読　※図書館活用
	10	キャリア⑤		・輪読　※図書館活用
	17	小論文②（10月）		
	24	文化祭準備	文化祭準備	
11	7	・PROG－H（コンピテンシーベース）とSDGs		
	14	後期中間考査		
	21	修学旅行準備①		
	28	修学旅行準備②		・リフレクション調査　PDCAサイクル
12				
	12	・リフレクション調査　PDCAサイクル		
	19	小論文④（12月）	小論文模試	
		冬季休業		
1	16	・プロジェクトマネジメント講座（生徒向け）		
	23	・社会×福島学①		
	30	・社会×福島学②		
2	6	キャリア⑥（振り返り）		
	13	期末考査		
	20	小論文⑤（2月）		
	27	リライト		
3		前期選抜試験		
	12	キャリア⑦（未来計画）		
	19	補書式		

3年次 総合的な学習の時間（未来創造探究（水曜5・6校時）

①　福島県及び企業・関係団体、大学・国際機関と連携し、グローバルな課題である「原子力災害からの復興」をテーマの中心に据え、その原因、背景、過程について問題事例なども参考にしつつ、探究・検証し、グローバルな視点から地域課題の解決及び地域再生の実践を行う。
②　国内外での探究成果発表や提言を行うとともに、探究内容を論文に凝縮する。
③　取り組んできた探究と自身の学習の動機を重ね合わせて思考したセルフエッセイを執筆し、自己の生き方をより方に繋げる。

月	日	曜	フェーズ	学習単元	学習形態	学習内容
4	10	水	ステージ3	2年生の取り組り	全体	・中間発表会振り返り ・目標設定　・self essay記述
	17	水		探究①	探究班	Self Essay記述 ・中間発表の反省を踏まえた探究の再考察とまとめ ①．異常/ナナストラクチャル化
	24	水		探究②	探究班	・中間発表の反省を踏まえた探究の再考察とまとめ ②　・仮人形2年次受け入れ準備
5	8	水		探究仮人形	探究班	・3年次生探究紹介と2年次生へのアドバイス
	15	水		探究③	探究班	・探究活動（プロジェクト検証を受けた課題の再考察）
	22	水		探究④	探究班	・探究活動（プロジェクト検証を受けた課題の再考察）
	29	水		探究⑤	探究班	・探究活動（プロジェクトの深堀）
6	5	水		探究⑥	探究班	探究活動（プロジェクトの深堀）
	12	水		前期中間考査考査		
	19	水		探究⑦	探究班	探究活動（プロジェクトの深堀）
	26	水		球技大会		
7	3	水		探究⑧	探究班	探究活動（プロジェクトの深堀）
	10	水		探究班発表会	探究班	探究班内発表会
	17	水		プレゼンテーション講座	全体	プレゼンテーション講座
				夏期休業		
8	28	水		探究⑨	探究班	探究活動（プロジェクトの深堀）
9	4	水		前期期末考査		
	11	水		探究考察①（この地域の課題とは？）	探究班	・探究活動（プロジェクト検証を受けた課題の再考察）　・発表会準備
	18	水		探究考察②（課題の構造化）	探究班	・探究活動（普遍的課題を抽出） ・発表会準備
	21	土		未来創造探究発表会　全体　・発表会		
	25	水		探究振り返り	探究班	・ループリック
10	2	水		評価	探究班	・汎用的能力測定テスト？　GPSアカデミック
	9	水		論文作成オリエンテーション	全体	・論文作成・進路対策
	16	水		論文作成	探究班	・論文作成・進路対策
	23	水		論文作成	探究班	・論文作成・進路対策
11	6	水		未来創造探究2年次プレ発表会		
	13	水		前期期末考査		
	20	水		論文作成	探究班	・論文作成・進路対策
	27	水				
12	2	月				
	3	火				
	4	水		論文作成	探究班	・論文作成・進路対策
	5	木				
	6	金				
	10	火				
	11	水		論文作成	探究班	論文作成・進路対策
	18	水		論文作成	探究班	論文作成・進路対策
1	15	水		冬期休業		
	22	水		論文1次提出	探究班	論文作成・進路対策
	29	水		論文修正	探究班	
				論文修正　2次提出	探究班	論文作成・進路対策
2	5	水		自宅学習期間		
	12	水				
	19	水				
	26	水				

3年次 総合的な学習の時間（未来創造探究（キャリア）（水曜3校時）

下記の活動を通じて直近の志望校選定や就職先選定を意識しつつ、それだけに留まらないライフサイクルを見越したキャリア構築を目指す。
①　自己を見つめ、自身のキャリア設計を深める。
②　自らの生き方を見つめながら志望理由を考え、自分の言葉で表現できるようにする。
③　各教科で学習した内容を最大限に活用し、現状、世界で起こっている問題に対して自分の意見を持つことで、自立性を養う。

月	日	曜	進学	就職	本曜4 LHR
4	11	木	進路調査		
	18	木	クレペリン検査		
	25	木	小論文演習①（パムラ学振り返り）	職業について理解する①	
5	9	木	志望理由書調査	職業について理解する②	
	16	木	志望理由書ワーク①1	自分に合った企業を考える①（企業が求める人物像）	
	23	木	志望理由書ワーク②2	自分に合った企業を考える②（自己理解）	
	30	木	志望理由書ワーク③（面接課題・LHRと連絡）	自己PRを考える①	進学 志望理由書添削
6	6	木	受験計画の作成①	自己PRを考える②	
	13	木	前期中間考査		
	20	木	受験計画の作成②	志望の動機を書いてみよう	
	27	木	小論文演習③	履歴書の書き方と求人票の読み方①	
7	4	木	小論文演習④	履歴書の書き方と求人票の読み方②	
	11	木	小論文模試（LHRと連続）	応募前職場見学に向けたマナー指導①	進学・小論文模試
	18	木	志望理由書ワーク④（面談振り返り）	応募前職場見学に向けたマナー指導②	
			夏期休業		
8	29	木	小論文講演会・模試振り返り（LHRと連続）	面接指導	進学 小論文講演会
9	5	木	前期期末考査		
	12	木	模擬面接の準備	就職試験直前面接指導	
	19	木	模擬面接①	お礼状の書き方（面談料との連携）	
	26	木	模擬面接②	試験対策（未決定者） 礼状作成（内定者）	
10	3	木	個人対策（志望理由書・小論文・面接）	試験対策（未決定者） 一般常識学習（内定者）	
	10	木	個人対策（志望理由書・小論文・面接）	試験対策（未決定者） 一般常識学習（内定者）	
	17	木	個人対策（志望理由書・小論文・面接）	試験対策（未決定者） 一般常識学習（内定者）	
	24	木	文化祭準備		
	31	木	個人対策（志望理由書・小論文・面接）	社会人に必要な知識（演習）	
11	7	木	個人対策（志望理由書・小論文・面接）	社会人に必要な知識（演習）	
	14	木	後期中間考査		
	21	木	個人対策（志望理由書・小論文・面接）	労働法について考える	
	28	木	受験報告書作成	労働法について考える	
12	5	木	受験報告書入力	ビジネスマナー講習会（ハローワーク講師）	
	19	木	論文作成	ワークルール講習会（外部講師）	
1			冬期休業		
	16	木	論文作成	税に関する講習会（税理士会）	
	23	木	論文作成	社会人講話（就職アドバイザー）	
	30	木	振り返り	社会人になるにあたっての話	
2	6	木	自宅学習期間		
	13	木			
	20	木			
	27	木			

未来創造探究プロセス全体イメージ（案）

おおむねの時期と探究のチェックポイント	２年次生前期	２年次生後期	３年次生前期	３年次生後期
	プレ発表会（２年次１１月上旬）時点 ○ 地域が抱える課題をおさえている ○ 自分が取り組みたい課題設定が決まっている ○ 課題解決に向けた調査や実践の報告がある ○ 新たに見えてきた課題の報告がある	**中間発表会（２年次３月末）時点** ○ 全国や世界の課題と照らし合わせた考察がある ○ 課題解決に向けた調査や実践の報告がある	**未来創造探究発表会（３年次９月）、論文作成（３年次１月）** ○ 全国や世界の課題と照らし合わせた考察がある ○ 課題解決に向けた調査や実践の報告がある ○ 社会や未来に向けた提言がある ○ 学んできた内容を自分の進路や生き方に繋げている	

＊探究プロセスの詳細

生徒の探究Stage	Stage１	Stage2（１）	Stage2（２）	Stage3			Stage4
	調査研究			解決のためのアクションと考察			考察と論文
	問題発見 課題設定	現状分析	解決仮説	解決アクション① 考察 新たな課題	解決アクション② 考察 新たな課題	解決アクション③ 考察 新たな課題	考察 論文作成 進路実現
探究内容	問立て 目標設定 研究勉機 哲学対話	調査 調査のためのアクション 整理・分析	解決のためのアクション仮説 構造化し他の問題・課題との関係性を知ること	解決のためのアクション 考察 より本質的な問題の発見 新たな課題設定 具体的な解決アクション	解決のためのアクション 考察 より本質的な問題の発見 新たな課題設定 具体的な解決アクション	解決のためのアクション 考察 より本質的な問題の発見 新たな課題設定 具体的な解決アクション	考察 論文作成 提言 進路実現
具体的行動	【調査のためのアクション】 文献調査／インターネット等を使った調査 アンケート調査／フィールドワーク／諸団体との共同調査			【解決のためのアクション】 実験／プロジェクト実施／大学との共同研究 企業との共同研究／行政との共同プロジェクト／プロジェクト実施のための資金準備等			論文作成 進路実現
	【考察】 輪読・読書会 生徒同士でのディスカッション／教員とのディスカッション			【考察】 報告・発表を通したフィードバック／教員とのディスカッション 仮説と実施結果の比較／学会等によるフィードバック セルフエッセイ完成			
協働／個別	協働で行うと良い段階			プロジェクトごとに個別で行うべき段階			

＊想定される生徒の探究姿勢

守（受容的な姿勢） Be Receptive 問題状況を把握し課題設定を行う 現状や事実を正確に知る	○	○	○	○	○	○	○
破（生成的な姿勢） Be Generative 現状を他の事例や考え方と繋げる 課題解決の仮説を立て、自分なりのプロジェクトを実践する			○	○	○	○	○
離（持続的にプロジェクトに取り組む姿勢） Be Persistent プロジェクトの実践を振り返りフィードバックをかける 実践の課題から次なる段階の実践を創造する（実践の連鎖）					○	○	○

＊教員の関わり方

【インストラクター的な関わり 】 **・・・答を持っていて教える** ○ しっかりとした課題設定のための、未来像を個人、または班の中で共有させる。 ○ 何のための調査、現状把握なのかをしっかり意識させる。 ○ 現状把握の際の調査においては、文献だけでなく実地調査、RESAS等の最新の情報にアクセスさせる。 ○ 未来ビジョンを想定させるときには、自由にできるだけ創造的に行わせる。（様々な未来予測などを使う） ○ ブレインストーミングについては生徒が良しくしたりブレーキをかけることの無いようにファシリテーションする。	未来ビジョンを立て、現状をしっかり分析するために探究を促進させる	○	○
【ファシリテーター的な関わり方】 **・・・引き出す** ○ 生徒自身の探究だけでなく、他の生徒や、実社会で行われていることなども知れるような環境づくりをする。 ○ 国内・世界の問題の構造にも興味が持てるように、インプットをしてあげる。 ○ 一見不可能に見えるアイデアであっても、問いかけを通して深化させる。 ○ 学校だけでは不可能な計画がある場合、外部との連携で可能になるかどうか柔軟に考えさせる。 ○ 人と違うことを楽しませる。 ○ 企画書などの作り方を伝え、実現するために必要なことなどを自分から気が付くように配慮する。 ○ 先生自身も一緒に楽しんでアイデアを出す。	○	自分のテーマだけでなく、様々な事例にアクセスし、構造的な解決策が出るようにさせる	○
【メンター的な関わり方】 **・・・精神的にサポートする** ○ 生徒自身がどんどんチャレンジできるようにバックアップする。ただし、外部での活動に関しては、必ず学校側が把握できるようにする。 ○ 常に生徒が、ポジティブな未来を語れる（語り合える）環境づくりをする。 ○ 論文作成については、アブストラクト（要旨）をしっかり作ったうえで、規定にのっとった形で作成するようにする。 ○ 考察については、①テーマと自分、②テーマと他の事例、③テーマと世界の問題の3つについてのつながりを意識させる。			PDCAをしっかり回し、未来ビジョンを常に頭に置きながらプロジェクト実践と考察を繰り返させる

＊探究ステージ到達評価のためのルーブリック（今後精査）

	Stage1 問題発見	Stage2(1) 現状分析	Stage2(2) 解決仮説	Stage3 解決アクション①	Stage3 解決アクション②	Stage3 解決アクション③	Stage4 考察
Level5	精査中						
Level4							
Level3							
Level2							
Level1							

本日の公開授業の展開について

R02. 02. 04

２年生：　未来創造探究（総合的な学習の時間）

○ 「未来創造探究」は、本校のルーブリックで示した資質・能力を育成していくことを目指した、カリキュラム全体の核となるゼミ形式の授業です。

○ 生徒は希望に応じて６つの探究ゼミに分かれ、２～３年生までの２年間にわたって、福島・双葉郡の復興を後押しし、持続可能な地域を創造していくことを目指した、実社会での実践を行います。

※ ２・３年次の合計６単位（２年生 週３時間、３年生 週３時間）

○ **２年次の現状：**

昨年５月に所属ゼミが本決定して以降、６つのゼミごとに探究活動を展開しています。

夏～秋にかけて、テーマ設定に向けた「調査のためのアクション」を複数回実施し、１０月末のプレ発表会で自らの探究テーマを発表しました。現在は、 授業内外で地域の方々の協力を得ながら、 探究テーマに基づく「解決のためのアクション」に取り組んでいます。**３月までに、各プロジェクト最低１回の「解決のためのアクション」に取り組んだ上で、そこまでの学びを発表する中間発表会に臨むこととなります。**

１年生：　産業社会と人間

○ １２月まで、平田オリザ氏と青年団から演劇ワークショップをはじめとしたコミュニケーション教育を学んできました。その後、班ごとに演劇制作に取り組み、今年は２回にわたって双葉郡の課題を知るバスツアーも行いました。浪江、大熊、富岡、楢葉、広野等のコースに分かれて、現地を視察しながら震災時の話を住民の方々からお聞きし、双葉郡の課題の原点を知りました。

○ **１年次の現状：**

本時は「調べ学習アワード」と、銘打った発表会です。これまで生徒は冬休み以降の期間を用いて自分自身が興味を持ち、他に伝えたいことについて調べてきました。１月３０日にはクラス内発表会に全員が臨み、本時ではクラス代表となった生徒が発表します。２年次より始まる探究活動においては、自分で問いや課題を見つけ、他人と対話・議論をしながら、自分独自の答えを見つけ出そうとする力が必要とされます。その過程においては、適切に情報を選択し処理する力も欠かせません。その準備段階として、自分の興味のあることについて徹底的に調べてまとめ上げ、外に発信する力を身に付けるために行う取り組みです。**本取り組みは、２年次からの探究の質的向上を目指して今回初めて実施するものです。**

令和元年度　産業社会と人間・未来創造探究（総合的な学習の時間）　概要（R01.5.15現在）

	2・3年						1年
活動時間	水曜日5・6校時						水曜日5・6校時
	未来創造探究						産業社会と人間
目的	1. 福島県及び企業・関係団体、大学・国際機関と連携し、グローバルな課題である「原子力災害からの復興」をテーマの中心に据え、その原因、背景、過程について同種事例なども参考にしつつ、研究・検証し、グローバルな視点から地域課題の解決及び地域再生の実践を行う。 2. 国内外での研究成果発表や提言を行う（復興庁、環境省、自治体等）						地域の課題を多面的に見つめ、復興への取組の実践を通して、自らの生き方を考える
ゼミ	原子力防災探究	メディア・コミュニケーション探究	再生可能エネルギー探究	アグリ・ビジネス探究	スポーツと健康探究	健康と福祉探究	ふるさと創造学
探究内容	○ 原子力災害によって失われた地域コミュニティの再構築について探究する。 ・エネルギー、コミュニティ再生、産業再生等、新たな社会システム創造を模索	○ 海外を含めた、異文化の方々に向けた情報発信やコミュニケーションの有効な方策を探究する。 ・風評や風化のメカニズムの研究 ・情報が社会に与える影響の研究 ・様々なメディアの可能性や先端技術・事例の研究 ・実際のメディア制作	○ 福島の現状を踏まえた、望ましい人間社会と、地球環境やエネルギーの関係性について探究する。 ・福島のエネルギーについて知る。 ・諸外国のエネルギー政策の研究 ・再生可能エネルギーの先端技術の研究 ・生成可能エネルギー先駆けの地である福島を国内外に広く発信していく。	○ 福島の復興につなげる、今後の農業とビジネスを探究する。 ・農林漁業生産と加工・販売の一体化や、地域資源を活用した新たな産業の創出を促進するなど、農山漁村の6次産業化を推進（農業「総合実践」商業「商品開発」等で実践）	○ 福島の地域を、スポーツを通じて豊かにする方策を探究する。 ・総合型地域スポーツクラブによる地域の絆の強化、健康増進、子供たちのスポーツ環境支援、トッププロと地域スポーツの好循環 ・五輪を契機とした地域社会の活性化の方策	○ 福島の地域において、少子高齢化が加速する中での健康長寿の実現の方策を探究する。 ・中核病院、地域医療、介護、福祉が結びついた、地域包括ケア	○前期末～後期演劇 ○各種スキル学習 ○講演会・ワークショップ等
学習する知識	○ 現代社会の課題と、福島復興の課題のつながり ○ 科学技術と人間社会の関わり（科学技術を利用した持続可能な社会の消費、データから見る環境・エネルギー等の将来像） ○ 地域再生に取り組んでいる産業者を講師として招聘し、地域産業とはどのようなことか、リアルなイメージを持つ						○ 地域の課題発見 ○ 表現力育成 ○ チームワーク力、議論する力
活動場所	2-2教室	2-3教室	理科実験室２	選択教室11・12	2-1教室、選択教室1、ALS	2-4教室	みらいシアター

2020年2月4日

「産業社会と人間」

～調査研究アワード2020～

【はじめに】

生徒たちが、２年生から行う未来創造探究。その中で多くの生徒たちは、未来を描き、それを形にしていく“課題達成型（付加価値型）”の探究を行っている。しかし、探究を進める上で重要なことは、探究のステージごとに様々な疑問や自分からわき上がる問いに対して真摯に向き合い探究していくことでないでしょうか。

今回１年生は、この探究の接続として、探究学習の基礎になる「調べ学習（調査研究）」のアワードを開催することになりました。

テーマは、生徒それぞれが、興味あることについて今ある知識を広げ、新たな知識を増やし、その情報を編集し、価値のあるものをつくり、そして発表することです。

まだ１年生ではありますが、それぞれの切り口で、自分たちの調査したものをまとめ上げ、発表しますので、是非発表をお聞きいただき、ご意見いただけますようお願いいたします。

【スケジュール】

司会：坂本華凜（１年４組）

３校時目（10:50～11:40）

(1) 開会の挨拶

(2) カタリバから

(3) 生徒発表①（８名）

４校時目（11:50～12:40）

(4) 生徒発表②（８名）

(5) 講評

(6) 結果発表／表彰

(7) 閉会の挨拶

【特別審査員】

審査委員長：本田詩織さん（カタリバ）

審査委員　：（１組）／（２組）／（３組）／（４組）

【発表順】

《３校時目（生徒発表①）》

１．川俣俊大

２．畠山潤也

３．長岡嘉人

４．青柳彩音

５．渡辺初美

６．井土俊佑

７．坂本颯太

８．Mr.　X

《４校時目（生徒発表②）》

９．Mr.　Y

１０．高橋知那

１１．鈴木隆大

１２．宮迫柚

１３．八島光

１４．木田晏奈

１５．諏訪光

１６．戸田麻奈未

【審査方法】

特別審査員と会場の生徒による投票で行う

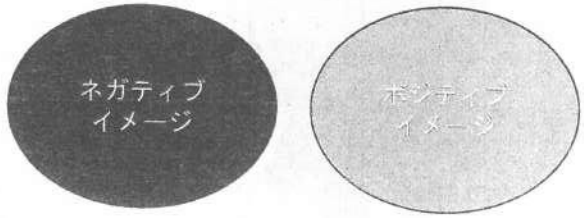
調査研究探究アワード　発表者一覧

		発表者	テーマ	内容
1組	1	鈴木隆大	AIが仕事を奪うとは？	2029年にAIが人間並みの知能を備え、2045年に全人類を合わせてもかなわないスーパーAIが現れるシンギュラリティが来ると言われています。そんな未来で人間はどう生きていくべきなのかを調査しました。映像をたくさん使ってプレゼンします。
	2	長岡嘉人	？？？？	内容は発表まで内緒です。ただ、私の調査研究したものは、多くの人に夢や希望を与え、多くのスーパースターを生み出したことは言うまでもない！実験もしてみました。楽しんでもらえるとうれしいです。
	3	諏訪 光	現代のお金	お金って何でしょう？お金について深めていくとある1つのキーワードが出てきます。私の発表を聞けば、皆さんが使っているツイッターやインスタグラムをこれまでと違った見方で見れるようになり、大きなチャンスをつかめるかも知れません。
2組	1	髙橋知那	ダイエットについて	「一度は悩んだことがある！」という人も多いのでは？ダイエットの光と影について、実体験をもとに赤裸々に語ります！
	2	畠山潤也	Cat&chocolate	「Cat&chocolate」とは一体何でしょう？？「？」と興味を持ったあなたにとっては一見の価値あり！あなたの頭もきっとやわらかくなるはずです。
	3	坂本颯太	コアラのマーチ	誰もが知るお菓子、「コアラのマーチ」の秘密に迫ります。聞いたら誰かに教えたくなること間違いなし！の情報盛りだくさんです。
	4	八島光	ROLAND	現代ホスト界の帝王、ROLAND。読めば心に刺さる、不思議と自信がわいてくる名言と共に彼の魅力をお届けします。
3組	1	青柳彩音	山田悠介について	山田悠介！Hey!Say!JUMPの･･･それは涼介。私が今回発表するのは悠介！彼の作品を言えばあ～あの人か！とかならずわかるでしょう。彼は、なぜ小説家ではなくエンターテイナーと呼ばれるのか？この発表を聞けば、小説や映画を見たくなるはず。
	2	井土峻佑	スポーツと怪我の関係性	スポーツを行うものにとって、決して避けられない話題である「怪我」。プロスポーツ選手でも、怪我のせいで、試合に長期間出れなくなったり、最悪の場合引退することになったり、とても重大な問題です。今回は、「痛み」と「怪我」の違い、怪我をしにくくなる体の作り方など様々な視点から「怪我」について考えたいと思います。
	3	木田晏奈	南部鉄器	日本の偉大な伝統文化の１つである南部鉄器をご存じでしょうか？約３５０年の歴史を持ち、日本だけでなく海外でも人気の鉄器です。今回は皆さんに、この南部鉄器がもたらす魅力だけでなく、驚くべき効果もご紹介します。きっとほしくなるはず！
	4	宮迫柚果	シマエナガについて	「シマエナガ」って何でしょう？森の妖精・雪の妖精ともいわれます。何を連想しますか？この妖精の魅力と見た目からは想像できない性格など、余すところなく紹介します！
4組	1	川俣俊大	世界一醜い魚ブロブフィ	僕はブロブフィッシュという魚について調べました。この魚はまだあまり知られていない魚であり、とても興味が湧いたので調べました。とってもかわいい魚なのでみんなも好きになります。保証します。
	2	戸田麻奈未	ディズニーの悪役たち～知らない⑩のこと～	知っているようで知らないディズニーの悪役たちについて調べました。みなさんは普段プリンセスにあこがれて悪役は嫌われがちです。ですが、ディズニーの悪役たちは細かいところまで意味や秘密が隠されています。そこに注目し、よりディズニーがおもしろくなる豆知識をご紹介します。これを知ってディズニーを好きになってもらえると嬉しいです。そして、今日から悪役たちに対する印象が変わるかもしれません。
	3	渡辺初実	結婚式について	「結婚式」という言葉はご存知だと思います。しかし、「結婚式って何？」「どんなことをするの？」と問われると、専門的な知識がなければぱっと答えるのは難しいですよね。私は「ブライダルプランナー」という夢を実現させたいので、まずは基本的なことから知っておかなければいけないと思い、「結婚式」について調べました。皆さんも数年後、結婚式を挙げる日が来るかもしれません。少し説明が不足しているところがあると思いますが、知っていて損はないので、温かい目で見ていただければ幸いです。
special①		Mr.X	？？？？	
special②		Mr.Y	？？？？	

双葉郡のイメチェン

ふたば未来学園高校　3年　鶴飼夢姫

探究の目的



双葉郡に新たなポジティブなイメージを根づかせたい

➡「双葉郡のイメチェン」

情報発信

自分たちで**商品の開発**

たくさんの人の**関心あつめる**

広告を作成

正しい情報を知ってもらおう！！

トラブル①

私たちは商品製造ができない！

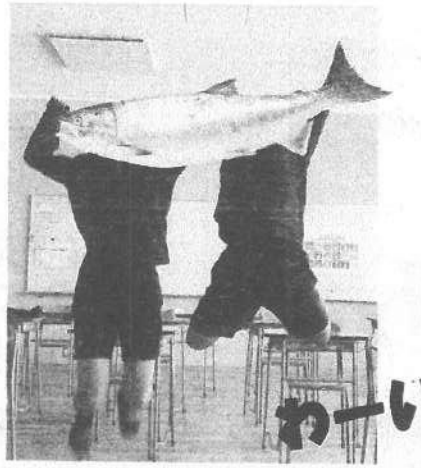
西野屋食品株式会社　社長

トラブル②

電話した６月は、

鮭のシーズンじゃない！！

無事譲っていただけることに！



木戸川漁協 鈴木さんの思い

情報はSNSで簡単に入手できるが、
来てみないとわからない。
鮭を買ったり、実際に訪れ一泊すれば
肌で感じるものがきっとあるから、
それを**家族や友人に伝えてほしい。**
会話を通して風評被害を払拭していけば
安心感が増すのではないか。

頑張っている人がいることに
気付いてほしい

完成した商品がこちら！！

税抜４００円

読売新聞

ニュース

いわきの食品会社協力　都内でも販売へ　木戸川サケでフレーク　ふたば未来の２人考案

2019/10/01付

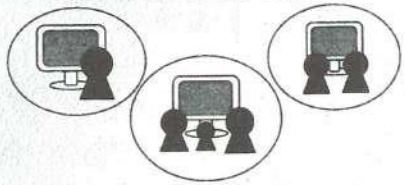
鮭フレークを
混ぜ込んだご飯➡

萩生田　光一　文部科学大臣へのプレゼンの様子

私たちの取り組み

食べる・広告見る
⇩
双葉郡に興味を持って調べる
⇩
食べてみたい・行ってみたい
⇩
行って実感
⇩

復興庁の取り組み



CM見る
⇩
福島県に興味を持って調べる
⇩
もっと知りたい・行ってみたい
⇩
行って実感
⇩

間接的情報に惑わされる人、偏見を持つ人がいない社会

←内堀福島県知事を
表敬訪問

総合学科研究成果発表会
最優秀賞受賞→

木戸川で獲れた鮭をつかったフレーク

木戸川の鮭への想い

双葉郡に対する風評被害はまだたくさんあります。双葉郡の情報はSNSで簡単に手に入れることができますが、現地に来てみないとわからないことがたくさんあります。鮭を買ってくれたり、実際に訪れ、さらに一泊してもらえたりすれば、肌で感じるものがあるだろうし、そしてそれを家族や友人に伝えてほしいです。会話を通して風評被害を払拭していけば安心感が増すのではないかなと思います。

双葉郡のイメージを変えたい

ふたば未来学園高校には、東日本大震災の影響を受けた双葉郡が今抱えている課題を知り、生徒独自のプロジェクトを立ち上げ、課題解決に取り組む未来創造探究といった授業があります。双葉郡には福島第一原子力発電所事故によってネガティブなイメージが根付いてしまいました。そういったネガティブなイメージを払拭するために、私たちは双葉郡に新たにポジティブなイメージを根付かせることが復興のために必要だと考え、このプロジェクトを「双葉郡のイメチェン」と名付けて活動をしています。ポジティブなイメージを根付かせるために開発したのがこの「木戸川産　鮭フレーク」です。この商品を通してたくさんの方々に双葉郡に興味を持ってもらい、足を運んでいただくことで活気あふれる「新しい」双葉郡をつくりたいと考えています。

安くて美味しい木戸川の鮭

楢葉町にある木戸川漁業協同組合（以下、木戸川漁協）は二〇一五年から活動を再開しており、直売所での鮭の切り身やイクラの販売も行われています。鮭の収穫量はまだ震災前ほどではないですが、二〇一九年以降徐々に増えるだろうと言われており、今後収穫量が上がることが予想されています。また十月に二回、十二月に二回の計四回モニタリング検査が行われており、国で決められているモニタリング検査の安全基準は一〇〇ベクレルと定められていますが、木戸川漁協ではその基準を二十五ベクレルまで引き下げており、売り出されるすべての鮭はこの数値を下回っています。さらに、とてもお安く手に入れることができ、リピーターの方はもちろん初めて食べた方からも美味しいと好評の木戸川の鮭をぜひ買って食べてみてください。

協賛企業のご案内

代表取締役
小野賢司さん

西野屋食品株式会社

福島県いわき市常磐上矢田町田端8-1
TEL.0246-28-2828

このプロジェクトには必要不可欠な鮭フレークの製造をしていただきました。社長さんも従業員の方々もとても優しく、楽しく商品の開発を進めていくことができました。西野屋食品さんで製造している演物やコロッケはとても美味しいのでたくさんの人に食べて欲しいです。

■大友水産株式会社
福島県いわき市鹿島町鹿島1番地
TEL0246-29-5881
福島県浜通りの漁業の現状を丁寧に教えていただきました。そしてそれが私たちのプロジェクトのきっかけになりました。

■木戸川漁業協同組合
福島県双葉郡楢葉町大字大字前原中川原68番地
TEL0240-25-3414
この商品の材料となる木戸川の鮭の提供、及び木戸川の鮭についての情報をたくさんいただきました。

■有限会社エルエル・サイン
福島県いわき市小名浜芳浜1-23
TEL0246-63-2249
商品のラベルや広告・ポスターのデザインなどで協力していただきました。

FUTABA FUTURE SCHOOL

木戸川の鮭をつかったレシピ

Let's cook!

いろいろなレシピを作ってみたい！などの理由で買い、身近な人に広めていただくだけで、私たちのプロジェクトが成功に近づきます。そしてこの広告を読み、双葉郡に興味を持ち、実際に足を運んでいただきたいです。

クリームチーズと鮭のパテ

材料（1 人前）
○鮭フレーク塩味　大さじ 2
○クリームチーズ　100g

作り方
①クリームチーズと鮭フレークを混ぜて出来上がり。

トーストやクラッカーなどにつけてお召し上がりください♪

やさしい味の鮭パスタ

材料（1 人前）
○鮭フレーク塩味　大さじ 2
○パスタ　100g
○牛乳　50cc
○マヨネーズ　25g
○塩コショウ　少々
○粉チーズ　大さじ 1
○わけぎネギ　お好みで

作り方
①茹でたパスタをボウルに移し、鮭フレーク、牛乳、マヨネーズ、塩コショウ、粉チーズを入れて混ぜる。
②皿に盛り、彩りにわけぎネギをかければ出来上がり。

鮭と長芋のふわとろ焼き

塩味でも辛みそ味でもお作りいただけます！

材料（1 人前）
○鮭フレーク　大さじ 1
○長芋　10cm
○長ネギ　1/2
○顆粒だし　小さじ 1
○サラダ油　大さじ 1

作り方
①ボウルにすりおろした長芋と鮭フレーク、きざんだネギ、顆粒だしを加え、よく混ぜる。
②フライパンにサラダ油をひき、両面を焦げ目がつくまで焼いたら出来上がり。

鮭と卵のあったかスープ

材料（1 人前）
○鮭フレーク塩味　大さじ 1
○卵　1個
○鶏ガラスープの素　小さじ 2
○おろししょうが　小さじ 1/4
○白いりごま　少々
○水　400cc

作り方
①鶏ガラスープの素とおろししょうが、水を鍋に入れ、混ぜて中火で煮立たせる。
②溶き卵をまわし入れ、軽く混ぜる。
③器にスープを入れて、鮭フレークと白いりごまをふって出来上がり。

地域交換留学

～持続可能な社会への第一歩。
自分事に考えられる人々を増やす為に～

原子力防災ゼミ 渡邊美友

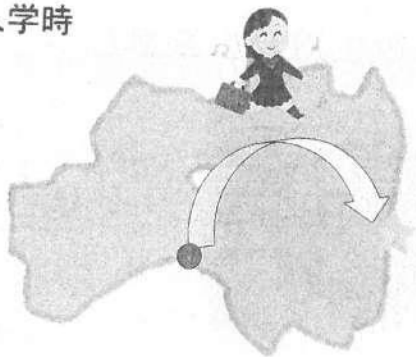
CONTENTS

01 背景
02 実施
03 考察
04 今後

01

地域交換留学に至るまでの背景

高校入学時



入学早々の
フィールドワーク

「放射能じゃん」

課題設定①

今を伝えて現状を知ってもらう

↓

悪いイメージの払拭

課題設定②

・県内外に広がる震災・原発事故の問題意識の差を埋めること

・他人事から自分事へ

高校生対象の双葉郡ツアー

総アテンド数

１８０名以上

2018．12　：白河、彦根東高校
2019．05　：高崎経済大学附属高校
2019．07　：相双地区の高校
2019．08　：横浜緑ヶ丘高校

「問題意識はもてたが、
自分事としてみるのは難しかった。」

↓

どうすれば自分事として皆が
問題を考えられるか？

交換留学の可能性

双葉郡の問題は
日本、世界の問題と繋がっている

例①先進国の人口　　②原発事故の教訓

課題設定③

日本全体の問題解決のきっかけづくり

双葉郡の課題だけでなく、
自分の地元の課題解決も考えてもらう

02

地域交換留学の実施

地域交換留学とは？

双葉郡と全国の高校生が互いの地域に訪れる宿泊型プログラム

01

県内外に広がる震災・原発事故の問題意識の差を埋める。

02

地域の問題を他人事から自分事へ

03

これからの社会や未来を考えるきっかけづくり

①フィールドワーク

地域を「知る」

②ホームステイ

地域と「繋がる」

③地域未来会議

地域と「向き合う」

①フィールドワーク

②ホームステイ

③地域未来会議

実現に向けた対象校の募集

①関東圏の高校教員に対してプレゼンテーション
→来年度以降の交換留学

②以前の交流校へ募集案内
→東京大学教育学部附属中等教育学校と7月に実施
→島根県立隠岐島前高校と来月実施予定

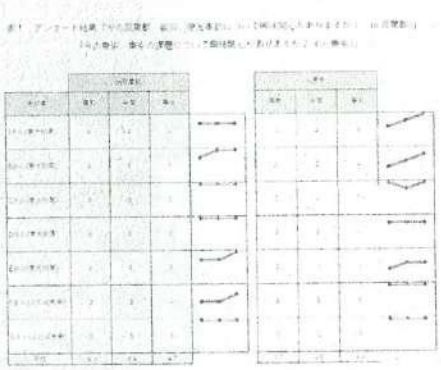
例） 地域交換留学in双葉郡

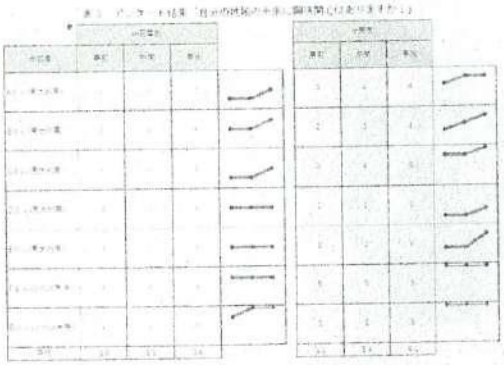
（2019. 07. 06～07　1泊2日）

1日目
- 10:30 プログラム開始、アイスブレイク、チームディスカッション
- 12:00 お昼休憩
- 13:00 **フィールドワーク**
- 17:00 チームディスカッション
  ～ ホームステイ ～

2日目
- 09:00 2日目開始
- 10:00 演劇ワークショップ
- 13:00 地域未来会議
- 18:00 解散

03
実践をおえて





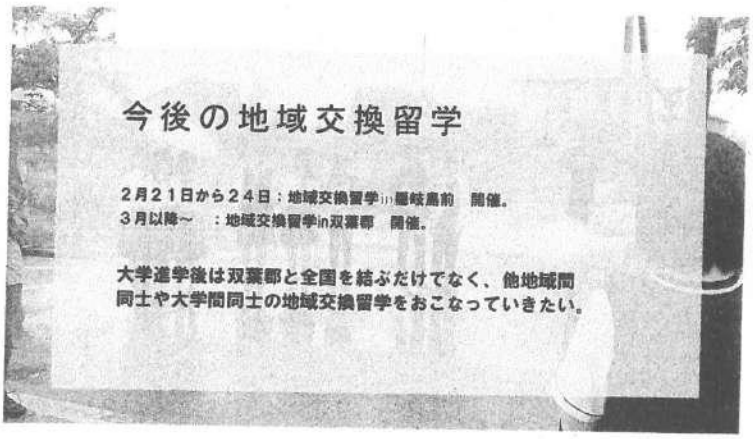
発見した課題

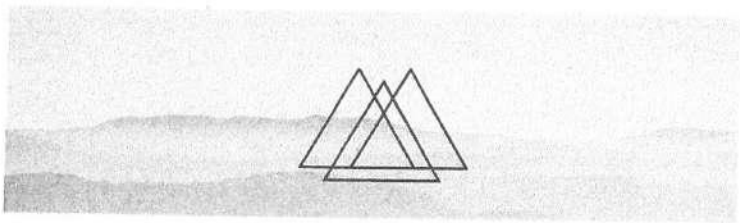
自分事化は達成されたが、
自発的なアクションに踏み出す仕掛けが必要

新しいモデルの構築、
実践の場を増やしながら探究していく

04

今後について





THANKS

ご清聴ありがとうございました

第１分科会「総合的な探究の時間の指導法」

SGH 実践レポート

発表者　企画研究開発部　教諭　塩田　陸

1　実践テーマ

未来創造探究　探究活動のステージと生徒の実態に合わせた指導の方法

2　実践のねらい（実践を通してどのような効果の発生を期待するのか）

多様な背景を持って本校に入学してくる生徒に対して、それぞれの生徒の実態や探究活動のステージごとに指導実践を行う。実例をもとに、ある程度理論化し共有・議論を行う。フィードバックを通して、指導力の底上げを期待する。

3　実践の概要

探究活動のステージ(進み具合)を可視化して、ルーブリック評価等を用いて、生徒ごとに現状を把握する。ステージごとに、生徒へのかかわり方を意識的に変え、ルーブリック評価の変容を測定する。ルーブリック評価は、自己評価・ピアレビュー・担当教員との面談の時間を設定し、自己肯定感を高めることや、進路実現への意識高揚にもつなげる。

4　実践の成果

ルーブリック評価の数値は順調に伸びており、生徒自身も成長を実感することができている。探究活動で進路実現しようと考える生徒が出てきている。指導実践を言語化し、広く発信する段階で、ある程度のフィードバックを得て指導改善につながっている。

5　今後の課題（分科会で対話したいこと）

４月以降、探究活動を始める生徒や担当の先生方と協働し、実践を深めていくこと。
進路指導への接続をさらにわかりやすくすること。
教科指導とのこれまで以上の連携。

〈対話〉

探究活動をこれから行おうと考えたときに、ハードルになっていること。
実際に指導の始まっている学校において、困っていること。

第１分科会
総合的な探究の時間の指導法

Key Words

（探究活動の指導環境、探究活動中のかかわり方、生徒の変容）

福島県立ふたば未来学園高等学校
塩田　陸　(shiota.riku@fcs.ed.jp)

Menu

1. 身につけさせたい力・コンピテンシー
2. 探究活動を指導するために
3. ふたば未来学園高等学校の探究活動
4. 探究活動の指導の実際・生徒の変容

１．生徒に身につけさせたい力・コンピテンシー

- みんな同じ　→**多様性**へ。
- 町を高校生が歩いていれば大丈夫
  → 若者の力を生かした地域、
  コミュニティの真の自立へ
- 短期的な手当て→
  循環型の**持続可能な社会**へ。
- もとに戻すのか先に進めるのか→　両方。
  新たなまちづくり、地域再生のモデルを世界に発信
- 安易に答えの出せない問題、**解のない問題課題に向かう**力

１．生徒に身につけさせたい力・コンピテンシー

○「主体性」

どんな困難な問題に対しても、論理的思考力、課題発見・解決力、強い志と使命感を持って、何度失敗しても挑戦し続ける

○「協働性」

異なる言語、文化、価値観を乗り越えて多様な主体と共に力を合わせる

○「創造性」

新しい生き方、産業、社会をつくりだしていく

①知識　②スキル（知識をどう使うか）
③人格（社会とどう関わるか）
④メタ認知（自らを振り返り変えていく力）

１．生徒に身につけさせたい力・コンピテンシー

参考　OECD Learning Compass 2030より

より良い未来の創造に向けた変革を起こす力

- 新たな価値を創造する力
- 対立やジレンマに折り合いをつける力
- 責任ある行動をとる力

形成的評価

2. 探究活動を指導するために

助けになった環境

① 活動をリードするワーキンググループ

企画研究開発部を中心に

② 教員のエージェンシーが高められる機会

③ 評価の枠組み

④ 年間計画

2. 探究活動を指導するために

①企画研究開発部とは

- 年間計画立案
- １年次「産業社会と人間」運営
- ２・３年次「未来創造探究」運営
- 教員研修、視察等の情報共有
- 各種プロジェクト(海外研修含)の伴走　その他なんでも

2. 探究活動を指導するために

- **１年次「産業社会と人間」運営**

職業人インタビュー・聞くカWS
双葉郡バスツアー
演劇
国際理解講座 など　**探究や進路への接続**

2. 探究活動を指導するために

- **２、３年次「未来創造探究」運営**

週１時間の定例部会

授業設計のための授業担当者打ち合わせ(カタリバスタッフも)

月次会(マネジメントリーダーの打ち合わせ)

2. 探究活動を指導するために

② 教員のエージェンシー

自ら考え、主体的に行動して、
責任をもって社会変革を実現していく姿勢・意欲

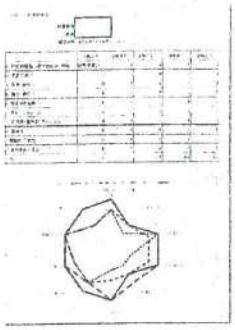
- 著任教員バスツアー
- 教員研修
  - 外部講師ワークショップ
  - クロスカリキュラム
  - 評価
  - 主体的、対話的、深い学び(教科指導の事例共有)

「何か新しいことを始めやすい雰囲気」につながる

://souken.shingakunet.com/career_g/2019/09/post-b7a2.html

③ 評価の枠組み

③ 評価の枠組み



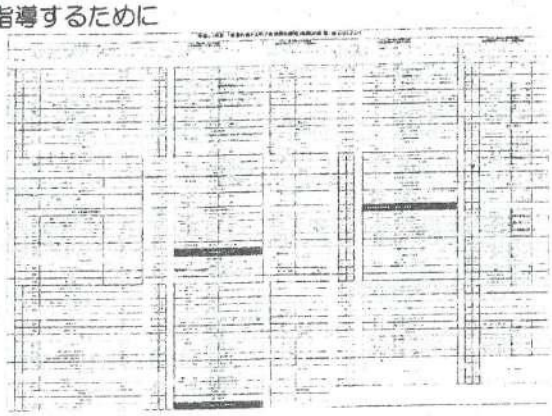
ルーブリック面談

形成的評価
(生徒指導にも)

2. 探究活動を指導するために

・年間計画立案

4月着任教員
入学生



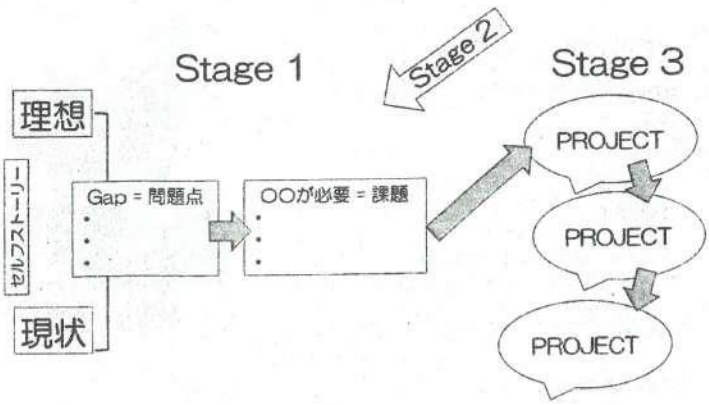
3. ふたば未来学園高等学校の探究活動

[illegible]	[illegible]
教育復興探究	原子力災害によって失われた地域コミュニティーの再構築について研究する。
メディア・コミュニケーション探究	海外を含めた、異文化の方々に向けた情報発信やコミュニケーションの有効な方策を研究する。
再生可能エネルギー探究	福島の現状を踏まえた、望ましい人間社会と、地球環境やエネルギーの関係性について研究する。
アグリ・ビジネス探究	福島の復興につなげる、今後の農業とビジネスを研究する。
スポーツと社会探究	福島の地域を、スポーツを通じて豊かにする方策を研究する。
健康長寿社会探究	福島の地域において、少子高齢化が加速する中での健康長寿の実現の方策を研究する。

3. ふたば未来学園高等学校の探究活動

- 全教員が、産業社会と人間、未来創造探究の担当に入る。
- カタリバのスタッフも担当に入る。(主に2年生)
- 自分の興味関心や系列に合わせてゼミの選択
- 地域をフィールドに、活動を通して、地域も自分も理想に近づいていく。

2年間の活動イメージ(全体図)



【インストラクター的な関わり 】
⇒　答えなどを教えるイメージ

・未来像を個人、または班の中で共有させる。
・何のための調査、現状把握なのかをしっかり意識させる。
・文献だけでなく実地調査、RESAS等の最新の情報にアクセスさせる。
・未来ビジョンを想定させるときには、自由にできるだけ創造的に行わせる。
・ブレインストーミングについては生徒が委縮したりブレーキをかけることの無いようにファシリテーションする。

【ファシリテーター的な関わり方】
⇒　引き出すイメージ

○ 他の生徒や、実社会で行われていることなども知る環境づくり。
○ 国内・世界の問題の構造にも興味が持てるインプット。
○ 問いかけを通して深化させる。
○ 外部との連携で実現可能になるかどうか柔軟に考えさせる。
○ 人と違うことを楽しませる。
○ 企画書など、実現するために必要なことなどを自分から気が付くように配慮する。
○ 先生自身も一緒に楽しんでアイデアを出す。

【メンター的な関わり方】
⇒　精神的にサポートする

○ 生徒チャレンジをバックアップする。外部活動は、必ず学校側が把握。
○ 常に生徒が、ポジティブな未来を語り合える環境づくり。
○ 論文作成については、アブストラクト（要旨）をしっかり作れるようサポート。
○ ①テーマと自分、②テーマと他の事例、
③テーマと世界の問題
の3つについてのつながりを意識させる。

指導スタート

① 担当チームで探究活動 授業設計の確認
② 探究活動
③ リフレクション
（④ 月次会や企画研究開発部会で共有）

① 担当チームで探究活動 授業設計の確認

<u>担当教員・カタリバスタッフ</u>
生徒ごとの進捗確認
地域協働や探究につながる情報の共有
放課後のカタリバでの様子など共有
授業時、誰との対話から始めるか

② 探究活動
5分～１０分　担当から、事務連絡や見通し確認
↓
活動スタート　打ち合わせの生徒から対話開始
↓
ほかの生徒とも対話
↓
振り返り

主にT→S
質問

指導スタート

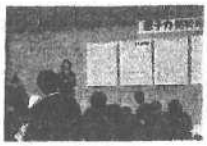
③ リフレクション(主に授業設計時)

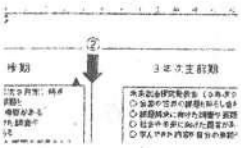
進捗確認
～までに〇〇するらしい
～で困っている様子
～な人に連絡を取りたい
～な変化が見られた

①指導姿勢の変わり目
(プレ発表の様子を受けてフィードバック)

インストラクター → ファシリテーター

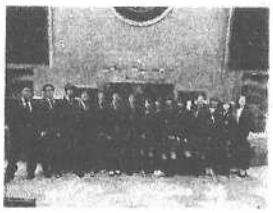
「4ない探究」だ！
データがない、
ニーズがない、
チームワークがない、
マナーがない。





変わり目その②
ファシリテーター → メンター

- 海外研修に行く生徒
- 中間発表会
- 春休み



生徒A

- 郡外
- 海外意識が強い
- マネジメント、チャレンジに課題
- 地域の現状を、「推測」
- 友人、知り合いの枠を出ない発信

A

	1年4月	2年4月	2年11月	3年4月	3年9月
A. 社会的課題に関する知識・理解	2	3	2	5	5
B. 英語活用力	1	3	4	4	4
C. 思考・創造力	1	3	2	4	4
D. 表現・発信力	1	3	2	3	5
E. 他者との協働力	3	4	3	4	5
F. マネージメント力	2	3	3	2	4
G. 前向き・責任感・チャレンジ	1	4	5	5	5
H. 寛容さ	3	4	5	3	5
I. 能動的市民性	2	4	5	4	4
J. 自分を変える力	2	3	4	3	4
平均	1.8	3.4	3.5	3.7	4.5

生徒B・C

B

- 郡外
- やりたいことが多い　・思考、創造に課題
- セルフストーリー、思いが強い(ボランティア等)
- 人間関係を広げていくことが得意。

C

- やりたいことがそこそこにある(アート)
- 探究活動以外のプロジェクトも走らせている
- 静かそうで前向き　・他者との協働、マネジメントに課題

B

	1年4月	2年4月	2年11月	3年4月	3年9月
A. 社会的課題に関する知識・理解	1	1	2	2	2
B. 英語活用力	1	1	1	1	1
C. 思考・創造力	1	1	2	2	3
D. 表現・発信力	1	2	2	5	5
E. 他者との協働力	2	3	3	3	4
F. マネージメント力	1	2	2	4	3
G. 前向き・責任感・チャレンジ	2	3	1	5	5
H. 寛容さ	2	5	4	5	5
I. 能動的市民性	2	2	4	3	5
J. 自分を変える力	2	3	3	4	3
平均	1.5	2.3	2.4	3.4	3.6

C

	1年4月	2年4月	2年11月	3年4月	3年9月
A. 社会的課題に関する知識・理解	0	2	3	4	3
B. 英語活用力	2	3	2	3	3
C. 思考・創造力	2	2	3	4	3
D. 表現・発信力	2	2	3	4	4
E. 他者との協働力	1	2	3	3	4
F. マネージメント力	1	なし	3	3	4
G. 前向き・責任感・チャレンジ	2	なし	3	4	3
H. 寛容さ	3	なし	3	5	3
I. 能動的市民性	2	なし	3	3	3
J. 自分を変える力	2	なし	3	3	4
平均	1.7	2.2	2.9	3.6	3.4

生徒D　イレギュラー

- アグリビジネスから移籍
- 郡外
- スペシャリスト
- 海外志向
- 普段の学びにきっかけを見いだし探究に
- 似たような探究をしている人を探していた

D

	1年4月	2年4月	2年11月	3年4月	3年9月
A. 社会的課題に関する知識・理解	3	1	1	3	3
B. 英語活用力	2	3	1	3	3
C. 思考・創造力	3	1	1	1	1
D. 表現・発信力	1	0	0	1	1
E. 他者との協働力	2	1	1	2	3
F. マネージメント力	2	1	1	2	3
G. 前向き・責任感・チャレンジ	?	0	0	1	2
H. 寛容さ	2	1	2	2	4
I. 能動的市民性	2	1	0	2	4
J. 自分を変える力	2	2	0	1	3
平均	2.111111111	1.1	0.7	1.8	2.7

生徒EFGH　イレギュラー

EF…オリジナルメンバー
- 郡内、郡外
- アーカイブ　・具体策が乏しい　・静か　・地域への思い強い
- 前向きさ、チャレンジ、表現、発信に課題

GH移籍組
- 郡外
- メディアを活用して、双葉の現状を伝えたかった。
- 意欲、行動力あるが、コンテンツが乏しい
- 無難な物言い、失敗したときの予防線を張り巡らせる
- 前向きさ、チャレンジ、思考創造に課題

E

	1年4月	2年4月	2年11月	3年4月	3年9月
A. 社会的課題に関する知識・理解	1	3	1	5	5
B. 英語活用力	1	3	2	3	3
C. 思考・創造力	1	2	2	4	5
D. 表現・発信力	1	2	1	3	5
E. 他者との協働力	1	3	3	5	5
F. マネージメント力	1	2	2	3	4
G. 前向き・責任感・チャレンジ	1	3	0	5	5
H. 寛容さ	2	2	3	3	5
I. 能動的市民性	1	2	3	4	5
J. 自分を変える力	2	4	3	4	5
平均	1.2	2.6	2	3.9	4.7

G

	1年4月	2年4月	2年11月	3年4月	3年9月
A. 社会的課題に関する知識・理解	1	2	2	4	4
B. 英語活用力	1	2	1	3	5
C. 思考・創造力	1	2	1	2	3
D. 表現・発信力	1	1	2	2	4
E. 他者との協働力	1	3	3	3	5
F. マネージメント力	1	1	2	2	4
G. 前向き・責任感・チャレンジ	1	2	1	2	4
H. 寛容さ	2	2	2	4	4
I. 能動的市民性	1	2	2	3	3
J. 自分を変える力	2	1	1	3	2
平均	1.2	1.8	1.7	2.8	3.8

生徒Iイレギュラー

- 郡外
- 自分事(共感)力が高い
- 行動力
- 会った次の瞬間には友人(海外でも同様)
- アイデアが次々出てくる
- 実践の時間が十分ほしい
- ていねいな段取りと情報共有が必要

I

	1年4月	2年4月	2年11月	3年4月	3年9月
A. 社会的課題に関する知識・理解	回答間違い	4	4	5	5
B. 英語活用力	0	2	3	3	3
C. 思考・創造力	0	5	4	5	5
D. 表現・発信力	0	2	4	5	5
E. 他者との協働力	0	2	3	4	3
F. マネージメント力	0	2	3	5	5
G. 前向き・責任感・チャレンジ	0	4	4	4	5
H. 寛容さ	0	4	4	5	5
I. 能動的市民性	0	5	5	5	5
J. 自分を変える力	0	3	3	5	5
平均	0	3.3	3.7	4.6	4.6

第２分科会「ルーブリックを用いた総合的な探究の時間の形成的評価」　SGH 実践レポート
発表者　橋爪清成　鈴木知洋

1　実践テーマ

ルーブリックを用いた総合的な探究の時間の形成的評価

2　実践のねらい（実践を通してどのような効果の発生を期待するのか）

本校のルーブリックは、学校生活全体を通じて育成したい生徒の資質・能力・態度を表現している。これまでのルーブリック評価は、一定期間ごとに学校生活を振り返り、どういった資質・能力が育成されたかを評価するものであった。生徒自身による評価であるものの、総括的評価※1としての側面が強く、それ以降の学校生活の改善に資する目的、すなわち形成的評価※2の意味合いが弱かった。今回は、ルーブリック評価をもとにした生徒面談を実施することで、今後の探究プロジェクトの改善に資することができるのではないかと考えた。

※１　最終到達度を測るための評価のことを総括的評価という。

※２　評価に関する情報を、成果を高める目的に用いることを形成的評価という。学習のための評価とも呼ばれる。

3　実践の概要

これまで一部実験的な導入にとどまっていた、ルーブリック評価に基づく面談（以下、ルーブリック面談）を、今年度 11 月以降、２年次全生徒を対象に未来創造探究全ゼミで実施した。面談担当者の目線合わせのために、２年次探究担当者会（以下、月次会）を利用し、ルーブリック面談の目的の説明、３年次探究担当者との意見交換を行った。ゼミごとに、生徒数や担当者数にばらつきがあるため、今回、実施形態や実施時期についてはゼミに裁量をもたせ、ゼミの実態に応じた面談の手法がとられた。ルーブリック面談の基本スタイルは以下のとおりである。

- 担当者と生徒が１対１で、ルーブリックの各項目におけるレベルとその評価理由について、対話しながら、生徒自身がレベルの再確認を行う。
- 単なるインタビューではなく、これまでの生徒の学習プロセスに対する担当者の評価も適宜フィードバックできるようにする。ただし、レベルの修正については、対話を通じて本人が行う
- 今後どのようなところを特に伸ばしたいかについて目標設定する。

4　実践の成果

１月の月次会にて、ルーブリック面談についての成果を共有した。生徒、教員ともにルーブリック評価の項目について再認識する機会となること、自己評価に他人の目が入ることで客観性や信頼性の担保につながること、今後の目標設定に活用できることなどが成果として挙げられた。主体的な学習を効率的に行うには、正しい自己評価（何ができて、何ができないので、何を行うべきか、これらを知り得ること）が求められるが、生徒自身の評価がそこまで至っていない現実も確認された。

5　分科会で対話したいこと

- 各学校での評価のあり方について
- 民間教育事業者の提供する各種アセスメントの活用について

ふたば未来学園高校　SGH研究成果発表会（2020.2.4）

第２分科会

ルーブリックを用いた総合的な探究の時間の形成的評価

橋爪 清成　　鈴木 知洋

内容

1. 建学の精神と理念、育てていく力
2. 人材育成要件・ルーブリック
3. 評価結果（ルーブリックの推移）
4. 評価の全体像
5. ルーブリックの課題
6. ルーブリック面談（試行から本格実施へ）
7. 形成的評価の機会
8. 3年間で見出される生き方・在り方

1．建学の精神と理念・育てていく力

震災と原発事故という、人類が経験したことがないような災害にみまわれた、わたしたちは、解決困難な様々な課題に直面

これまでの価値観、社会のあり方を根本から見直し、新しい生き方、新しい社会の建設を目指さなければならない。

【教育目標】

自らを変革し、地域を変革し、社会を変革していく「変革者」を育成する

○『変革者』として必要な資質・能力を育成

- とんなに困難な問題に対しても、論理的思考力、課題発見・解決力、強い志と使命感を持って、何度失敗しても挑戦し続ける**「主体性」**
- 異なる言語、文化、価値を乗り越えて関係を構築し多様な主体と共に力を合わせる**「協働性」**
- 新しい生き方、産業、社会をつくりだしていく**「創造性」**

○目指す学校像

- 生徒が主体的に動く学校
- 失敗を恐れず困難な課題に挑戦する生徒を支え、応援する学校
- 現実社会の中で学ぶ学校
- 地域・コミュニティや世界と共に学ぶ学校
- 夢を開く窓がたくさんある学校

○ 育てていく力

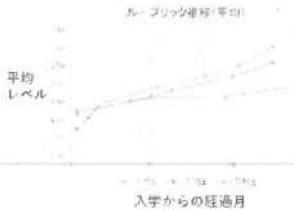
・全教職員で、育てていく力を設定

2．人材育成要件・ルーブリック

3．評価結果（ルーブリックの推移）

○ルーブリックの各資質・能力についての自己評価

Ⅰ期生(2018.3卒業)　Ⅱ期生(2019.3卒業)　Ⅲ期生(2020.3卒業)



○Ⅰ期生→Ⅱ期生→Ⅲ期生になるにつれて、値は高くなっている
→生徒の実践の様子と合致
→教員側の指導体制の整備

○　英語活用力　低い　高まらない
○　寛容さ　もとから高い
○　表現力、発信力　伸び大きい
○　前向き、責任感、チャレンジ　伸び大きい

4．評価の全体像

学習成果を高めるために用いる評価「学習のための評価」とも呼ばれる

最終到達度を測るための評価

年次	月	活動	形成的評価（ルーブリック評価）	総括的評価（ルーブリック評価）
1年（産業社会と人間）	4～7	地域を知る学習	ワークシート	ルーブリック
	6～10	職場訪問	ミッションカード インタビュー記事	成績評価
	10～1	演劇	ワークシート 作品そのもの	
	1～3	国際理解	ワークシート	成績評価
2年（総合学習）	4～5	課題研究導入	ワークシート	ルーブリック
	6～3	課題研究	ミッションカード	成績評価
	11	プレ発表会	ワークシート	ルーブリック
	3	中間発表会	ワークシート 振り返り	ルーブリック 成績評価
3年（総合学習）	4～5	セルフ エッセイ	セルフエッセイ チェック	
	6～9	探究活動	指導、意見交換， 内容の修正	成績評価
	9	探究発表会	ワークシート	ルーブリック
	9～1	論文作成	論文のチェック	成績評価

2018年度までルーブリックは「総括的評価」の位置づけ

5．ルーブリックの課題

○ **評価をまとめるための環境整備**

紙による記録
Classi
マークシート
Excelによる個票作成

○ **自己評価結果の妥当性**

○ **ルーブリックの理解、目線合わせ（生徒、教員）**

主観的な評価をより客観的にできないか

○ **総括的評価から形成的評価へ**

自身の立ち位置を確認し、次の目標設定の道具として活用できないか

⇨ ルーブリック面談（2018 秋～）

6．ルーブリック面談の試行（2018年11月、3年生）

○ **3年担当者会議（説明）**

面談の意義（目標設定への活用、客観性の向上、ルーブリックの理解）
面談方法の説明（先行実施のビデオ映像提供、１：１の実施、注意点）
実施後の所感（実施する意味、負担感、生徒の様子、感想）

○ **各ゼミ（6ゼミ）での試行**

各ゼミで数人　～　全員　実施

○ **3年担当者会議（実施後の情報共有）**

好意的な意見が多数

- 生徒のそれぞれの項目に対する思いを聞くことができた
- 成果物では見ることのできない内発的な成長を知ることができた
- 評価の客観性は高まった
- 生徒が気づけなかったところを教員が指摘できた。

6．ルーブリック面談の本格実施（19年11月、2年次）

○ **11月20日**
2・3年次合同での月次会（説明）

○ **11月27日**
ルーブリック生徒自己評価
全ゼミ（6ゼミ）でルーブリック面談本格実施スタート

○ **12月11日**
○ **12月18日**
○ **1月22日**
各ゼミにて面談実施

○ **1月29日**
月次会（実施後の情報共有）

6．ルーブリック面談の本格実施（19年11月、2年次）

○ **2年次未来創造探究担当者会（通称：月次会）**

２年次の未来創造探究担当者が（原則）全員参加する研修の場
ゼミごとの事例（良いものも悪いものも）共有、担当者間の目線合わせ
前半は年次総括からの伝達中心、後半は研修中心

6．ルーブリック面談の本格実施（19年11月～、2年次）

○ **2年次未来創造探究担当者会（通称：月次会）**

6．ルーブリック面談の本格実施（19年11月～、2年次）

○ **11月　2年・3年次合同での月次会（説明）**

試行時の担当者からの説明
　面談の意義について
　面談方法について（実施形態、注意点）

意見交換
　各ゼミ2・3年次担当者がグループとなり、ゼミの実態に応じた面談の形式について検討したり、3年次のルーブリック評価の傾向などについての情報交換を行ったりした。

6．ルーブリック面談の本格実施（19年11月～、2年次）

各ゼミでのルーブリック面談の様子

6．ルーブリック面談の本格実施（19年11月～、2年次）

○ **1月　月次会（ルーブリック面談実施後の情報共有）**

面談方法について
- 教員：生徒＝1：1（原子力、メディア、再エネ、アグリ）
  ※項目を教員で分担し、生徒1人を教員4人が順に面談したゼミも
- 教員：生徒＝1：2（スポーツ）
- 教員：生徒＝2：1グループ（福祉）
- 生徒一人あたりにかかる時間20～50分程度
  （授業一コマあたり1～2人の面談が精一杯）
- 項目毎に、その評価をつけた理由のヒアリングをしながら進める

6．ルーブリック面談の本格実施（19年11月～、2年次）

○ **1月　月次会（ルーブリック面談実施後の情報共有）**

生徒自身によるルーブリック評価について
- ルーブリックの文言の意味を十分に理解できていない
- 評価を低くし過ぎる生徒がいる
- 具体例があった方がいい←→分かりやすいが、限定がかかる恐れ
- 探究の時間にやるのが適切なのか。LHRでも。
- 学校生活全体についてのルーブリックを、探究のみで評価しがち
- 時期的にテーマ設定、アクションの最中で、理由をきちんと書けている生徒が少なかった

6．ルーブリック面談の本格実施（19年11月～、2年次）

○ **1月　月次会（ルーブリック面談実施後の情報共有）**

面談の効果について
- 生徒の理解、評価の客観性の担保という観点から、やって良かった
- 今後面談結果をどう生かすか（目標設定、探究、学校生活全体）
- 面談の頻度や時期はどのくらいが適切か
- ルーブリック面談を行うのは誰が適切か（担任？探究担当者？）
- 担任による面接週間で活用は？担任が知るべき情報とは？
- 進路によっても面談の使い方が変わってくるのではないか

7．形成的評価の機会

探究が各生徒の学びに繋がり、自覚的に学ぶ姿勢も強化できるよう、探究プロセスの中で記述や面談の機会を増やし、断続的な形成的評価を行っている。

その一環として、3年次春には、未来創造探究の中でセルフエッセイの執筆と、複数回の個別添削・面談を行い、探究の軸を言語化するとともに、生き方・在り方を見つめる機会としている。

【参考】セルフエッセイの構成
Part1　自身のバックグラウンド
　　（自己の震災体験等を踏まえた学習の動機）
Part2　探究班での取り組み紹介
Part3　現在福島が抱えている課題
　（上記を踏まえ、特に対立や分断にまつわる課題を記載する）
Part4　未来創造探究での活動を通して未来の地域や世界を
　　どう変えていきたいか（福島、全国・世界の課題解決）

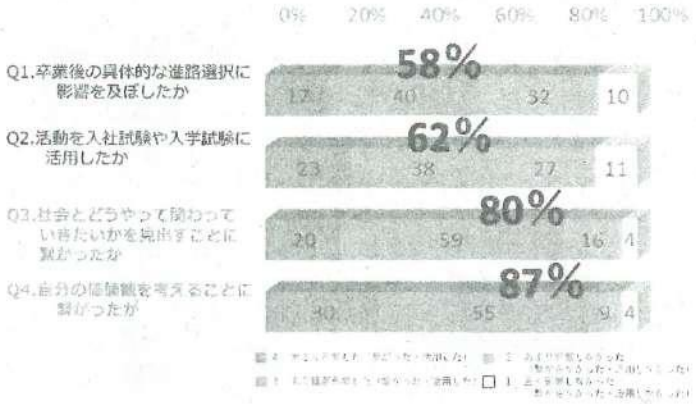
7．形成的評価の機会

面談を通じて確認できた力
⇒まだ発揮はされていないけれど伸びている力や
伸びつつある力

「発達の真の診断は、発達のサイクルを終えたもの、その成果だけでなく、成熟期にある過程をも把握できなければなりません。収穫予想を立てる園芸家が、果樹園の成熟した果物の数だけを計算し、果樹の状態を評価せず、まだ熟していない果実を計算に入れないのは間違っているのと同じように、成熟しつつあるものを脇に置いておいて、成熟したものの決定だけに限る心理学者は、発達全体の内的状態に関するいくらかでも正しい十分な知識を得ることは決してできず、対症的診断から臨床的診断に移行することはできないでしょう」
（『新　児童心理学講義』ヴィゴツキー）

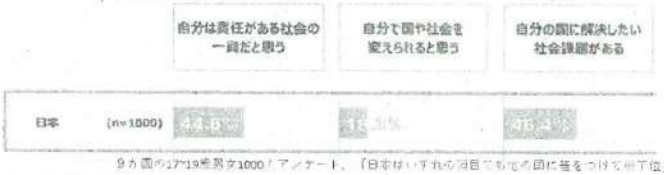
8．３年間で見出される生き方・在り方

探究活動に関連する取組が卒業時の進路や生き方にどのような影響を与えたのか
アンケートを実施（平成３１年２月、９８人）



8．３年間で見出される生き方・在り方

全国の同年代との比較
日本財団「18歳意識調査」2019.9-10



9カ国の17~19歳男女1000人アンケート、「日本はいずれの項目でも他の国に差をつけて最下位」

ふたば未来学園卒業時アンケート（2019.2）

SHG成果発表会　第４分科会

発表者　遠藤明緒
荒　康義

テーマ：ふたば未来学園のグローバル教育実践について
～グローバル教育のあり方～

グローバル社会が進む実社会において、国際的にリーダーシップを取り社会に付加価値をもたらす人材（人財）（グローバルリーダー）になること、また、グローバル化する社会を意識し、ローカルで活躍する人財（グローカルリーダー）を育成する取り組みについて、ふたば未来学園の生徒育成像とそのための実践発表を行います。

海外研修については、１月に行われたドイツ研修についてのプロジェクト学習の実践と米国ニューヨーク研修についての報告を行います。

その上で、今後のグローバル教育のあり方について協議していく場になれば幸いです。

【発表内容】

１．ふたば未来学園の実践

(1) 英語科の取り組み

(2) 学校全体の取り組み

①産業社会と人間

②海外研修

③グローバルスタディ（中等部）

２．成果と今後の課題

《成果》

(1) GTEC の結果から

(2) ルーブリック評価から

①ルーブリック評価の３年間の推移

②海外研修参加者とそうでない生徒との比較

《課題》

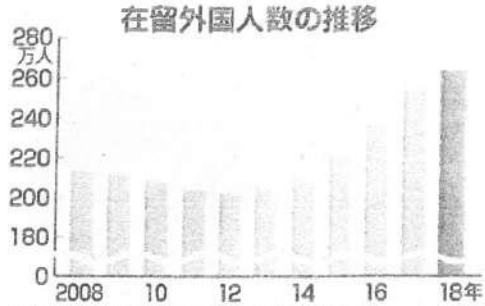
今後のグローバルを踏まえた①人材像について、②人材育成について、③カリキュラムについてアップデートを図っていくこと

第4分科会　SGH 成果発表会

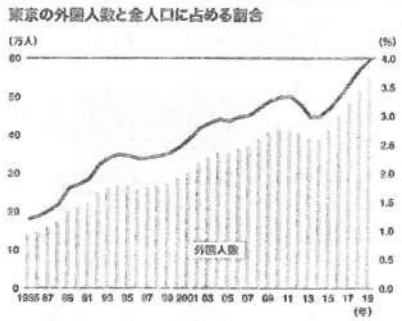
ふたば未来学園
グローバル教育実践について

～これからのグローバル教育のあり方～

282万人（2019年6月）

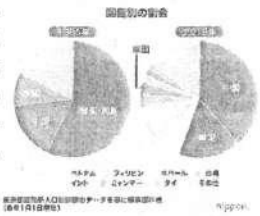


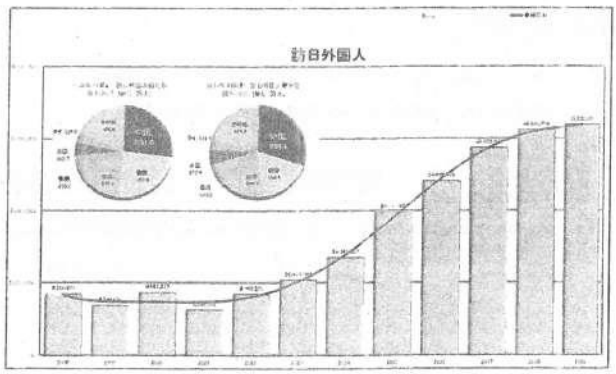
（注）各年末、18年は6月末時点。法務省調べ



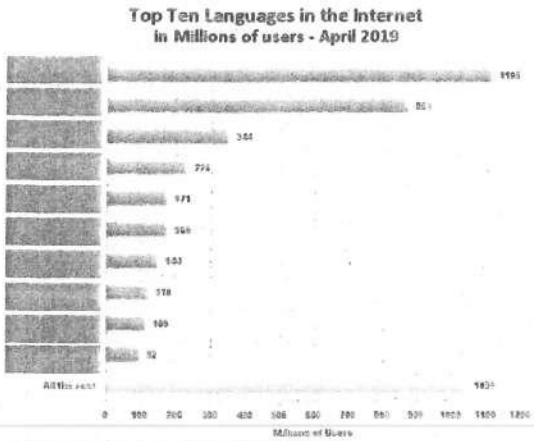
東京都総務局人口統計課のデータを基に編集部作成
（各年1月1日現在）

55万人（2019年1月）





日本政府観光局のデータにより作成



2.7%

Source: Internet World Stats - www.internetworldstats.com/stats7.htm
Estimated total internet users are 4,366,405,641 in April 30, 2019
Copyright © 2019 Miniwatts Marketing Group

グローバル社会って何？

グローバル

Globe

The earth

地球的な規模であるさま。全世界にわたるさま。世界的。

出典　新選組 日本国語大辞典

グローバリゼーション

社会的・経済的な関係を地球規模にまで拡大させることを表し、具体的には「ヒト・モノ・カネ」の流れを滞らせる障壁となる国境や規制を取り除き、世界規模で結びつきを深めていくような活動が進んでいくこと

インターナショナル

自国を中心に、国家間の境界を保持した上で、他国との関係性を活発にして行くこと

グローバリズム

グローバル化を推進する理念

グローバル企業

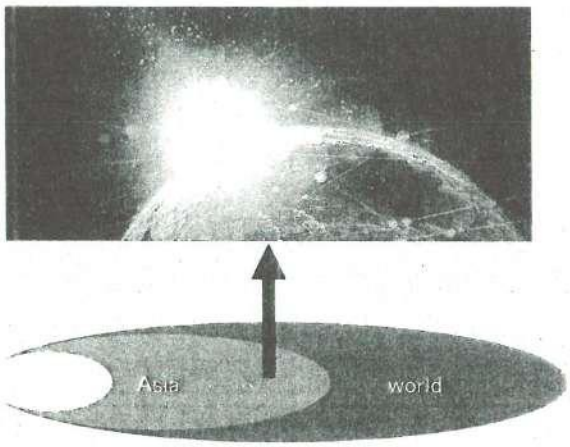
グローバル企業は、拠点となる国以外に複数の国でビジネスを行う企業です。社員の国籍もさまざまで、その国の文化や国民性に合わせて仕事を進めます。

国際企業 → 多国籍企業 → グローバル企業

19世期　20世期　21世期

サイバー空間とフィジカル空間の高度な融合

フィジカル（現実）空間からセンサーとIoTを通じてあらゆる情報が集積（ビッグデータ）
人工知能（AI）がビックデータを解析し、高付加価値を現実空間にフィードバック



世界の半分がネット内に構築され、人生の半分をそこで過ごすようになる！！

ーだから「仕事」の半分も、ネット内で処理されることで、なくなるー

外の変化はこの10年
それほど変わらないが・・・

グローバル人材

グローバル化する社会ではどの様な人材？

スーパーグローバルハイスクール

「グローバル人材」とは②
・「グローバル人材」の定義

○「グローバル人材」の概念を整理すると、概ね、以下のような要素。
　要素Ⅰ：語学力・コミュニケーション能力
　要素Ⅱ：主体性・積極性、チャレンジ精神、協調性・柔軟性、責任感・使命感
　要素Ⅲ：異文化に対する理解と日本人としてのアイデンティティー

○このほか、幅広い教養と深い専門性、課題発見・解決能力、チームワークと(異質な者の集団をまとめる)リーダーシップ、公共性・倫理観、メディア・リテラシー等。

○グローバル人材の能力水準の目安を(初歩から上級まで)段階別に示すと、
① 海外旅行会話レベル　② 日常生活会話レベル　③ 業務上の文書・会話レベル
④ 二者間折衝・交渉レベル　⑤ 多数者間折衝・交渉レベル

　この中で、①②③レベルのグローバル人材の裾野の拡大については着実に進捗。今後は更に、④⑤レベルの人材が継続的に育成され、一定数の「人材層」として確保されることが極めて重要。

（出典：「グローバル人材育成推進会議中間まとめ」（2011年6月）グローバル人材育成推進会議）

ふたば未来学園高校

①困難な問題に挑戦し続ける力
　○論理的思考能力・課題発見解決力
　○強い志と使命感

②異なる言語、文化、価値観を乗り越え
　多様な主体と共に力を合わせる力

③新しい生き方、産業、社会を作り出す力

↓

変革者

グローバル人材

言語、国の環境や文化などを受け入れて理解し、お互いにとってよい状態を作り上げることのできる素養や柔軟な考え方を持った人材。

グローバル教育とは？

ふたば未来のグローバル教育

1 英語科の取り組み

2 学校としての取り組み

①産業社会と人間の取り組み
②海外研修について
③グローバル スタディーズ

ふたば未来のグローバル教育

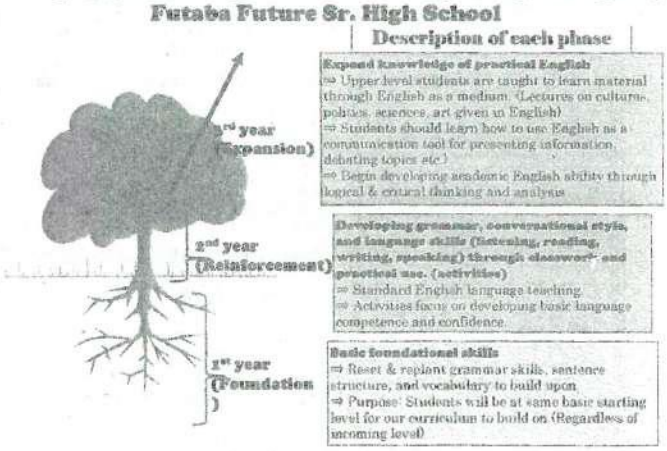
1 英語科の取り組み

語学力(英語力)・コミュニケーション能力

英語を使うことに対する壁を壊す
英語＝目的ではなく、英語＝道具
→英語を使って価値あるものを生み出す
→英語を使って何かを学ぶ

＊海外で学ぶことへの壁を破壊し、
意識のグローバル化を育成する。

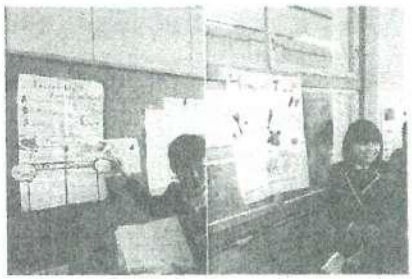
Proposal for English development curriculum through 3 years of High school courses (Danny Rodriguez)
Futaba Future Sr. High School



英語を使う機会を増やす。

- ○Show and Tell
- ○Journal
- ○Presentation
- ○Interview
- ○Debate
- ○Discussion

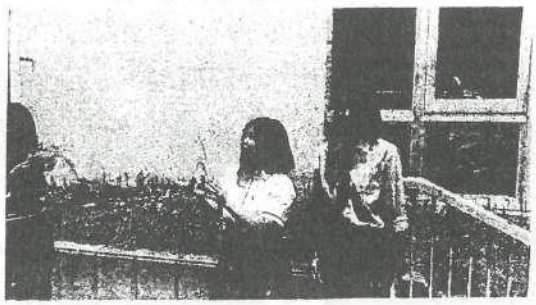
End of lesson project - poster session
(2nd year English communication 2)



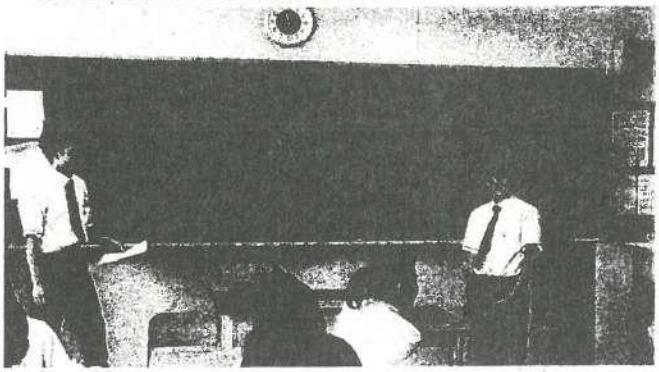
End of Lesson- NASA Panel Interview
(1st year English Communication 1)

Journals

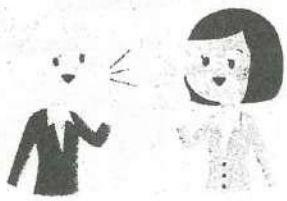
End of Lesson- Eco Tour of School Grounds (3rd year English Comm. 3)



the 3rd years English Communication 3

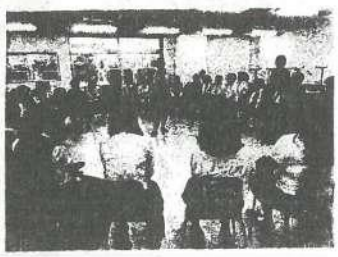


実践的に英語を使う機会を増やす

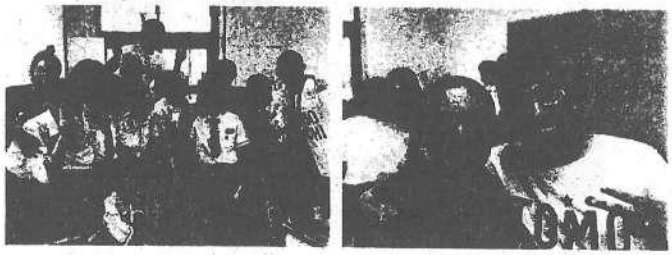


- ○FlipGrid
- ○Skype
- ○Cultural Exchange
- ○Project
- ○Facebook

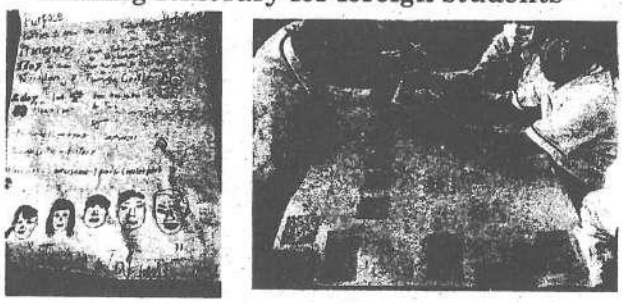
Maryland Whitman High School Summer Festival Exchange Activity



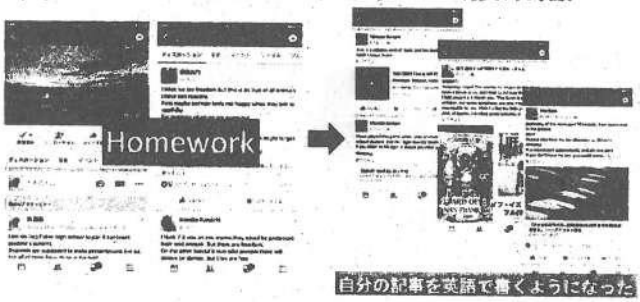
Global Kids
~Cultural Exchange with students from NY~



Accenture
~Making Itinerary for foreign students~



(2)Facabookを使った取り組み（授業編）



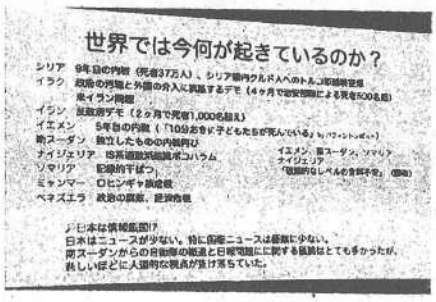
2　学校としての取り組み

①産業社会と人間

②海外研修

③グローバルスタディーズ

「産業社会と人間」
高遠菜穂子氏講演会



「産業社会と人間」
環境省特別講座

第５分科会　SGH 実践レポート　　発表者　企画研究開発部　教諭　齋藤 夏菜子

1　実践テーマ

コミュニケーション教育　・　シティズンシップ教育
「演劇を通して地域の課題を知る学習」 産業社会と人間における演劇の授業
対話を通して違いを乗り越える力を育てる授業について

2　実践のねらい（実践を通してどのような効果の発生を期待するのか）

「演劇を通して地域の課題を知る」授業は、産業社会と人間における本校の３つの柱である、「自分を知る・地域を知る・世界を知る」の中で、「地域を知る」学習の一環として行われている。震災時に小学校１～３年生であった生徒たちは、双葉郡の課題、特に震災時にどのようなことがあり、大人はどのような悲しさや悔しさに直面をしたのかを知っているようで知らない。現実を知り、受け止めるとことから学びを始めて行くために、１年次では入学後に各町村へ複数回に分けてバスで訪問する「課題遭遇」の機会を設定。
ふたば未来学園で学習するにあたり、双葉郡の現状を実際に自分の目で見て、この地で学ぶ意義を考える。
被災・避難者の声に耳を傾け、震災と原発事故の教訓、双葉郡・福島ならではの課題を知る。演劇を通して学んだ様々な地域課題を基に、２・３年次の未来創造探究へと繋げていく。

《なぜ演劇なのか？》
コミュニケーション能力＝合意形成能力　その合意形成のトレーニングができるのが演劇。
他者の視点で物事を捉えることで、地域の課題を他人事から自分事へ引き寄せることができる。
イメージの共有がしにくいもの＝人の心　を共有しやすいのが演劇。

“今、世界から見たら今の日本のイメージは「原発」が強いですね。
震災後、これだけ県内と県外が持つふくしまのイメージは異なってしまった。
これは、我々大人の責任であって、君たちの責任では全くないのだけど
申し訳ないけど、このことを背負って君たちはこれからの社会を生きていかなければいけない。
なぜなら、君たちがふくしまで生まれたということは変えられないからです。

この先、みなさんは「ふくしま」について必ず聞かれるでしょう。
その中には、ふくしまについて全く違ったイメージを持った人もいると思います。
同じ福島県内に住む君たちでさえ、その経験は様々ですよね。
そんな時に、君たちには「ふくしま」についてきちんと伝えることができるようにならなければいけない。
でもね、いくら論理的に伝えようとしても相手に伝わるかどうか難しい。言葉だけではイメージの共有は難しいんです。
風評被害と闘うためには、伝え方を工夫しなければいけない。その伝え方の一つとして「演劇」があるんです。

「演劇」は、言葉で論理的に説明するよりもイメージの共有がしやすい。
特に、一番イメージの共有をしにくいのは「心」です。これを共有しやすくするのに「演劇」は有効です。”

平田オリザさん(2019 年 10 月 9 日の演劇ワークショップより)

3　実践の概要

《主に演劇に関わるプログラムについては以下の通り》

７月　３・１０日（水）双葉郡バスツアー（双葉郡の人・地域を知る）
９月１８日（水）地元のヒーローインタビュー　⇒　記事作成
１０月　２日（水）先輩の演劇を鑑賞・台本分析
１０月　９日（水）演劇ワークショップ
１０月１６日（水）ＦＷ質問づくり
１０月２３日（水）対話劇体験ワークショップ
１１月　６日（水）調べ学習＆ＦＷ先へのアポ取り
１１月２０日（水）ＦＷ・演劇内容検討
１２月　２日（月）～５日（木）演劇週間　対話劇創作
１２月　６日（金）成果発表会・表彰式
１２月１１日（水）演劇チーム振り返り

PDCA サイクルから AAR サイクルへ
Anticipation
Action
Reflection
とにかく毎日チームで対話劇と向き合い、毎日の振り返りを大事にした。

4　実践の成果

演劇週間を通した生徒の変容

「本番」というゴールに向かって、考えや意見の違いを乗り越えて合意形成できたことが自信となり、他者信頼につながった。１２月１１日に実施した振り返りでは、ネガティブなことも振り返ることができる信頼関係を築くことができていた。

(その他 リフレクションシートより)

こんなに頭を使って考えたことはなかった。/ もっと役に立ちたい。/ みんなが意見を出しやすい場所を作りたい。/ 勇気を出して発言して、「ありがとう」の一言をもらえた。/ 人に意見や、自分の考えを伝えることは難しい。/ 話し合いが進まなくて気まずいことがあった。次は人任せにしない！ / 昨日より、班の中の話し合いに参加できた。もっと積極的に頑張りたい。/ 皆で協力できた。チームが一つになって行動できた証明。/ 自分の意見をわかりやすく伝える努力が必要だと思った。/ 平和にできるように頑張ろう･･･。/ 意見をまとめて伝える⇒考える⇒全体で共有

《産社演劇が転機となって生まれた未来創造探究プロジェクト》

「双葉郡に対する偏見を無くしたい」という思いから・・・***地域交換留学プロジェクト***

「原発に頼らない電力づくりを目指したい」という思いから・・・***再生可能エネルギー　微生物発電の研究***

「避難経路を正しく知っていたらもっと被害を防ぐことができたのではないか」という思いから

・・・***全国に防災意識を広めよう（2019年マイプロ全国にて決勝に進出、ベストオーナーシップ賞を受賞）***

「地域のお年寄りに生きがいを」・・・***美容で双葉郡のお年寄りを元気にしたい***

（2019年ふくしま高校生社会貢献活動コンテストにて、最優秀賞受賞）

5　今後の課題（分科会で対話したいこと）

コミュニケーション教育からシティズンシップ教育へ

シティズンシップ＝エージェンシー

エージェンシーとは･･･

「自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力」

「自分の人生および周りの世界に対して良い方向に影響を与える能力や意思を持つこと」

《シティズンシップ教育の背景と課題》より

- **積極的に社会参加する意欲が国際的にみて低い。**
- **自分の力で世の中を変えられると考えている若者が、諸外国に比べて少ない。**
- **理念や概念の理解、情報活用能力が十分身についていない。**

～本校の課題～

演劇の授業を通して実際に地域に出て、多様な大人と出会い、対話劇を創ることを通して地域の問題を他人事から自分事に引き寄せることができた。本校設立から関わってくださる地域の方々は年々増えており、お陰で産社や探究の時間では教員だけでは実施できないような様々なプロジェクトが実施され、生徒達も地域をより良くするための活動ができたという満足感を感じているし、さらに、探究活動を通してもっと社会をより良くしていきたいという意欲的な生徒も増えている。しかし、震災に限らず、生徒自身の知識が乏しく、さらに情報活用能力が十分身についていない。インタビューなどで聞いてきた内容だけを鵜呑みにしてしまう傾向があり、批判的思考力が弱い生徒が多い。これを解決するためには、一つの出来事について、まずは個人でとことん調べ、資料をきちんと読み、その上で疑問点を洗い出し、複数の立場の方から話を聞くなど、今後産社の進め方については工夫が必要である。震災から間もなく９年が経とうとしており、今年の１年生は震災当時小学１年生であった。双葉郡出身の生徒達でさえ、震災の記憶が薄れてきているように感じる。これまでのプログラムの他に、震災のことや原発事故のことについて、正しい知識をインプットする時間が必要になってきているのかもしれない。

また、SNSの普及により、年齢的なものとはまた別に、コミュニケーションの形も変わりつつあると感じる。合意形成のためのトレーニングとして、演劇のプログラムに入る前に、チームビルディングのためのＷＳも入れる必要があると感じている。彼らが価値観の違いを乗り越えて他者と協働・対話できるようになれば、生徒達が自分の人生および周りの世界に対して良い方向に影響を与えられるようになると考える。

「演劇を通して地域の課題を知る学習」
～対話を通して違いを乗り越える～

本校の産業社会と人間における演劇の授業について

福島県立ふたば未来学園高等学校
企画研究開発部　産社担当　齋藤夏菜子

「演劇を通して地域の課題を知る」

・「産業社会と人間」の中で実施。

・地域の大人へのインタビューを通して地域の課題を捉え、それを基に対話劇を創作する。

・地域の大人たちの視点で物事を見つめ、そこで出てきた課題と向き合い、2年次以降の未来創造探究での活動に繋げていく。

講師:平田オリザ先生
青年団主宰　劇作家/演出家

海外では一般的～人種を超えてみんなと協力する力～
演劇を通して自己を表現し、他者とわかり合おうとする

分からないことを想像するためのツールとして
演劇は有効

コミュニケーション能力のとらえ方とその育成

○コミュニケーション能力を、色々な価値観や背景をもつ人々による集団において、相互関係を深め、共感しながら、人間関係やチームワークを形成し、正解のない課題や経験したことのない問題について、対話をして情報を共有し、自ら深く考え、相互に考えを伝え、深め合いつつ、合意形成・課題解決する能力と捉え、多文化共生時代の２１世紀においては、このコミュニケーション能力を育むことが極めて重要である。
○コミュニケーション能力を学校教育において育むためには、①自分とは異なる他者を認識し、理解すること、②他者認識を通して自己の存在を見つめ、思考すること、③集団を形成し、他者との協調、協働が図られる活動を行うこと、④対話やディスカッション、身体表現等を活動に取り入れつつ正解のない課題に取り組むこと、などの要素で構成された機会や活動の場を意図的、計画的に設定する必要がある。
（平成２３年８月２９日　コミュニケーション教育推進会議より）

演劇がコミュニケーション能力の育成に有効である理由

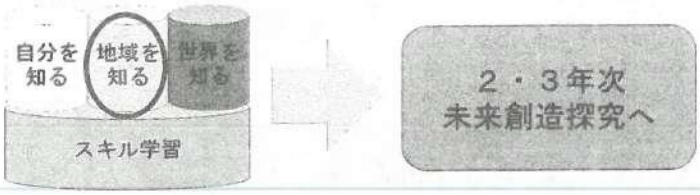
・生徒の創造性や表現力の伸張
・コミュニケーション能力の向上（言語・非言語）
・人間理解の深化

演劇が教育にもたらす豊かな人間育成がねらい

○価値観や意見の違いを超えたコミュニケーション
○お互いを信頼し、協力し合う姿勢
○表現することを楽しむ心
一定時間内に全員で協力して一つの答えを出す
合意形成能力育成のトレーニング

■課題を知る学習に取り組む意義

・双葉郡の現状と課題を実際に自分の目で見て、この地で学ぶ意義を考えさせる。
・被災・避難者の声に耳を傾け、震災と原発事故の教訓、双葉郡・福島ならではの課題を知る。



地域を知る学習　1年の流れ

地域の「仕事」や「人」に触れる

地域の課題について調べ、演劇にする

7

地域を自分の目で見る
地域を知る
～双葉郡バスツアー～

8

■コースの紹介

7/3 富岡町コース① 語り部：舞木淑子さん （富岡町３．１１を語る会）	7/3 富岡町コース② 語り部：渡辺　好さん （富岡町３．１１を語る会）	7/3 浪江町コース 語り部：蒲原文恵さん （浪江町役場）
富岡駅、富岡小中学校 夜ノ森桜並木のバリケード 御隠亭、商店街、富岡高校	①と同じ （ルート逆）	浪江町役場、ＪＲ浪江駅 請の駅予定地、請戸漁港 なみえ創成小・中学校
7/10 双葉町・大熊町コース 語り部：渡部千恵子さん （NPO法人人形劇ふるさと双葉劇団）	7/10 楢葉町コース 語り部：松本昌弘さん （楢葉町役場）	7/10 広野町コース 語り部：磯辺吉彦さん （広野わいわいプロジェクト）
シウ神山災害公営住宅 岩沢海水浴場 大熊町給食センター	J-village 楢葉町南工業団地 ここなら笑店街	広野駅東海岸 大滝 二つ沼公園ドーム 広野町振興公社

9

地域を自分の目で見る・地域を知る

７月３日　「課題を知る学習」①

○ 富岡町

○ 浪江町

10

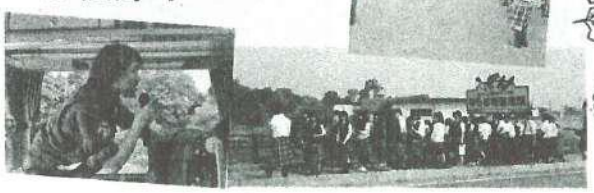
地域を自分の目で見る・地域を知る

７月１０日　「課題を知る学習」②

○ 双葉・大熊町

○ 楢葉町

○ 広野町



11

富岡町へ行って 第二原発が見える場所に行きました。場所の境目で津波が来た場所と来てない場所の差が悲しく、とても悲しく感じました。富岡高校を見学した際に、時間が止まっている時計を見て、一瞬にして日常が奪われてしまったんだととても悲しかったです。そのような人達のためにもできることがあったらず伝いたいです。	**富岡町へ行って** 震災当時のまま残っていたものもあった。富岡町は、大きな被害を受けた浪江、双葉、大熊の中で津波が一番高く、人々の命を失ったと聞きました。今まで友達だった人が震災によりにくなってしまったと考えると悲しい気持ちになります。帰宅困難区域があるものの、少しずつ富岡町が元気であったらいいなと感じた。
浪江町へ行って 行く前は双葉の中でも比較的復興が進んで活性化していると思っていたけど、語り部さんの話を聞いてまだまだ元通りになるには長い時間が必要なんだと知りました。私の故郷も近い場所にあるし、無関心のまま他人事にしてはいけないと思います。	**楢葉町へ行って** 楢葉の海岸は津波に洗われたまま、建物跡がほとんどありません。汚染物などが一時的に置かれていました。また夜間か進んでいないと感じられました。でも、人との触れあいがたくさんできる場所があり、そういったものは素晴らしいと思いました。ただそこに人が集中していて、北部に人がいないということが問題だと聞いたので、何か私にできることはないかと考えるきっかけになりました。
双葉町・大熊町へ行って 大熊の匂並みを見て復興が進んでいるなぁと感じた。母の仕事場である中間貯蔵施設につながるベルトコンベアーは、いろいろな設備があることを知った。また、給食センターを作るまでにいろいろな人が関わっていたり、長い年月をかけて原発で働いている職員のためにつくられたことを知ることができた。	**広野町へ行って** 町を活性化するための様々なイベント（ハナナ畑や田んぼアート）があり、人口も震災直後より増えてきていると言っていた。もっと盛んにしていくためにはどうすればいいか、一緒に考えたいと思った。あと、ふたば未来学園ができて、みんなが元気に楽しいと言ってもらえて、復興の一翼になってるのかなと思った。

12

地域の人や仕事に触れる

～地元のヒーローインタビュー～

地域の課題について調べ
演劇にする

地域の課題について調べ、演劇にする

演劇創作のためのインタビュー＆ＦＷ

１１月１９日（水）５・６校時
　学校に招待し、インタビューを実施
１１月２７日（水）５・６校時
　現地に出向き、ＦＷ＆追加インタビューを実施

今年度のＦＷ先一覧

1班：東京電力福島復興本社
2班：東京電力福島復興本社
3班：中間貯蔵・環境安全事業
　株式会社(JESCO)
　中間貯蔵工事情報センター
4班：　〃
5班：NPOハッピーロードネット
6班：双葉地方広域市町村圏組合
　消防本部富岡分署
7班：Jヴィレッジ
8班：中間貯蔵・環境安全事業株式会社
（JESCO）中間貯蔵工事情報センター
9班：NPO富岡町3．11を語る会
10班：広野こども園

11班：楢葉中学校
12班：ふたばいんふぉ
13班：特別養護老人ホームリリー園
14班：四倉屋精肉店
15班：NPO富岡町3．11を語る会

16班：医療法人社団美高会　高野病院
17班：木戸川漁業協同組合
18班：NPO法人みかんクラブ
19班：広野こども園
20班：中間貯蔵・環境安全事業
　株式会社(JESCO)
　中間貯蔵工事情報センター

地域の課題について調べ、演劇にする

19

１２月２日（月）～６日（金）演劇創作

地域の課題について、グループで演劇にしていく。
平田オリザさんや、プロの俳優さん達によるサポートも。

12月2日(月)	プロット作成(ワークシート①②)
12月3日(火)	午前:プロット作成　午後:コミュニケーションWS
12月4日(水)	台本づくり
12月5日(木)	午前:中間発表(クラスごと)　午後:稽古
12月6日(金)	成果発表会@みらいシアター

対話劇をつくる上でのルール

20

一つの主義主張を伝えるのではなく、
異なる価値観や意見を持った人々が登場し、
戸惑ったり、理解し合ったりしながら
対話を進めていく演劇。

1. 予定調和の劇にせず、問題の複雑さを表現する。
2. はっきりとした悪者は登場させない。
3. 立場や考え方の違いによる難しい課題をそのまま表現する。
4. 全国や世界の人に福島の課題を理解してもらえる、共感してもらえる部分を見つけ出し、広げていく表現をする。

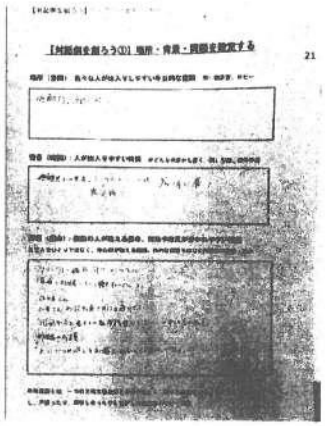
対話劇をつくる STEP 1

21

ワークシート①
場所・背景・問題を設定する

場所は色々な人が出入りしやすい半公的空間がよい。

背景：対処や意見が分かれやすい問題を考える。



対話劇をつくる STEP 2

22

ワークシート②
登場人物を設定する

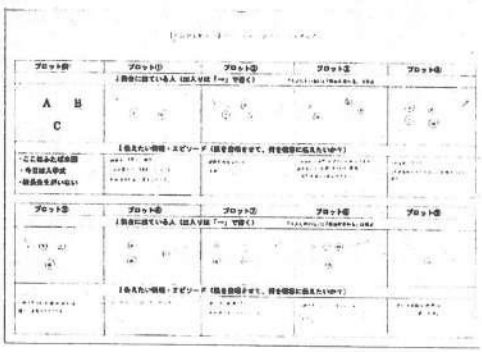
・内部（中核になる集団、問題を抱える人々）
・中間部（内部と関係のある人々）
・外部（問題をもたらす人々）

対話劇をつくる STEP 3

23

ワークシート③
プロットを考える

シーンごとに
登場人物の出入り
伝えたい情報を整理する。

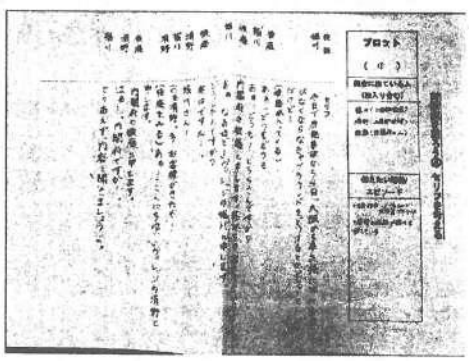


対話劇をつくる STEP 4

24

ワークシート④
台本作成

プロットごとに
台本を作成する。



成果発表会
12月6日(金)
会場:本校みらいシアター

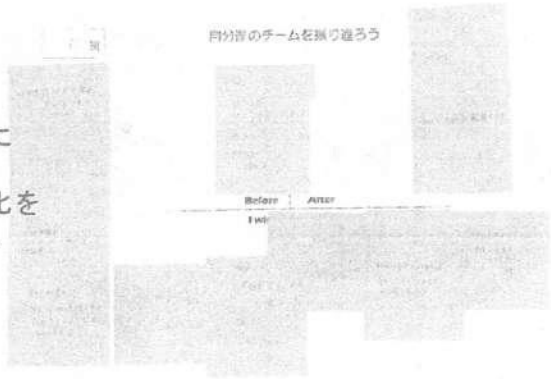
地域の方々を招待し、フィードバックをいただく。

生徒投票により、最優秀賞および校長賞、オリザ賞等を決定する。

最優秀賞作品は英訳し、ドイツ研修にて発表。

演劇
振り返り

チームごとに
演劇週間の
気持ちの変化を
シェアする。



成果と課題

生徒達にとって、分からないこと
○どこか他人事に感じてしまう、地域の問題
○その地域の問題と向き合い続けている大人の気持ち
○自分と違う考えを持つ人の気持ち

演劇にすることで、他者を演じ、想像してみる。

他人事を自分事として考えてみる。
「自分だったらどうだろう・・・」

自分達にできることは何だろう ⇒ 未来創造探究への接続へ

地域課題を自分事に　未来創造探究プロジェクト実践例

高校生と考える廃炉座談会

トリチウム水の処理や、放射性廃棄物の最終処分など、廃炉作業が進んでいく上で住民生活に影響が生じるのは自明だが、専門的で難しい課題について住民が共に考える機会が少ないことを課題として設定。東電や政府等の廃炉実行主体や専門家と住民が対話を重ね、社会的合意を形成しながら廃炉を進めていくことを目指し「高校生と考える廃炉座談会」を主催。

地域交換留学

福島復興に関する県内外の問題意識の差の解消や、福島のみならず全国の地域課題を自分事として捉え行動する若者のエンパワーメントを目指して、福島と全国の高校生が互いの地域を訪問して問題解決のきっかけをつくる独自のプログラム「地域交換留学」を企画し実施。フィールドワーク、ホームステイ、未来予測データも活用した地域未来会議を意図的に組み合わせ、資金調達・参加校募集等も生徒自ら実施。

31

今後育てたい力

32

コミュニケーション教育からシティズンシップ教育へ

シティズンシップとは、エージェンシーである。

エージェンシーとは
「自ら考え、主体的に行動して、責任をもって社会変革を実現していく力」
「自分の人生および周りの世界に対して良い方向に影響を与える能力や意思を持つこと」

《シティズンシップ教育の背景と課題》より

33

・積極的に社会参加する意欲が国際的にみて低い。

・自分の力で世の中を変えられると考えている若者が諸外国に比べて少ない。

・理念や概念の理解、情報活用能力が十分身についていない。

本校生徒の課題

34

地域と協働する力や行動力はあるが・・・

震災から９年・・・生徒達の中での震災の風化
生徒自身の知識不足（情報活用能力が低い）
地域の人達から聞いた話だけで満足してしまう。

物事を多面的･多角的に見ようとする力
批判的思考力　をもっと身に付けさせることが課題である。

第５分科会「コミュニケーション教育・シティズンシップ教育」SGH 実践レポート
発表者　田坂優太

1　実践テーマ

生徒会ってなんだろう

2　実践のねらい（実践を通してどのような効果の発生を期待するのか）

生徒会は何のために誰のためにあるかを根本に持ちながら、行事のあり方や校則について見直していく。また、生徒会行事等の大きなイベントだけでなく、日々の小さな活動にも目を向けさせる。

関心を持つ　→　気づく　→　考える　→　伝える　→　きまりを変えようとする

自分事としてとらえる　　発揮・発信する

3　実践の概要

役員同士の対話を通して、考えを深める（自分の意見を見つめなおす）、広げる（他人の気持ちになって考える）ことを行った。特に校則の改正については、教員との協議も行った。

様々な行事において、目的を一から考え、目的達成のための内容を検討した。また、行事の運営についても生徒自身での運営を心掛けた。

4　実践の成果

社会や学校のできごとについて自ら考え、行動できる生徒が多くなった。今まで言われた通りにしていた学校の校則について、自分の考えを伝えられるようになった。

・校則の改正とふたば未来生の宣言文の作成（裏面 6）
・台風災害のボランティアに参加したいという有志の生徒達が教員に申し出、公欠でボランティアに参加した
・生徒会行事を見直し、生徒主体での企画検討
・同好会の新設（バスケットボール同好会）
・生徒会新旧役員引継ぎ会での旧生徒会長の言葉「先生方とぶつかることは間違いではない。生徒会は全校生徒の想いを受け、伝える役割があるので、正しいと思ったことはどんどんぶつかってほしい。」

5　今後の課題（分科会で対話したいこと）

教員としてどのように生徒会をサポートしていくか。
伴走者としての教員のあり方。変化を起こそうとしている生徒にどう向き合っていくか。

6　生徒総会で生徒会役員が全校生に提示した宣言文

１．「ふたば未来生の宣言」について

一、ふたば未来学園の生徒は次の宣言を日常の心得として生活する。

私たちはふたば未来学園の生徒だ
ふたば未来の生徒とはどんな生徒だろうか
優しい生徒、明るい生徒、元気な生徒、一生懸命な生徒
それぞれの生徒がそれぞれの理想の自分を、それぞれに理想のふたば未来学園を思い描く
自分で考えるんだ
先生や周りの大人、知らない大人が考えるのではない
私たちが考え、決断し、行動する
自分はどうなりたい、今どうしたい、どうしたらいい、学校をどうしたい、地域を、世界をどうしたらいい
もし全員の考えが全て違ってもその中に間違いはひとつもない
一人一人が考える理想は全て違う
それが私たちの個性だ
その個性に溢れた学校がこのふたば未来学園だ

そして私たちは仲間の理想を、個性を認め合う
違って見える仲間の世界を、自分と違う仲間の考えを受け入れ大切にする
そして互いの考えを深め、一人の人として成長する
成長しながら私たちはそれぞれの目標に向かって挑戦をする
もしかしたらその挑戦は外から見れば小さな挑戦かもしれない
しかし私たちのその小さな挑戦を積み重ねることは大きな財産となる
目標はそれぞれ違っても仲間と高め合い、応援し、感謝し、私たちはまた成長する
そしてまた挑戦を積み重ねよう

ふたば未来学園は私たちがつくる

以下の校則は、この宣言に基づき本校の生徒が自らを律し、他者への尊重を心がけることを前提に守る。

第 6 分科会「主体的・対話的で深い学び～指導力向上～」SGH 実践レポート

発表者 ふたば未来学園中学校・高校　教諭　鈴木　貴人（数学）

1　実践テーマ

教員研修会を通して、主体的・対話的で深い学びを体系的・恒常的に展開していく学校づくり

2　実践のねらい

今年度、中学が開校し、子どもたちを6年間通して育成していく教育をあらためて考える機会となった。また、社会的な課題も開校当初に比べ多岐にわたっており、新テスト・新入試・新学習指導要領など教員と生徒を取り巻く環境も変化した。このように変化が大きい社会の中で、持続的かつ効果的に探究活動(PBL)と AL を生み出すためには、再度学校全体で、すべての教育活動を通して、育てていく資質と能力とは何かを学校全体で明確にし、私たち教員にはどういった具体的な手立てが必要なのかを考えたい。同時に、これまで高校段階からの指導だけでは獲得が困難だと思われていたキャラクターやマインドセットを育てていくことが出来るのではないかと考えた。

3　実践の概要

- 6/12(水)「期待する生徒の姿」づくりワークショップ
- 8/9(金) ルーブリック改善ワークショップ
- 9/4(水) クロス・カリキュラム【企画編】
- 10/9(水)～10/11(金) ふくしま教育週間(互見授業週間)
- 11/14(木) クロス・カリキュラム【振返り編】
- 2/4(火) SGH 成果報告会

4　実践の成果

情報処理能力・英語活用力など様々なコンピテンシーの獲得に対して、先生方のアプローチの手段も様々なことを学ぶことが出来た。このことに限らず、言語化しづらいノウハウも学ぶことが出来たので、教員の成果は大きく、指導力向上につながった。

また、ルーブリック改定に関わる研修を通して、教育目標を組織化し、評価を軸としてより強固に教員間の目線を合わせることも出来た。

5　今後の課題

生徒側の成果が不明確である。また、「本校だからできた」ではなく、年度が替わり、務める先生方が異動したり、他校や学校を移ったりしても実践を可能にする手法・成果の言語化が必要である。

以下に、あらためて本校の特筆すべき3点を挙げてみた。

・企画研究開発部

これまで教務が行っていた現職教育や、進路指導部とともに生徒個々人の進路を考えることが出来る同部が学校組織の一翼として存在していること。

・明確な教育目標

「変革者たれ」を校訓に、そのために必要な目標を生徒・教員療法に対して明確にしたルーブリックが存在し、その活用が図られている。

・ルーブリックを体現する時数が確保されたカリキュラム

すべての系列の生徒が 3 年間で計 6 単位学ぶ「探究活動」を実践するなど、教科時間の中に横断的な学習を取り入れている。

SGH研究成果発表会
(第6分科会)

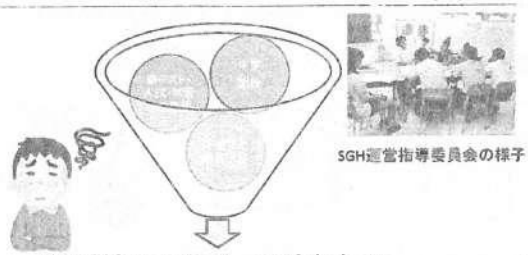
主体的・対話的で深い学び
～指導力向上～

ふたば未来学園中学・高等学校
鈴木　貴人

1　テーマ

教員研修会を通して、
主体的・対話的で深い学びを
体系的・恒常的に展開していく学校づくり

2　テーマ設定のねらい・理由(2)



学び続ける教員・目線あわせ

3　解決のための手立て

6/12(水)
「期待する生徒の姿」づくりワークショップ
変革者、自立・協働・創造につながるキャラクターの共者

8/9(金)
ルーブリック改善ワークショップ
(Map づくり)

ルーブリックへの落とし込み

9/4(水)～11/14(木)
クロス・カリキュラム
理想を現実につなげる実践

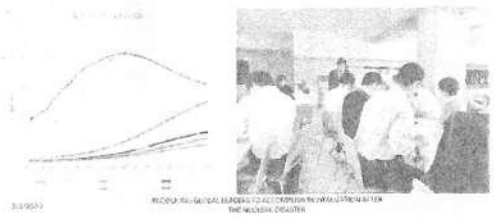
⇒年間2+12+1回

4　実践報告

(1)「期待する生徒の姿」づくりワークショップ

日時　6月12日(水)15:00～16:30

導入 | World cafe | 振り返り



4　実践報告

(2) ルーブリック改善ワークショップ

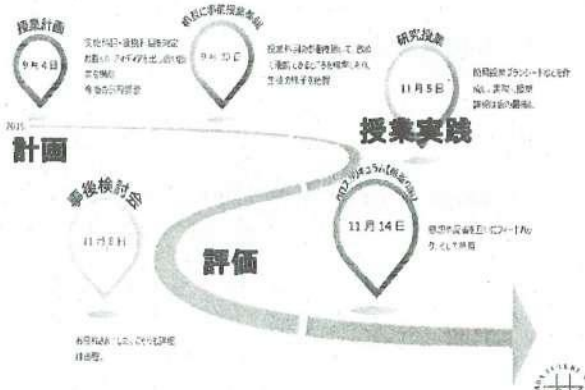
日時　8/9(金)　13:00～14:30

説明 | ルーブリック作成WS | 振り返り

4 実践報告

(3)クロス・カリキュラム

9/4(水)企画編　11/14(水)振返り編



クロスカリキュラムのメリット

【教員】

偶然の出来事⇒それを意図的に目指せる

既存の教科の内容・目標をお互いに理解できる。

他教科の先生のノウハウを学べる

【生徒】

「自分に必要がない」と、思っている科目への取り組みが変わる

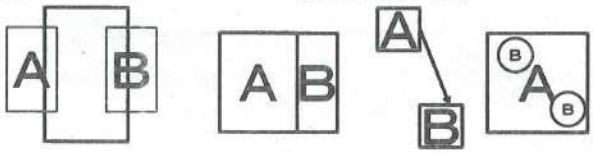
⇒生徒たちの興味・関心が高まる

多教科で得た知識の関連に気付ける

一方の教科が苦手でも積極的に参加できる

[補足]
探究活動とクロスカリキュラムの違い

探究活動　　クロスカリキュラム



・各教科の枠ナシ ・6つのテーマに関する新たな学習内容・活動	・教科が前提 ・横断的で現代的な課題に関する学術的な内容

5 成果と課題

成果

- 様々なコンピテンシー、様々な手法
  ⇒"学び続ける教員"の実践
- ルーブリック＋クロスカリキュラム
  ⇒教育目標の組織化
- 生徒、教員両面での学び意義・効果
  ⇒この後の発表へ

5 成果と課題

課題

- 何が残るの？
  ⇒知の言語化　不十分

- 振り返りの手段
  ⇒それぞれの教員がすべての教育活動に主体的に関われる仕掛けづくり

第６分科会「主体的・対話的で深い学び～指導力向上～」SGH 実践レポート
発表者　ふたば未来学園中学校・高校　教諭　鈴木　博幸

1　実践テーマ
クロスカリキュラム
（日本史×理科）実践報告

2　実践のねらい（実践を通してどのような効果の発生を期待するのか）
【教員】
・偶然の出来事　⇒それを意図的に目指せる
・既存の教科の内容・目標を　お互いに理解できる。
・他教科の先生のノウハウを学べる
【生徒】
・「自分に必要がない」と、思っている科目への取り組みが変わる
　⇒生徒たちの興味・関心が高まる
・各教科で得た知識の関連に気付ける
・一方の教科が苦手でも積極的に参加できる

3　実践の概要
《目標》現在（２１世紀）では、どのような国際協調が必要だろうか考えをまとめる。
①講義：理科の橋爪先生による温暖化の原因や地球の平均気温の上昇などの講義
②話し合い（１回目）資料に基づき京都議定書（1997）当時の各国代表（米・中・日・印・（欧））として削減目標を決めるためにグループで話し合い→発表
③話し合い（２回目）資料に基づきパリ協定（2015）当時の各国代表（米・中・日・印・（欧））として削減目標を決めるためにグループで話し合い→発表
④講義：理科の橋爪先生によるパリ協定後の動きの講義
⑤まとめ・リフレクション

4　実践の成果
【教師からの意見】
実際の会議の変遷を辿るような構成もとても引き込まれました。／２回話し合いさせることで、協調への取り組みの追体験できたと思う。／各国代表の気持ちになって、主体的に考えるまで持ち込めていた。橋爪先生の講義が深く、生徒も食いついていた。／生徒が真剣だった。話し合い、橋爪先生の講義。／漠然としか知らなかったことを橋爪先生から input いただけたのも貴重でした。／公平、公正とか別の機会に深堀させてみたい／意見の全体共有の様子から普段の授業がわかった／時間不足が悔やまれる／他の先生と協働して授業を作っていくのはとても楽しいし、勉強になると感じた。特に指導方法について参考になるところがあり、授業改善につながるきっかけになった。
【生徒からの意見】

・歴史は地球の温暖化ともつながっていることがとても分かり、これからの歴史の単元も、これからの歴史の勉強にしっかりとつなげていけるようにしたい。
・昔は、戦争などの軍事的な内容を国同士で話すことが多いイメージを持っていた。しかし、これからの国際協調が必要なのは、軍事的な分野ではなく、環境問題であり、持続可能な社会を、地球規模で作ることが必要だ。
・世界各国が参加して話し合いをしたことだから、一部の国だけが課題解決に向けて取り組むのではなく、世界の問題は他の国に頼らずに一つ一つの国がこの問題について考えていく必要がある。
・今の地球は温暖化し続けている。その温暖化を、今、一人一人が二酸化炭素を抑えるため心がけることを考えることができた。また、自分のできることを考えられた。
・リフレクション（1）「あなたはどれくらいグループに貢献できましたか？」
⇒平均 4.1pt./5pt.

5　今後の課題（分科会で対話したいこと）
○クロスカリキュラムを実践すること自体に難しさがあるのではないか。
⇒きっかけの場の提供が必要（校内文化の影響は大きい）、教科の本質的な学びへの精選につながる、中心科目を決める（CLILL 的授業イメージ）管理職のチャレンジを認める姿勢が大事では
○教科の年間指導計画に組み込まれていないため、単発のイベントになる可能性があるのではないか。
⇒年間指導計画に基づいた方がいいが、できるときにできるタイミングで行ってもいいのではないか。教科科目間の親和性。
○生徒の成長が見えづらいのではないか。
⇒教科間の知識のつながりを意識できるようになり、長期的な成長を見ることができる。

クロスカリキュラム（日本史×理科）実践報告

鈴木　博幸（日本史）

クロスカリキュラム実践のねらい

【教員】
- 偶然の出来事
  ⇒それを**意図的**に目指せる
- 既存の教科の内容・目標を**お互いに理解**できる。
- **他教科**の先生のノウハウを学べる

【生徒】
- 「自分に必要がない」と、思っている科目への取り組みが変わる
  ⇒**生徒たちの興味・関心が高まる**
- 各教科で得た**知識の関連**に気付ける
- 一方の教科が苦手でも**積極的に参加**できる

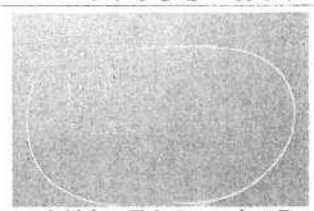
１０月３１日（木）日本史Ａ授業（実践１時間目）

《目標》
全員が時間内に「ワシントン体制とは何だろうか」について理解し、自分なりに80字程度にまとめ、友達と意見交換し、ベストなまとめをつくる。

《＋α》
①当時の協調のテーマは何か、答える。
②現在、当時と同じように、世界が協調する必要があるテーマは何か考える。

《＋α》として
環境問題につなげて、「協調」を求める人類の営みについて、約100年前と現在とをリンクさせたい。

１０月３１日（木）日本史Ａ授業（実践１時間目）



《＋α》②の生徒回答
エネルギー問題，
環境問題，
非核化，
ＳＤＧｓ達成

クロスカリキュラムのいいところ
⇒普段の授業では関連付けない発問を教科横断的に意識的してできる

１１月５日（火）日本史Ａ授業（実践２時間目）

主体的な学び	対話的な学び	深い学び
気候変動に関する国際協調のためにどのような視点が必要なのか、当事者の視点で考えさせる。	個人で考えた視点をグループで持ち寄り、議論することにより、国際協調のより良い方向性を考えさせる。	教科書の記載では、国際協調や条約の締結といった事実が中心に書かれている。実際の現場では各国の利害関係を調整するための激しい交渉が行われていることを、気候変動の条約締結時の資料などから学ばせる。

クロスカリキュラムのいいところ
⇒複合的視野から多角的に生徒の活動を協力して考え、新しい課題提示につながる。

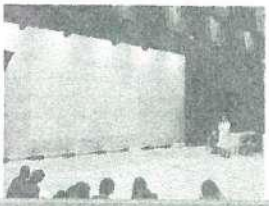
１１月５日（火）日本史Ａ授業（実践２時間目）

《目標》
現在（２１世紀）では、どのような国際協調が必要たろうか考えをまとめる。

１１月５日（火）
日本史Ａ授業（実践２時間目）

①講義

理科の橋爪先生による温暖化の原因や地球の平均気温の上昇などの講義



②話し合い（１回目）

資料に基づき京都議定書（1997）当時の各国代表（米・中・日・印・（欧））として開発目標を決めるためにグループで話し合い→発表

１１月５日（火）
日本史Ａ授業（実践２時間目）

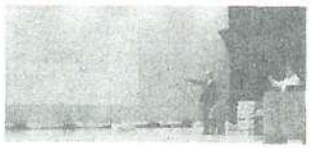
③話し合い（２回目）

資料に基づきパリ協定（2015）当時の各国代表（米・中・日・印・（欧））として開発目標を決めるためにグループで話し合い→発表

④講義

理科の橋爪先生によるパリ協定後の動きの講義

⑤まとめ・リフレクション



クロスカリキュラム実践の成果

【教師からの意見】（意図的に… お互いに理解… 他教科…）

実際の会議の変遷を辿るような構成もとても引き込まれました。／2回話し合いさせることで、協調への取り組みの追体験できたと思う。／各国代表の気持ちになって、主体的に考えるまで持ち込めていた。橋爪先生の講義が深く、生徒も食いついていた。／生徒が真剣だった。話し合い、橋爪先生の講義。／当然としか知らなかったことを橋爪先生からinputいただけたのも貴重でした。／公平、公正とか別の機会に深堀させてみたい／意見の全体共有の様子から普段の授業がわかった／時間不足が悔やまれる／他の先生と協働して授業を作っていくのはとても楽しいし、勉強になると感じた。特に指導方法について参考になるところがあり、授業改善につながるきっかけになった。

クロスカリキュラム実践の成果

【生徒からの意見】（興味関心… 知識の関連… 積極的参加…）

・歴史は地球の温暖化ともつながっていることがとても分かり、これからの歴史の単元も、これからの歴史の勉強にしっかりとつなげていけるようにしたい。

・昔は、戦争などの軍事的な内容を国同士で話すことが多いイメージを持っていた。しかし、これからの国際協調が必要なのは、軍事的な分野ではなく、環境問題であり、持続可能な社会を、地球規模で作ることが必要だ。

・世界各国が参加して話し合いをしたことだから、一部の国だけが課題解決に向けて取り組むのではなく、世界の問題は他の国に頼らずに一つ一つの国がこの問題について考えていく必要がある。

・今の地球は温暖化し続けている。その温暖化を、今、一人一人が二酸化炭素を抑えるため心がけることを考えることができた。また、自分のできることを考えられた。

・リフレクション（1）「あなたはどれくらいグループに貢献できましたか？」

⇒平均4.1pt./5pt.

クロスカリキュラム実践の課題

○クロスカリキュラムを実践すること自体に難しさがあるのではないか。

⇒**きっかけの場**の提供が必要（**校内文化の影響**は大きい）、教科の本質的な**学びへの精選**につながる、中心科目を決める（CLIL的授業イメージ）、**管理職のチャレンジを認める姿勢が大事では**

○教科の年間指導計画に組み込まれていないため、**単発のイベント**になる可能性があるのではないか。

⇒年間指導計画に基づいた方がいいが、**できるときにできるタイミングで行ってもいいのではないか。教科科目間の親和性**。

○**生徒の成長**が見えづらいのではないか。

⇒教科間の知識のつながりを意識できるようになり、長期的な成長を見ることができる。

第6分科会　主体的・対話的で深い学び～授業力向上～

実践事例II
クロスカリキュラム・演劇・哲学対話を取り入れた歴史授業

コンテンツベースからコンピテンシーベースで
歴史的思考力を育成する授業を目指して

ふたば未来学園高等学校　林　裕文

＜本発表の内容＞

1　授業実践報告

①クロスカリキュラム　②演劇　③哲学対話

2　様々な手法の実践を通じて得たこと

3　ふたば未来学園に転動して見えたこと

＜授業実践報告①＞

クロスカリキュラム【英語×世界史】

＜授業実践報告①＞

クロスカリキュラム【英語×世界史】

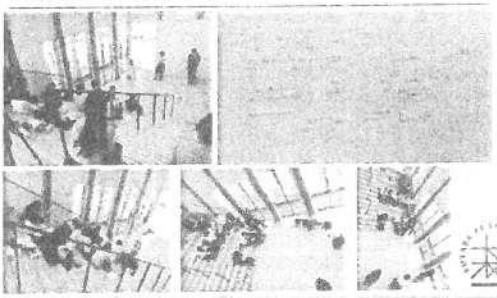
クロスカリキュラムの手法を取り入れた
歴史学習の意義

① 生徒の「学びのレリバンス」を高める

② 学習内容を精選し、教科の特性に応じて
見方・考え方を生かした授業構成になる

＜授業実践報告②＞

演劇×世界史



＜実践事例②＞

演劇×世界史

演劇の手法を取り入れた歴史学習の意義

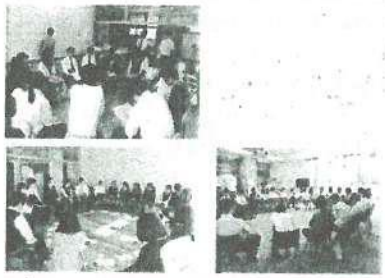
① 異文化、他者への接触をフィクションの
力を借りて疑似体験すること

② 演劇を通じて、コミュニケーションの
多様性、多義性に気づいてもらうこと

【課題】事実立脚性をどう担保するか？

9

<実践事例③>
哲学対話×社会科（現社・倫理・世界史）



<実践事例③>
哲学対話×社会科（現社・倫理・世界史）

そもそも、「哲学対話」とは？

→ベースはPhilosophy for Children(通称P4C)

○doing philosophy 子どもと一緒に哲学の問題を考え、対話を通して子ども同士で/子どもとともに「哲学する」哲学対話教育

<実践事例③>
哲学対話×社会科（現社・倫理・世界史）

<実践事例③>
哲学対話×社会科（現社・倫理・世界史）

今年度行った哲学対話の実践例

●「嘘っていけないの？」（倫理）
●「高校生にボランティア休暇を作るべきか？」
●「後輩は先輩を敬わなければいけないのか？」
●「大人」とはどういう人か？」
●「選挙がなくなると誰が得をするのか？」
●「なぜ宗教にのめり込んでしまう人がいるのか？」
○「プルトゥスの「カエサルの暗殺」は許される行為なのか？」（世界史B）
○「平和はお金で買えるのか？」

<実践事例③>
哲学対話×社会科（現社・倫理・世界史）

哲学対話の手法を取り入れた歴史学習の意義

① 「問う」や「他者の声を聞く」ことを学ぶ
② 社会に対する感度を上げていく

【課題】学習の成果をどのように見取るか？

2 様々な手法の授業実践を通じて得たこと

（1）教員自身の変容

（2）生徒自身の変容

10

2 様々な手法の実践を通じて得られたこと

(1)教員自身の変容
1)教員自身の「学びのレリバンス」の向上
2)各教科の本質的な見方・考え方を追求する授業を作るようになる
3)各教科の授業手法をお互いに学び合うことができる
(学習の仕方、教授法、時間の使い方等)

2 様々な手法の実践を通じて得たこと

(2)生徒自身の変容
1)生徒の学びのモチベーションを高める
留学生と共に学ぶ(本校生徒)／
自分の事・国の事を知って欲しい(留学生)

2)【今後の課題】生徒の変容をどのように見取るか(評価の観点)
→正直、演劇や哲学対話は評価と相性が良くないと感じている。

3 ふたば未来学園に転勤して見えたこと

1)「ふたば未来学園だからできるんでしょ?」に対する反論
2) ALを組織として推進する校務分掌の存在
3)「主体的で対話的な」職員室作り

3 ふたば未来学園に転勤して見えたこと

1) 「ふたば未来学園だからできるんでしょ?」に対する反論
前任校ではアクティブラーニングを推進する立場として悪戦苦闘していた・・・

3 ふたば未来学園に転勤して見えたこと

2) ALを組織として推進する校務分掌の存在
① ルーブリックと未来創造探究を軸に育てたい生徒のヴィジョンが明確にある
② 未来創造探究で行いたい教育活動を教務部と連動して実現する
③ 独立した校務分掌であること

3 ふたば未来学園に転勤して見えたこと

3)「主体的で対話的な」職員室作り
【前提】教職員間でAL型授業に関するイメージの共有ができていること
① 他教科の手法を自分の教科に応用する
② 教員のメンタリティ
教員自身が「主体的で対話的な深い学び」を実践している⇒ブランド・ハップンスタンス

11

未来研究会　２年生世界史Ｂ×英語クロスカリキュラム

ふたば未来学園中学校高等学校　地歴公民科　教諭　林　裕文
英語科　教諭　塩田　陸

1. 背景

昨年度(平成３０年度)、AFS アジア架け橋プロジェクトより、マレーシアの留学生１名(２年インドラ・デラガナダン、マレーシア)を受け入れて半年間生活をさせた。滞在中に、東南アジアの世界史の単元でクロスカリキュラムを行う計画を立てていたが、インドラが私立理系のカリキュラムに沿った授業選択をしていたため、実施には至らなかった。

今年度は、未来研究会でクロスカリキュラムが話題に挙がったことと、中学校開校一年目で CLIL を取り入れたグローバルスタディの授業が始まったこともあり、学校全体で教科横断を進めていこうという気運が高まっていた。AFS からは今年度２名の留学生、２年生ティッパポーン・ティッパソンパス(通称マリ・ラオス)、１年生クリスチャン・デイヴィッド(フィリピン)を受け入れている。今年度２人は英語科の授業を中心に出席しており、比較的時間割の余裕があったことから、マリを同じ２年生の世界史 B の授業に出席させ、東南アジアに関する授業を英語科との協働で行おうと計画した。

2. 実践

(1) 実施日時　令和元年 10 月 10 日(木), 11 日(金), 17 日(木), 18 日(金)

(2) 実施形態　世界史Ｂ ２年アカデミック講座に AFS 留学生マリを招き、グループワークやペアワークに参加させる。

(3) 指導案（1/4）

第２学年　クロスカリキュラム「世界史Ｂ」×「英語」授業プラン

授業者　教諭　林　裕文、塩田　陸

1 日時	令和元年 10 月 10 日(木)　7 校時(15：55～16：45)【50 分】(1 回／4 回)
2 対象	２年選択科目履修生徒　15 名＋留学生 Mali
3 場所	２年３組教室
4 教材	第６章　東南アジア世界（Chapter6 The Southeast Asian World）
5 目標	● 東南アジア世界に関する基本的事項（国名・気候・地域の特徴）を理解する。 ● ラオスの歴史に関する発表を聞き、ラオスの文化的特徴を理解する。
6 授業デザイン (授業のみどころ)	○ 質問づくり 留学生 Mali のプレゼンテーション資料をもとに生徒が「問い」を表現し、グループでその表現を見直して英訳し、質問を作り替える。(質問の表現を磨くことで、その後の課題の追究で得られる知識の質が深化する。また、開いた質問（Open Question）から閉じた問い（Closed Question)に転換する際に、「歴史的な見方・考え方」が発揮される。 ○ クロスカリキュラム（英語×世界史） ２時間目以降は『英語で読む高校世界史』(講談社）のテキストを用いて、東南アジアが東アジアと南アジア世界（遙か西方のヨーロッパ世界）からの交易拠点（港市国家）を形成する過程を学習する。また、東南アジア地域における宗教の伝播の過程について学習する。

思考・想像力
表現・発信力
他者との協働力

7 評価基準	○　留学生マリの出身地であるラオスの歴史に関するプレゼンテーションを聞き、歴史的な見方・考え方を働かせながら、問いづくりを行う。【興味・関心】【思考・判断・表現】 ○　東南アジア世界に関する基本的事項（国名・気候・島嶼部と大陸部の地域の特質）を理解する。　【知識・理解】

8 本時の授業の要点

段階	概要(分)	注意事項等	評価
導入 （10 分）	＜生徒の主な活動＞ ①　グループ分け（3 分） ②　アイスブレイク（7 分）	＜実施上の配慮事項や工夫したことがらなど＞ ・トランプを引き、4 人×4 グループを作る。 ・東南アジアの国名をあげさせ、ビンゴを行う。国名の読み上げは Mali が行う。	【知識・理解】
展開 （3 5 分）	③　本時の学習に関する説明を聞く（林）（5 分） ④　ラオスの歴史に関するプレゼンテーション発表 by Mali を聞く。（8 分） ⑤　グループに分かれて、質問づくりを行う。（5 分） ⑥　質問を各班 2 つに絞り、グループからでた質問の吟味を行う。その後質問文を英訳する（塩田）（7 分） ⑤　Mali に質問する。（1 0 分）	・質問づくりの方法を簡単に確認する。発表の内容から Mali に質問したい内容についてメモをとるように促す。 ・Mali の発表を聞く。 ・生徒は質問の候補をメモする。 ・書記を一人決め、グループで問いを思いつく限り書き出す。 評価しない・発言のまま書き出すことを確認する。 ・開いた質問を閉じた質問に変換する過程で、歴史的な見方・考え方に関わる問い【いつ（時系列）、なぜ（事象間の比較・推移）、どのように（事象間の因果関係）】を明確にさせる。	【興味・関心】 【思考・判断・表現】
まとめ （5 分）	・リフレクションシート の記入　（5 分）	・併せて、次回の授業の予告を行う。	リフレクション シートによる評価

3. リフレクション・考察

地歴公民科の観点として、異文化理解に対して、「自分事」として歴史学習にとりくめるという効果が期待できる。従来行われてきた通史学習では年代や地域を縦横に並べて網羅的に学習するスタイルが一般的であり、学説・研究史からも西洋中心主義批判が叫ばれてきた。東南アジアについて学習することは、昨今の国際化に対応するためにも重要なことであるが、素朴な分類学的な通史網羅学習では、旅行やテレビのクイズ番組を見るときに役に立つ程度の知識しか学習することはできない。中谷功治（関西学院大学教授）氏は「人文学は、あなたが興味や好奇心を持たないと、どうしようもない学問」だと指摘し、私自身は歴史学習の面白さを「興味・関心」のレベルから「学問」レベルに引き上げる方法を模索している。

今回のクロスカリキュラムでは、社会科学習における「歴史的な見方・考え方」を働かせて歴史的事象を考察する視点は足りなかったように思える。それでも、東南アジアの本格的な歴史学習に入るにあたって、地理的な見方を働かせたり留学生の発表から日本と東南アジアの共通点や差異について考察しながら学習を進める視点は英語科の CLIL の考えに相通じる考え方であることを発見できた。

次に、英語科 CLIL の観点からプロジェクトを振り返る。CLIL とは Content and Language Integrated Learning（内容言語統合型学習）の略語であり、内容（教科学習、時事問題、異文化理解など）と言語の両方を学ぶ教育方法である。

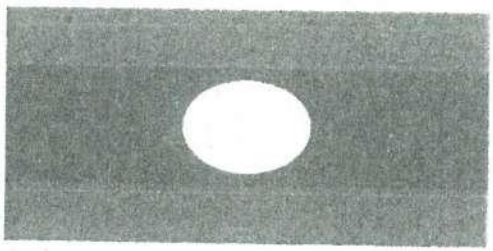
CLIL 型の授業では、4 つの C を意識して授業を組み立てる。4 つの C とは、Content（科目やトピック）、Communication（単語・文法・発音などの言語知識や読む、書く、聞く、話すといった言語スキル）、Cognition（様々な思考力）、Community ないし Culture（共同学習、異文化理解、地球市民意識）を指す。

今回のプロジェクトは CLIL 型として、生徒の 4 つの C が十分に意識されていたと言える。特に根拠となる活動や視点は以下の通りである。

① 異文化理解や国際問題の要素を入れる
② 様々な思考レベル、特に理解、分析を活用させる
③ タスクを多く与える
④ 協働学習を重視する
⑤ 視覚資料等の言語外情報情報を与える

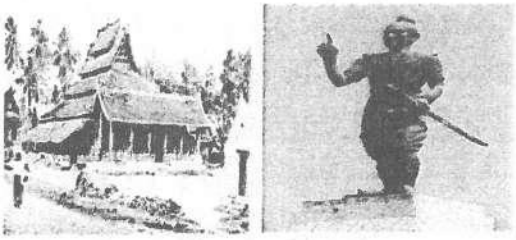
①について、1 時間目のはじめに、異文化理解活動としてマリの母国ラオスの文化についてプレゼンテーションをさせた。

LAO FLAG AND LAO SIMPLY

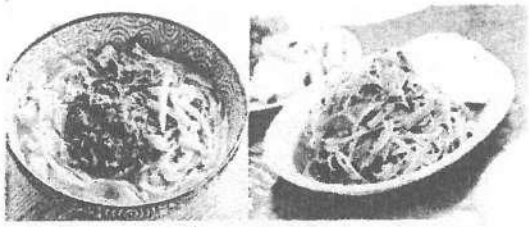


HISTORY　歴史

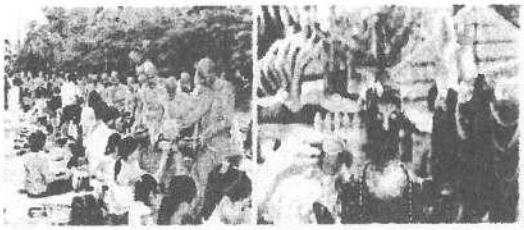
RELIGION AND KING　宗教と国王



FOOD　食物



CULTURE　文化



CLOTHES　ふく

普段日本にいるとなかなか伝わってこないラオスのことについて英語でプレゼンテーションを聞いたことで、東南アジアの国の様子を知ることができ、国際語としての英語の広まりを感じることができた。また、発音体系の違いを感じ取ることも進んでいる。(Sh→Ch に聞こえるなど)

②について、３時間目・４時間目には英語科教員の読み上げる英語を聞いて、T・F クイズによる豆テストを行っている。これは、リスニング活動として、音を聞き取るということと聞いた内容に意識を向けさせること両方を意識した活動といえる。音が聞こえただけでは正解することのできないという点で、生徒は理解・分析スキルを多用している。また、マリに対する質問を考える１時間目では、聞き取ったり調べたりした情報を分析し、自分が疑問に思ったことを Open Questions (5W1H)から Closed Question(YES/NO)に落とし込む段階で、理解を深めていた。

③について、地歴科の視点からさまざまな活動(タスク)を生徒に与え、生徒は日本語と英語両方の言語を用いて、すべてのタスクに真剣に取り組んだ。例えば、英文のテキストを読んで地図から地名を探したり、プレゼンテーションを聞き、その情報を元にマリに質問をしたりする活動を行った。

④について、世界史の普段の授業をベースにしたため、授業の始まりから終わりまでの段階すべてがペアもしくはグループでの活動になっていた。生徒は英語で準備された膨大な情報量を日本語で書かれた普段のテキストを駆使しながら、互いに役割を分担して取り組んでいた。マリとペア・グループを組んだ生徒も、視覚情報を活用しながら積極的にコミュニケーションを求めていた。

⑤基本的に、地歴科のテキストには視覚情報が多く、マリが日本人のクラスメイトに対して行ったプレゼンテーションも基本的には写真を中心としたものであった。生徒は、地図を見ながら日本語・英語の両言語で地名を探したり、資料や語源の知識を活用して、比較的レベルの高い語彙の意味を類推したりしていた。また、実際の香辛料のにおいをかいだりすることで、言語外の情報を活用して内容・言語の記憶への定着が進んだ。

4. 今後

地歴公民科として、留学生とともに世界の歴史を学ぶ活動は今後も続けていきたいと考えている。当初は本校の生徒に東南アジアの歴史を留学生と一緒に学びたいという軽い気持ちで学習を始めた。マリに「ラオスの文化と歴史」をまとめさせるにあたって、どのような視点で自分の国を伝えるかについてあまり指導をせず、自由にプレゼンをさせた。このプレゼンをより歴史的な見方・考え方を働かせ、日本との共通点や相違点をより意識しながら作成させることが必要であろうし、留学生自身がここに至るまでどのような歴史教育を受けてきたのかをきちんと確認したうえでプレゼンをさせるべきだったと反省している。次年度も継続していくために、留学生と本校の生徒がよりよい歴史学習に取り組んでいけるように研鑽を積んでいきたい。

英語科として、今後もさまざまな教科と協働していきたい。単なる言語活動の材料として進めてしまうような題材や、中・長文として読み流してしまうような普段のテキストにも、今回のような協働授業のように取り組めば、より内容に焦点を当てて熱心に取り組めるようになると考えられる。実際、「南極大陸」を取り上げる3年生の授業では、南極の地理的特徴や歴史的背景を調べさせ、いくらか英語化をさせた後に長文問題に取り組ませた。統計をとったわけではないが、普段の長文よりも主体性を持った取り組みの生徒が多く、新出語を機械的に導入して読ませるよりも生徒の正答率は高かった。中学校のグローバルスタディでも CLIL を行い、実際に数学(算数)を取り扱った。英語の教科書ではカバーしきれない生活英語*を多く定着させる大変有意義な機会となっており、より主体的・創造的・協働的な学びへとつながる可能性がある。学校全体での取り組みが進めば、将来的には国際バカロレアレベルまで高めていくことができるようにも感じられた。

*教科書では街中の道案内まで。グローバルスタディでは室内の案内を取り扱った。また、教科書にない数字の計算表現や、教科書より詳細に病状を伝える病院での会話なども扱っている。

書籍

『英語で読む高校世界史』　講談社
『歴史世界としての東南アジア』　桃木至朗　山川出版社　(英語科教員用)
『フォーカス・オン・フォームと CLIL の英語授業』　和泉 伸一　アルク選書
『CLIL(クリル) 内容言語統合型学習 上智大学外国語教育の新たなる挑戦 第1巻 原理と方法』
渡部良典・池田真・和泉伸一　ぎょうせい

URL

https://primary.cliljapan.org/what-is-clil/

第3分科会「総合的な探究の時間での協働～地域協働・外部連携～」SGH実践レポート
発表者　長谷川勇紀・本田詩織・小椋ももこ・横山和毅

1　実践テーマ

①地域協働　～「未来創造探究」における協働・連携～
②民間連携　～「課題研究」（株式会社大戸屋）における協働・連携～
③NPO協働　～「放課後」（双葉みらいラボ/NPOカタリバ）における協働・連携～

2　実践のねらい（実践を通してどのような効果の発生を期待するのか）

①地域協働：よりよい学校教育を通じて、よりよい社会を創るという目標を持ち、未来を生き抜く生徒たちに求められる資質・能力を、地域との協働を通して、リアリティを持って身に付けていく。
②民間連携：産学連携を通じて、生徒に社会との繋がりを意識付けさせ、社会の一員である自覚を持たせ、望ましい職業観、人生観、勤労観や価値観を自分なりの見方で形成させ、社会的移行の準備を促す。
③NPO協働：放課後の時間や探究学習の実践などにおいて、その外部の専門性を借り、学校との効果的な協働、役割分担の中で、生徒の学びの土壌を耕していく。

3　実践の概要

①地域協働：2年次「未来創造探究」（122名）
「ヒューマンライブラリー」「ゼミ別活動」「発表会」の実践（通年）
②民間連携：スペシャリスト系列農業選択3年次「課題研究」（5名）
株式会社大戸屋とのアクティブラーニング型（PBL）授業の実践（通年）
③NPO協働：全学年対象「コラボ・スクール双葉みらいラボ」
設置要請から、「技術室」「プレハブ」「新校舎」への活動の変遷

4　実践の成果　※詳細別紙参照

①地域協働：「ルーブリック」と「活動のポートフォリオ」で成果測定
②民間連携：経済産業省「社会人基礎力」で成果測定
③NPO協働：「生徒向けアンケート」にて成果測定

5　今後の課題（分科会で対話したいこと）

・外部リソースのより良い活用方法
・協働における学校や教員のあり方、関わり方

SGH研究成果発表会
「第3分科会～地域協働・外部連携～」

～福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校～

○全体進行
双葉みらいラボ　拠点長　　長谷川勇紀

▸第1事例「未来創造探究」
学校支援コーディネーター　本田詩織

▸第2事例「課題研究」
スペシャリスト系列
農業科教諭　　小椋ももこ

▸第3事例「双葉みらいラボ」
双葉みらいラボ　スタッフ　横山和毅

「地域協働・外部連携」の分科会では、

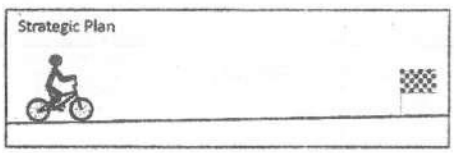
「外部リソースのより良い活用方法」について、

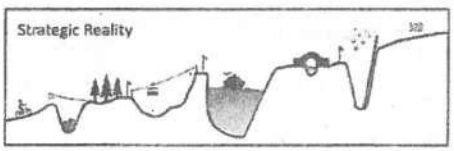
参加された皆さんと一緒に検討します。

生徒にとって、
「地域協働」「外部連携」は、
なぜ必要なのでしょうか？

経験的に学ぶことによって、はじめてわかる壁　KATARiBA

理想と現実

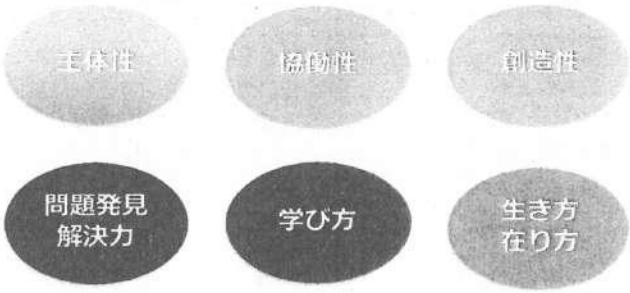


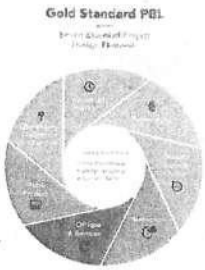


※H31年4月17日 若手の高校教師を考えるフォーラム 島根大学 中村佳祐氏の資料より

「総合的な探究の時間」の学習指導要領を読み解くと

探究的な学びを通して、身に付けたい力





プロジェクトをデザインする際に必要な要素

・Authenticity（真正性、信頼性）

When people say something is authentic, they generally mean it is real or genuine, not fake. In education, the concept has to do with how "real-world" the learning or the task is. Authenticity increases student motivation and learning.

※BUCK INSTITUTE FOR EDUCATIONより引用

https://www.pblworks.org/blog/gold-standard-pbl-essential-project-design-elements?fbclid=IwAR2Ym6L1K9Ym_dbWKgqw1bJ8bNvUzDYb1vUzDb_nnaaeY_kuB6ZOwzQg1e

7

そんな「地域協働」や「外部連携」を通じた学習活動は、地域にとって、どんな効果があるのでしょうか？

→生徒の「地域の応援団」に聞いてみた。

8

3つの事例紹介

1、地域協働
～「総合的な探究の時間」における協働・連携～

2、民間連携
～「課題研究」における協働・連携～

3、NPO協働
～「放課後」（教育課程外）における協働・連携～

2020 Aiguchi-cho Special Human Rights Corporation KATARIBA

9

ふるさと創造学・未来創造探究

地域をフィールドに、地域の課題を教材に、
その解決の過程を通して汎用的なスキルを身に着けたり、自分自身の生き方あり方に繋げていく、地域課題解決型プロジェクト学習

○ **3年間の探究学習の全体像**

ステップ	1年生 復興に向けて 複雑な地域課題を 多面的に理解する	2年生 復興に向けた 地域課題解決の 探究と実践	3年生 復興に向けた 探究成果発表と 自らの進路実現
授業名	ふるさと創造学 (産業社会と人間) [2 単位]	未来創造探究 (総合的な学習の時間) [3 単位]	(総合的な学習の時間) [3 単位]

10

未来創造探究（2、3年次）

2年次以降は6つのゼミに分かれて課題解決の探究と実践に取り組む。

原子力災害探究
原子力災害によって失われた地域コミュニティの再構築について研究する。

町村の祭りを復活させる
双葉郡ツアーの企画など

グローバル探究
海外を含めた、異文化の方々に向けた情報発信やコミュニケーションの有効な方策を研究する。

双葉郡のイメージ改善
中高交流会の企画など

新生活創造探究
福島の現状を踏まえた、望ましい人間社会と、地球環境やエネルギーの関係性について研究する。

太陽発電
地力発電など

アグリビジネス探究
福島の復興につなげる、今後の農林とビジネスを研究する。

8町村の特産品を用いた
商品開発など

スポーツ健康探究
福島の地域を、スポーツを通じて豊かにする方策を研究する。

ワィレッジからの地域連動
広野町運動会の企画など

福祉と健康探究
福島の地域において、少子高齢化が加速する中での健康長寿の実現の方策を研究する。

認知症と健康
高齢者・子供の地域内交流など

11

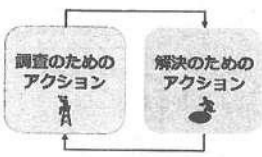
「未来創造探究」のステップ

高2・4月～10月

生徒1人1人が、
自分の探究テーマを設定
最も重要だけど、難しい！

高2・11月～高3・9月

探究テーマを進めていく
✓ **アクションを起こす**



高3・10月～1月

発表会・論文作成
✓ **これまでの取り組み**
✓ **今後に向けて**

12

ヒューマンライブラリーによる「テーマ設定」

「ヒューマンライブラリー」
地域の大人の話を聞きなら、取り組むテーマを検討する

「人の力」は偉大だった。

地域の大人のもとに足を運び、自分のテーマについてアドバイスやヒアリングに協力してもらう

【気づき】
・ヒューマンライブラリーに来た保育支援員の女性Sさんの話を聞いて「町おこしって、めちゃ大事だ！」と共感した。

【テーマ設定】
・双葉郡の地域活性（町おこし）のために頑張っている人たちをインタビューして、写真に収めたい。間子が写真屋にして形にしたい。
・町づくりしている人から見て、双葉郡はどんな地域なのかを知りたい。

夏休みに訪問

Sさんのお話、本当にナ双町がたいすきなんだなっていうことがたくさん伝わってきました。大熱中のい小所はなんですか、と聞いた時に真っ先にナ双町のおじいさん達のことを[illegible]くれました。この言葉、とても印象的なっ[illegible]
[illegible]ました。又[illegible]
[illegible]という思いから、やる気がふつふつとそこで[illegible]と思います。[illegible]により、みんなが思い思いにひっくりしました。パトロール中のおじいさん達とおしゃべりしてくださる。当たり前のように「お疲れ様です。」と言っているところ。わたしたちが住んでいるところではほぼ見ないと思ったので新鮮でした。

あこがれの連鎖

各ゼミごとの活動

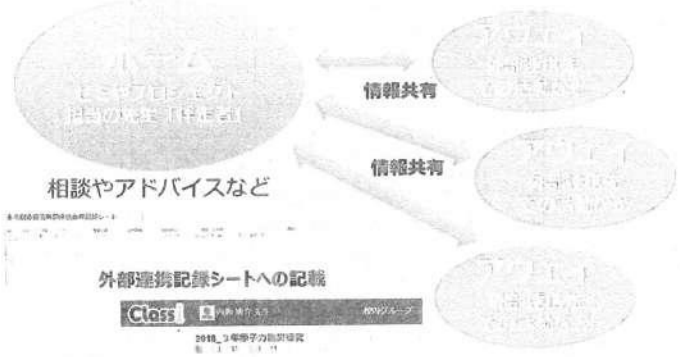
ゼミ単位や個人単位で、フィールドワークに出かけるなど、
自分の興味と重なる課題を探していく

プロジェクトの相談

学校内（みらいラボ）で自由に打ち合わせを実施

プロジェクトの相談

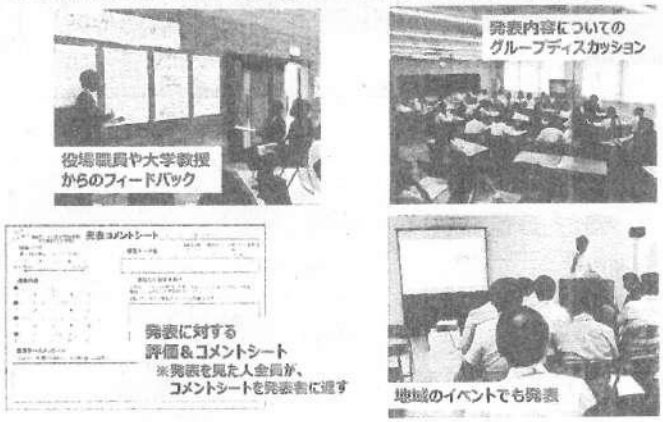
ホームに情報が集まる仕組みをつくる



Classi（オンライン）上での生徒との情報共有

発表会によるフィードバック

発表会を設定し、外部からの視点で、学びを客観的に再構築させる



探究授業での自分の変化・探究授業はどんな授業？

▼コミュニケーション・協働するスキルの向上

周りの大人の方とコミュニケーションがとれるようになった

▼結果としての、地域への愛着心の芽生え

・地域のことを考えるようになった。
→前まで考えていなかった。

地域のための活動をしたいという思いが出てきた。
自分の興味とかから具体的な案が出たり、地域を中心に考えられるようになった。

19

探究授業での自分の変化・探究授業はどんな授業？

▼「考える」という癖がついた

▼自分のことも、地域のことも、考える

うまくしっかり取り組めば地域だけでなく自分も向上できる。
それに、大学に行ってやりたいことも関連させれば、すごいいいものになる。

・自分にとっても地域にとっても良い授業。

20

失敗からの学び

・当初、外部専門家を位置付けていたけれど、
あまり活用されなかった。
→「関わりどころ」をつくることが大事。

・「色々な生徒から何度も連絡が来る！」と、
地域の方からお叱りをうける・・・。
→関わり初めの事前の連絡は大切（根回し）
同時に、生徒の状況（課題）も丁寧に共有する。

21

3つの事例紹介

1、地域協働
～「総合的な探究の時間」における協働・連携～

2、民間連携
～「課題研究」における協働・連携～

3、NPO協働
～「放課後」（教育課程外）における協働・連携～

22

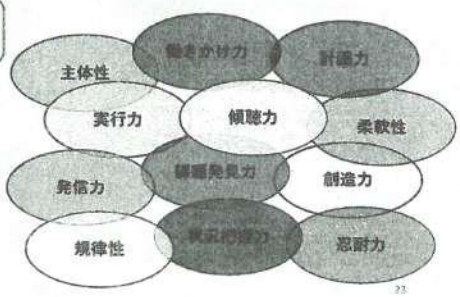
株式会社大戸屋ホールディングスと連携

大戸屋 ごはん処 OOTOYA

FUTARA FUTURE SCHOOL

社会基礎力人／経済産業省

12の能力要素を評価基準に



23

リフレクションシート

授業のリフレクション	4・完成よくできた　3・できた　2・あまりできなかった　1・できなかった	
主体性	授業に進んで取り組んだ。	4・3・2・1
働きかけ力	他者へ協力して、授業に取り組んだ。	4・3・2・1
実行力	自ら目的を設定し、行動することができた。	4・3・2・1
情報発見力	自ら問題を分析し、課題を発見することができた。	4・3・2・1
計画力	目標の解決に向けたプロセスを組みたて、実行することができた。	4・3・2・1
創造力	新しいアイディアを創出することができた。	4・3・2・1
発信力	自分の考えを他者に分かりやすく伝えることができた。	4・3・2・1
傾聴力	相手の意見を丁寧に聞くことができた。	4・3・2・1
柔軟性	意見の違いや感覚的な出来事にも、柔軟な対応し意見に対応することができた。	4・3・2・1
状況把握力	自分を客観的に見ることができて、周囲の人々や社会との関係性を理解することができた。	4・3・2・1
規律性	社会のルールを理解し、人との約束を守ることができた。	4・3・2・1
忍耐力	うまくいかないことがあっても、最後まで諦めずに取り組むことができた。	4・3・2・1

評価基準
A(4点)…よくできた
B(3点)…できた
C(2点)…あまりできなかった
D(1点)…全くできなかった

相互評価をする人の名前

生徒評価	先生評価
カリキュラム評価	外部評価

他者からの評価を取り入れることでメタ認知を図る。

24

年間計画

	一期目 商品開発		二期目 商品開発
4月	[illegible]	10月	[illegible]
5月	[illegible]	11月	[illegible]
6月	[illegible]	12月	[illegible]
7月	[illegible]	1月	[illegible]
8月	[illegible]	2月	[illegible]
9月	[illegible]	3月	[illegible]

一期目 授業の様子

はじめてのおかずづくり

はじめての定食づくり

定食試作

テレビ会議の様子

聞き込み調査

「煮物の量が多すぎる」 → **技術指導**（量、彩り、バランス）

「オリジナリティがない」 → **社会の厳しさ**（主体性、創造力、忍耐力）

完成したメニュー

第一弾コラボメニュー ふるさとおうちごはん

第二弾コラボメニュー ふるさとおうちごはん

二期目 授業の様子

二期目の授業のゴールは…

コンセプト・メッセージを考える

⇒世の中や人々に何を伝えたいか、自分たちにできることは何か考える

生徒の授業感想

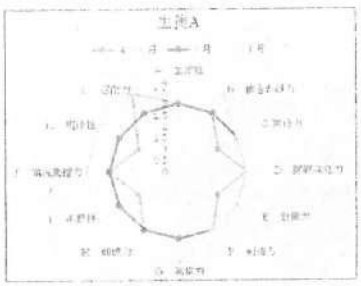
「2年生との意見交換は、自分でも工夫できない意見が出たのでとてもためになった。」

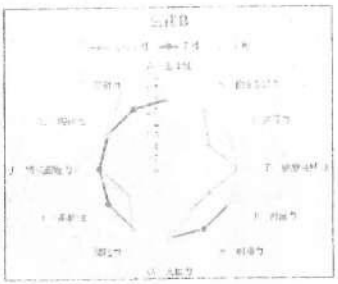
「他の人の意見が、自分とは違う視点で考えていて、とても勉強になった。」

「おいしいではなく、特徴がないとお客様に興味を持ってもらえないので、商品を考える難しさを知りました。視野を広げて考えるようにしたいです。」

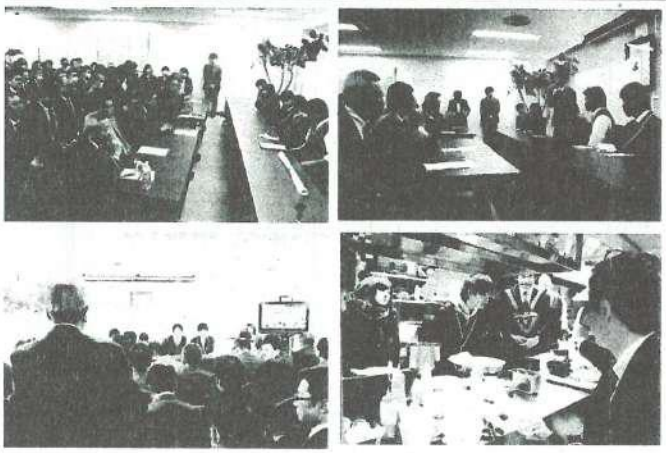
経済産業省「社会人基礎力」の12の力を身に付けさせる。

A 主体性／B 働きかけ力／C 実行力／D 課題発見力／E 計画力／F 創造力／G 発信力／H 傾聴力／I 柔軟性／J 情況把握力／K 規律性／L 忍耐力





本社訪問の様子



失敗からの学び

・目線合わせが大事！

→事前に教科や科目の特性や生徒の実態、身につけさせたい力を共有させる。

・教員も不安に…

→良き理解者になってもらう。

3つの事例紹介

1、地域協働
～「総合的な探究の時間」における協働・連携～

2、民間連携
～「課題研究」における協働・連携～

3、NPO協働
～「放課後」（教育課程外）における協働・連携～

双葉みらいラボ　KATARiBA

ナナメの関係に溢れた、自分の未来を創るための実験の場

コラボ・スクール 双葉みらいラボ

© 2019 認定NPO法人カタリバ

■施設概要

対象　：福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校に通う中学生、高校生

設立　：2017年6月～　※2019年3月までプレハブ校舎にて運営

運営　：認定NPO法人カタリバ

所在地　：〒979-0408
福島県双葉郡広野町中央台１丁目 6番地３
福島県立ふたば未来学園中学校・高等学校　地域協働スペース内

開館日　：平日の放課後～20:00

スタッフ：職員６名、学生インターン４名

活動内容：居場所運営／学習支援
体験プログラム／学校・地域連携プログラム
放課後探究活動支援／マイプロジェクト

■放課後の学びの場の設置について（2016年設置構想当初の検討格）

困難な環境に育つ福島の子どもたちへ、
未来を創る「放課後の学びの場」を提供する。

福島県双葉郡は、東日本大震災による津波被害だけではなく、福島第一原子力発電所の事故により、いまだ人類が経験したことのないような甚大な被害を受けました。震災から6年が過ぎたいまも尚、多くの住民、子どもたちが故郷を離れ、避難生活を余儀なくされています。また、震災により、双葉郡に元々あった5つの高校は、授業再開の目途が立たなくなり、2017年3月末に全て休校しました。2017年4月以降、郡内にある高校は、2015年4月に設立された「県立ふたば未来学園高等学校」のみとなり、2017年4月、初めて全学年が揃った中での新年度がスタートしました。
この県立ふたば未来学園高校に通う生徒は、主に下記2つの課題を抱えています。

学力格差 × **心のケアの必要性**

- 避難生活による過度な緊張の過ぎや、それに伴い自信喪失した生徒がいる。
- 周辺には塾もない、きめ細やかな支援が必要。
- スクールカウンセラーからは自己肯定感が著しく低い生徒がいると連絡を受ける。
- 避難により自分を責める風潮が失われており、出来る限り寄り添い対応が求められる。

このような、生徒個々人が抱える喪失感を乗り越えるために、生徒たちが安心して学んだり、未来に思いを馳せたりすることが出来るような、高校併設型の放課後の学びの場を設置したいと考えています。

■双葉みらいラボの位置づけ

	学校教育	学校教育と社会教育の接点（双葉みらいラボ）	社会教育
教育目標	自ら・地域・社会を変革していく「変革者」の輩出		
育ませたい資質・能力	新価値		地域主体力 表現力の向上
教育活動		NPOカタリバ ～意欲と創造性をすべての10代へ～ 1. 個別支援への対応 2. 心のケア　居場所づくり 3. 学習支援 4. 創造的な学びの機会提供 ①探究心の発見　きっかけづくり ②プロジェクト伴走、創造性の開花	

「ふたば未来学園」支援事業（カタリバ/ふたば拠点）の歩み

ふたば拠点 1.0

■支援実績～立ち上げ実績

∨

ふたば拠点 2.0

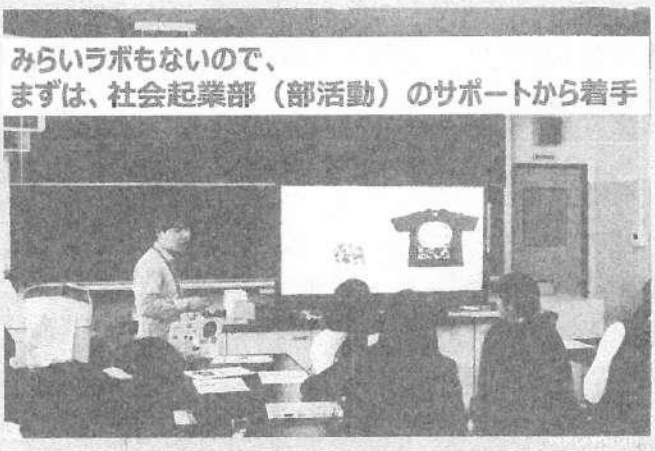
■双葉みらいラボ設立

∨

ふたば拠点 3.0

■新校舎での活動開始。そして…？

新たなスタートラインに立った



みらいラボに通い続ける理由

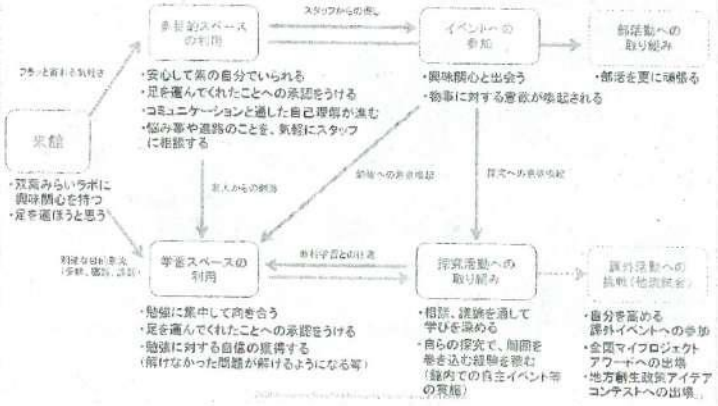
1位

2位

3位

目指したい生徒意識の流れ

□ 生徒の日常の悩みや相談などを受け止め、本音が話せる温かみのある居場所と位置付ける
□ その上で、校内の学びに生徒が主体的になっていくきっかけを届ける



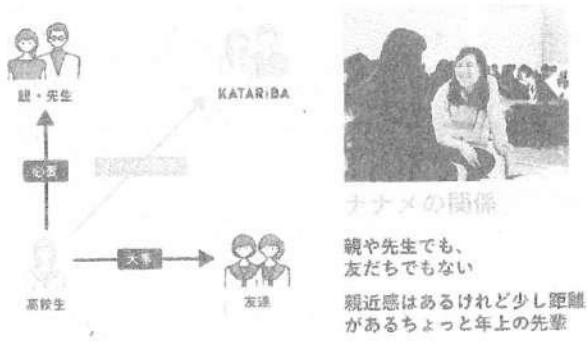
地域の人を交えて、100人で新校舎みらいラボを議論

2019年4月。再度、学校内に場所を移し、新生みらいラボがスタート

2019.10.27 地域に開いた公開文化祭
技術室から始まった みらいラボは、生徒・地域・先生、
それぞれが関わる居場所になってきています。

■地域とナナメの関係

すべての活動の軸となるナナメの関係



■みらいラボを利用することで自分の中で起きた変化は何ですか？

▼ポジティブマインド

明るくなれた

ちょっとだけ頑張ってみようって思えるようになった

全体的にマイナス思考が減ったことが多かったけど前向きに考えれるようになった。

▼勉強の意欲が向上

悩みがなくなったりテストで良い点とれた!!

勉強に意欲が出たこと

■みらいラボを利用することで自分の中で起きた変化は何ですか？

▼将来への見通しを持つ

将来や、進路、地域のことについてより考えるようになった。

将来に自信をもてた

▼出会いからはじまる変化

南部麻衣さんとのつながりができたから

様々な人の職員との出会いで自分の夢や目標に向かって頑張ってみようになった

▼技術室に戻りたい・・・（まだまだ改善の日々）

技術室に戻りたいなぁが施設にないからだ。

つぶやいてください。 前のようにホームが戻ってほしいと

失敗からの学び

・カタリバと先生たちとでお見合い・・・。
（お互い、どのように関わっていけば良いか暗中模索）
→生徒の情報を丁寧に共有していった。
生徒を中心に、この場の活用法を模索した。

・不審者、来館！（多様性を取る上でのリスク）
→守ってくれる地域の顔見知りの人を仲間に。
生徒自身でも自主防衛の促し。

まとめ

地域協働・外部連携の活動を通して見えてきたポイント

1、外部の人は「お客さん」ではなく「仲間」。

2、「生徒の学び」と「連携先の活性化」のバランス大事。
（持続的な教育活動にしていくために）

3、「広報発信」による周知。声がかかることを仕掛ける。

4、「協働している」ということの「校内情報共有」。
（学校内調整の負担減・生徒の応援体制の構築）

5、「コーディネート機能」という役割の重要性。
（教員間での役割分担・外部コーディネーターの活用）

よくあるQ&A

Q&A

Q：連携のきっかけは？

Q：引率はどうしてるの？

Q：活動時間は十分足りている？

Q：協働や連携は負担じゃない？

Q：うちの学校は、どこから手をつければ良いやら・・（コーディネーター不在）